

東海大學
日本語言文化學系碩士班
碩士論文

日本統治時代を経験された台湾高齢
者
における終戦後日本語使用の動向
—台北市の老人服務中心日本語関連学習者/
玉蘭莊/非所属者を中心に—

指導教授：林嘉惠 副教授

研究生：本間裕之

中華民國 102 年 6 月

【摘要】

1945年隨著戰爭結束而迎來光復的台灣，從1949年頒布戒嚴令開始到1987年解嚴為止除了在教育機關與公眾場合限制使用日語之外，亦實施了以北京話為新的國語之中文教育。但是，在解除戒嚴後，日語的使用日漸頻繁起來，如今台灣甚至已被視為是親日國家。不過筆者從小住在外公、外婆位於台灣北部的家，親眼見到當地的親日現象以及數次在特定紀念日時所表現出的反日情緒，對這些有著強烈對比的對日情感一直感到困惑。外公、外婆與他們同輩的友人雖然歷經日本殖民時代與限制使用日語的時期，到現在為止仍能說得一口如母語般流暢的日語。因此，就他們對日本的觀感以及為繼續使用日語而在不同環境去接觸日語之日語使用動向，筆者訪問了高齡者的學習機構(A 群組)、以日語為主要語言之日托中心(B 群組)，以及個人私人環境中，會與家人、朋友說日語的人(C 群組)各10人，共計30人。而透過分析每個群組在下列各項目中，從戰後至今使用日語之動向，並分析其共通點與相異點，在當時曾使感筆者困惑的台灣對日情感，首先以經歷戰前日本殖民時期之本省籍高齡者的視角來被闡明。

- ① 從戰後光復時期迄今之日語使用狀況變化。
- ② 是否教授自己的孩子日語？
- ③ 對現在常去的、或知道是以高齡者為對象之設施的相關感受。(設施之優缺點/希望增加相關設施)
- ④ 除現在常去的設施外，是否也有去其他可使用日語的場所？
- ⑤ 關於平時日語的使用環境，以及以高齡者為對象、使用日語的設施。
- ⑥ 關於日文書籍之利用。

從以上各項可了解到，光復時期後即使日語的使用有受到若干限制，但卻未被中斷。而關於到目前為止仍繼續使用日語一事，筆者則透過訪談了解到保有與戰前曾受過日語教育的人之間的羈絆及見證。另外，現在的日語教育面向上正因此時代背景而更需考慮。針對適合戰前與戰後高齡者的教學法，以及高齡者所期望的較容易了解、閱讀之教材編輯問題都將是日後高齡者日語教育中非常重要的一環。此外設置可說日語的公共機構對於將日語當成母語般的高齡者們來說，不但能建立新的生活圈，也將能成為一個交友的場所。

【關鍵字】 戰後語言使用 戰前本省籍高齡者 戒嚴令
老人服務中心日語高齡學習者 玉蘭莊

【要 旨】

1945年の終戦と同年に光復を迎えた台湾は、1949年の戒厳令の実施から1987年の戒厳令が解かれるまで、教育機構や公の場における日本語の制限、そして新しく国語となった北京語の教育が進んで行われた。しかし、戒厳令が解かれてから、徐々に日本語の使用が頻繁となり、今では親日国と言えるまでとなった。しかし、幼い頃から台湾北部における台湾人の母方の祖父母の家に移住した筆者は、現地における親日感や、特定した記念日における反日感情の表れを幾度も目の当たりにする事で、その対照的な対日感情に惑わされつつあった。そこで、日本植民地時代の経験、そして日本語を制限された時期に遭ったにも関わらず、今に至るまで、日本語を母国語のように流暢に話す母方の祖父母や同年輩の友人における対日観や、日本語を続けるために、異なる環境で日本語に接する日本語使用の動向を、高齢者の学習機構（Aグループ）、日本語を主要言語として活動をするデイケアセンター（Bグループ）、そして私的な環境で、家族や友人同士と日本語を話す（Cグループ）における各10人の計30人にインタビューを行った。そして、以下の各項目におけるグループごとの戦後から今に至る日本語使用の動向、更にその共通点や相違について分析をする事で、筆者が当時、惑わされていた台湾における対日感情を、まず日本植民地経験者である戦前本省人高齢者の視点から解明をする。

- ①終戦後の光復時期から今に至る日本語の使用状況の変化。
- ②自分の子供に日本語を教えているか。
- ③今通われている、または知っている高齢者を対象とした施設についてどの様に感じているのか。（施設における良し悪し/関連施設の増設希望）
- ④今通われている施設以外に、日本語を使用する場所に行っているか。
- ⑤普段の日本語の使用環境や、高齢者を対象とした日本語使用施設について。
- ⑥日本語の図書利用について。

以上の各項目から、光復時期から、所々で日本語の制限はあったが、途絶える事は殆どなかった。そして今に至るまで日本語を話し続ける事は、戦前に日本語教育の経験をされて来た人との絆や証を保つ為にあるという事も、インタビューを通じてわかった。また、日本語の教育面では、今の時代であるからこそ考える、戦前や戦後高齢者に合った各年齢層の指導法や、高齢者が希望する比較的分かりやすい、そして見やすい教材の編集は、今後の高齢者日本語教育には大事である。また、日本語が話せる公共の場の設立は、日本語を母語のように親しむ高齢者同士にとって新たな生活圏、そして交友の場になるだろう。

【キーワード】 戦後言語使用 戦前本省人高齢者 戒厳令
老人服務中心日本語高齢学習者 玉蘭荘

[Abstract]

In Taiwan, which was liberated at the same year when the World War II ended in 1945, during the martial law from 1949 to 1987, the use of the Japanese language was forbidden in educational services or public places, and the education of Mandarin Chinese that has become a new mandarin was gradually developed. However, the use of the Japanese language has been used increasingly since martial law was lifted in 1987. Nowadays, it can be said that it's becoming "Japanolatry". Whereas for me, who moved to live with my Taiwanese grandparents on my mother's side in the northern part of Taiwan since I was very young, I could feel both the local pro-Japanese attitude and the anti-Japanese motion in special anniversary days, and this kind of conflicting motion towards Japan kept puzzling me for a long time. So, in terms of the concept about Japan from grandparents on my mother's side and friends of the same age who experienced the Japanese Colonial Period and the period when the Japanese language was restricted, but up to the present, still can speak the Japanese language fluently like their mother tongue, and the use trend of the Japanese language in different environments in order to continue to develop the Japanese language, the author has carried out interviews with the following three groups of surveyed persons: persons from learning organizations of the elderly (A group); persons from day care centers, who use the Japanese language as their main communication language (B group); and persons who speak the Japanese language to their family or friends in their private environment (C group). 10 persons in each group were picked for the interview with 30 interviewees in total. Then, the author has firstly explicated the motion towards Japan in Taiwan which has puzzled the author, from the viewpoint of the local elderly before the war who experienced the Japanese colonial period, by analyzing the following items for each group in terms of the use trend of the Japanese language from the end of the war until nowadays, especially common and different points.

1. The change of Japanese usage from the re-taking period after the war till now.
2. Whether to teach the Japanese language to their children?
3. What they think about the institution for the elderly whom they are well with or they know. (whether the institution is good or bad/Hope in the addition of relevant institution?)
4. Except the institution where they used to visit, whether they go to other places where the Japanese language is used.

5. About the daily environment for the use of the Japanese language, and the institutions for the use of the Japanese language which serve the elderly.
6. About the use of Japanese books.

On the basis of each item above, despite the Japanese language has been restricted in many respects since the liberated period, it has never come to an end. In addition, the use of the Japanese language until now can be considered as an evidence and the bonds of persons who have experienced the Japanese language education before the war. Besides, in respect of the Japanese language education nowadays, the teaching method which is suitable for various age phases of the prewar and postwar elderly and the compilation of teaching materials that is easy to understand or read by the elderly are important links in the Japanese language education for the elderly in the future. In addition, it is expected that for the elderly who are intimate with the Japanese language just like their mother tongue, the establishment of public Japanese-speaking places may become their new life circle where they can make new friends.

[keywords] **the usage of language after the war**
the local elderly before the war
martial law
the elder japanese learner of senior center
taipei gyokulansou day care cente

【謝辞】

幼い頃に日本から、台湾の北部における母方の祖父母の家に移住した私は、台湾の日本人学校で小学校や中学校を卒業し、高校からは台湾現地の学校で進学をするうちに、今に至りました。そして台湾台中の東海大学日本語文化学系で、一緒に住んでいる母方の祖父母と同年齢層の日本統治時代を経験された高齢者に対して、終戦から今に至るまでの日本語使用動向を論文にする事は、私にとって非常に有意義な経験となりました。しかしこの経験を自分のものにするまで、指導教授である林嘉恵先生を初め、日本語文化学系内の先生方、そして助教方のご指導や支えなくしては、決して卒業への道は遠くなる一方だと思えます。特に論文の指導をして下さった、林嘉恵先生には感無量の思いでいっぱいです。時間がある限り私と討論を重ね、いつも論文が進んでいるか、気遣っていました。林嘉恵先生には今の謝辞を含め、指導の当初から今に至るまで、感謝の気持ちで一杯です。本当に東海大学日本語文化学系の先生方、本論文にご協力頂いた皆々様、本当にありがとうございました。

そして、本論文の研究対象である戦前本省人高齢者にインタビューを行う為、士林区士林老人服務中心、萬華区龍山老人服務中心で日本語のクラスやカラオケのクラスに通われている皆々様、温かく親切に接して頂いた皆様の笑顔を決して忘れません。そして両老人服務中心の事務員の方々、そして日本語関連クラスの指導者の方々、お忙しい業務や限られた休憩時間に、度々の質問に対応して頂き、本当にありがとうございました。

また、老人服務中心の他に、戦前を経験した高齢者が、気軽に日本語を話せる場として、玉蘭荘という宗教活動を共にしたデイケアセンターに定期的に通われている皆々様、いつもお会いする度に、私を自らの家族のように優しく声を掛けて頂いた和やかな雰囲気を決して忘れません。そして玉蘭荘の総幹事、そして幹事やボランティアの皆々様、玉蘭荘の一員として、何不自由なくインタビューに専念する事が出来、本当にありがとうございました。

以上、両施設の他に、自宅や生活圏で友人共に日本語を生活用語の一部として話されている本研究の所謂、非所属高齢者のインタビュー対象を見つける為、祖母を初めとする同年齢層の友人に、ご協力を頂きました。そして自宅までお招き頂いたことで、比較的落ち着いた環境でインタビューをする事が出来ました。また、インタビューに応じる中で、出来る限り、当時に起きた事を思い出そうとする、懸命な姿を決して忘れません。本当にありがとうございました。

そして本研究を進める中で、いつも影から見守って下さったのは、いつも家族でした。先に進めない不安定な情緒を、温かいお言葉で励まし、更なる困難に立ち向かう勇気を頂きました。家族の支えなくしては、今の成果は得られないと思えます。本論文にご協力頂いた皆々様、本当にありがとうございました。

【目次】

第1章 序論

1-1	研究背景・動機/目的.....	1
1-2	先行研究.....	2
1-3	研究対象（戦前本省人高齢者）の定義.....	5
1-4	研究対象 / 質問の方向性.....	6
1-5	研究方法.....	13

第2章 台湾北部の戦前本省人高齢者における日本語使用環境

2-1	台北市の戦前本省人高齢者数及び日本語使用の場について.....	18
2-2	老人サービス中心日本語関連クラスにおける学習傾向.....	18
2-2-1	日本語学習クラスの特徴及び学習傾向.....	18
2-2-2	指導者から見た高齢日本語学習者とは.....	19
2-3	『玉蘭荘』における実施経緯及び日本語使用の重視.....	25
2-3-1	解嚴後に設立された『玉蘭荘』とは.....	25
2-3-2	『玉蘭荘』における日本語の使用.....	26
2-3-3	『玉蘭荘』が抱える今後の問題.....	26
2-4	非所属戦前本省人高齢者の日本語使用.....	27

第3章 戦前本省人高齢者における日本語使用意識

3-1	日本語接触及び使用の動向.....	29
3-1-1	老人サービス中心日本語関連クラス戦前本省人高齢学習者.....	30
3-1-2	玉蘭荘戦前本省人高齢者.....	48
3-1-3	非所属戦前本省人高齢者.....	57
3-2	異なる日本語使用の動向から見る共通点や相違とは.....	67

第4章 結論

4-1	戦前本省人高齢者における日本語使用の継続意識とは.....	83
4-2	高齢者学習機構における日本語関連学習への展望.....	84
4-3	高齢者日本語使用環境の重視及び公共の場の設立.....	85
4-4	今後の課題.....	87

参考文献.....	91
-----------	----

附録資料：インタビュー内容記録.....	94
----------------------	----

第1章 序論

1-1 研究背景/動機/目的

1945年の終戦と同年に台湾は光復を迎えた。そして1949年の戒厳令の実施から1987年の戒厳令が解かれるまで、外国語となった日本語使用の制限に対して、北京語の教育が進んで行われるようになった。しかし、戒厳令が解かれてからは日台交流が進み、台湾における日本語使用の頻繁性が目立った。例えば教育面では、高等教育における日本語専門学科を初め、初等や中等教育も第二外国語の選択肢として日本語を選ぶ学生も年々増えている¹。また学校で学習をする他、学習塾や日本語の書籍、雑誌を専門に扱っている書店、更には家庭内でNHKや日本で放送されている番組が見られるなど、台湾は若い世代に限る事なく、年齢層を問わず日本語との接触や学習するに恵まれている国の1つであると言えよう。

しかし、親日的な国家として知られている台湾でも、幼い頃から台湾北部にある母方の祖父母の家に移住した筆者は、一日本人として様々な対日感情の現われを見て来た。台湾に移住した当初、日本国籍に限って入学ができる日本人学校に通い、普段の生活でも安心して日本語を話せた筆者は、生活習慣や文化の違いを感じることなく安心して生活する事が出来た。ところがそのような穏やかな日々も、特定した記念日には学校側や、台湾の日本大使館にあたる交流協会に緊張が走った。それは日本における不満を露にした反日的な行動であり、そのような光景は新聞報道など公にはされないものの、筆者が通っていた日本人学校は落書きがされるなど、被害の対象となった。

ところが、その反日行動とは裏腹に、日本に統治された経験を持つ戦前本省人高齢者である母方の祖父母は、日本人が台湾にした良し悪しの行為を流暢な日本語で穏やかに回想をしながら話す。そしてそれに対し筆者が、小中学生の頃から日本における植民地統治から開放され、国民政府における光復時期を新

¹ (2003/2006/2009) 年度「台湾における日本語教育事情調査」報告書による

たに迎えたにも拘らず、今に至るまで日本語を自らの母国語のように話す母方の祖父母やその友人を不思議に思っていた。そして台北日本人学校の中学部を卒業してから、筆者は台湾の現地校に進学し、反日、親日に挟まれた環境で10年が過ぎている。当然ながらこの期間中、その不思議な光景を解明する為に、母方の祖父母に度々話を聞くが、途切れ途切れの記憶になっている為、納得行く根本的な答えが出るまでに終わりがちになってしまう。

納得行く根本的な答えが中々聞けずにおいても、筆者が母方の祖父母やその友人たちに対する親日の認識は変わらなかった。そして彼らは今に至っても日本語を流暢に話し、母国語であるかの様に使っている。ところが同じように日本における統治時代の経験をしている戦前高齢者の中でも、筆者が今まで接して来た高齢者と同じように、日本語を流暢に話せるとは限らない。それは自ら日本語を遠ざけているのか、それとも今の環境に日本語を話す事が難しくなってきたのだろうか。また日本語の使用が制限された環境にいる事は、日本に対する対日観にも、変化を及ぼすだろうか。筆者は今まで接して来た日本語を流暢に話せる高齢者との違いを見つける事や、日本語を使用することが出来る環境や施設にいながらも、彼らが本当に希望しているものは何か、この研究にて戦前本省人高齢者における日本語使用の動向を究明する。

1-2 先行研究

日本統治時代を経験された、日本語使用動向の研究は、インタビューなど様々な方法で、当時の言語使用や体験を中心に分析をしているのを良く見かける。また、戦後における言語使用では、国民教育を初めとする国語（北京語）使用の動向を中心に分析を進めている。しかし日本語を使用される日本統治時代から終戦における言語使用の変換やその傾向は、いつの間にか日本精神と繋がったり、武士道への研究が様々な書籍や評論として挙げられ、それらに近い書籍を特に日本における影響を深く受けた戦前の男性年輩者は、好んで読まれ

る傾向がある。しかしその分野は、その考えに同意する、限られた人によって読まれがちであると考え。その反面、筆者は今の本省人高齢者における戦前から、戦後における日本語使用の流れや、光復後から今に至るまでの社会情勢の変化によって影響を受けた、日本語使用や日本語教育について書かれた論文を探していた。

その中でまず、河路(1998)²は、日本統治下の台南師範学校附属公学校のある教室で共に過ごした、担任の日本人教師と台湾人児童、また、その教室に教育実習生として関わった台湾人教師に対して、戦前に関わるのは、学生時代の思い出や学校における内台人の差別、家庭における言語環境、公学校の日本語(国語)教育の具体的教育法、そして改姓名から学校の体罰ほどの様に受け止められていたのか、インタビューによって明らかになった。また戦後に関わるのは、台湾光復における台湾人と日本人の社会的立場や日本語教育から北京語教育における国語教育の変化について話している。更に現在の台湾の言語状況に対して、日本語教育を受けた人々の現在の日本語から、当時を振り返って思うことなど、戦前から戦後にかけての言語使用環境の変化や時事における感情の表れなど、インタビュー調査を行っている。

そして合津(2002)³は、1998年に実施した言語生活史の分析を通じ、日本統治時代に日本語による教育を受けた漢族系台湾人高年層の間における日本語使用の要因を社会言語学的な観点から考察をしている。そして日本統治時期における日本人が多かった都市部と日本人が少なかった農村部では、言語状況が異なっていると考えている事から、主要都市や地方都市に分けて調査をする事で、台湾各地に住んでいた人の、それぞれにおける言語状況の相違を分析している。そして河路と同様、戦前の日本語使用状況における私的の場面や、公的

² 河路由佳 (1998) 『日本統治下における台湾公学校の日本語教育と戦後台湾におけるその展開—当時の台湾人教師・日本人教師・台湾人児童からの証言—』東京農工大学 人間と社会第9号

³ 合津美穂 (2002) 『漢族系台湾人高齢層の日本語使用—言語生活史調査を通じて—』信州大学留学生センター紀要第3号

の場面、それから光復後における言語使用の変化など、インタビューを通して、各時代における日本語使用の実態を分析している。

また津田(2005)⁴は、日本統治時代に台湾で生まれ育ち、日本語教育を受けた「日治時代」の人々から、少なからず存在する「親日」的な人々に的を絞り研究対象としている。そして会津や津田と同様、インタビュー分析を研究方法の一つとして取り入れているが、戦後の日本語使用を分析する他、「日本が台湾を統治した良し悪し」、「日本人に対する印象」、「自分が幼い頃、日本人だと思ったことはあるか」、「今の日本人や日本社会をどの様に見ているか」、他に、「どんな族群の人と、良く意見の衝突があるのか」など、日本人に対する思いや感情を様々な角度で分析をしている。また、インタビューの分析をする中で、心理学の理論を多く用いている。それに対して津田は、台湾日治世代の親日態度が語られる時、政治的な側面から語られる事が多く、台湾という特殊な政治環境の中で翻弄された面ばかりに光が当たっていると、津田は感じていた事から、「人間の心の普遍性、あるいは恒常性を明らかにしたかった」と言うように、今までの研究と異なった角度から進められた。

また中川(2009)⁵は、台湾ナショナリズムと中国大陸の国語運動から、国民党の北京語同化政策まで、日本統治時代を歩んできた戦前の人々に影響を及ぼした「国語」教育の開始、また、国語普及の背景を論じる中、現在の言語状況に話が進んだ。そして、戦後の台湾の北京語同化政策と多言語主義との関係を論じる中で、北京語同化政策については、政策的観点と言語権、そして北京語の超民族的機能とその国語化を考察する事で、北京語が共通語の概念を生み出したことを明らかにしたと中川は言う。また、戦後台湾の言語状況を言語的側面と社会的・歴史的側面の両方から考察している。

筆者は先行研究として、戦前から戦後の各環境における日本語使用の変化、

⁴ 津田勤子 (2005) 『台湾日治世代の親日態度と自己概念』淡江大學日本研究所

⁵ 中川仁 (2009) 『戦後台湾の言語政策—北京語同化政策と多言語主義』東方書店

それから、その変化を導いた国民政府における言語政策に目をつけた。また、その言語政策によって日常用語に影響を感じつつも、日本語を話すことに対して、途中で放棄する事無く、今となって再び日本語に触れる事が出来る場として、高齢者教育機構における日本語教育の現状を明らかにした陳(2005)⁶の研究があった。陳はアンケートやインタビューを通して日本語の学習動機とニーズを明らかにした他、高齢者を指導するにあたって、問題となっていることも担当の教師によって、その現状が明らかになった。

今の論文から見られる傾向で、高齢者を例に挙げると、学習、福祉、保険、看護など現実的な面に囚われた論文になりつつある。それは、高齢者の話になると、身体が衰えや、孤独死と連想してしまうなど、高齢化社会について何処となく不安に感じてしまう人もいるだろう。しかしその負の連鎖とは一転し、戦前高齢者には深く関わる日本統治時代における研究を見る事で、高齢者に対して、過去経験された事におけるメモリアルを、未熟でありながら、聞いてきた事を、自らの方法で1つでも多く分析をする事で、この世に生きて来た戦前高齢者の証になればと思う。

1-3 研究対象（戦前本省人高齢者）の定義

本研究を始めるまで、筆者は1945年の終戦までに台湾本土で生まれ育った今の高齢者を戦前本省人高齢者（日本語世代）と思い込んでいた。しかし分析を進めるにつれて、1945年以前の出生に囚われるよりも、植民地時代の時事における記憶がより鮮明であり、日本語をある程度話すことが出来る高齢者が戦前本省人高齢者として最も相応しいと考えるようになった。従ってこの研究における研究対象として、両親共に本省人であり、植民地時代の記憶や日本語を話す能力を追求する為、1945年の終戦までに小学校または公学校で日本語

⁶ 陳贊珍 (2005) 『台湾における高齢者日本語教育についての一考察 —高齢者教育機関を中心に—』銘傳大學應用日語學系碩士班

の教育を受けている、またはその教育を受けられる年齢層まで達している事を前提とする。その為、1938年生まれ（終戦当時は満7歳で、今の73～74歳⁷）を含む、それ以上の高齢者を、本研究における戦前本省人高齢者（日本語世代）として定義する。

1-4 研究対象/質問の方向性

研究対象をもとに筆者は、現在日本語と接触する方法や環境がそれぞれ異なった戦前本省人高齢者を、大きく3つの接触分野に分けた。

- ① 台北市士林区士林老人服務中心、萬華区龍山老人服務中心（Aグループ）の両老人服務中心で、基本上週1回の授業に参加する日本語関連クラス、戦前本省人高齢学習者。そして同じ老人服務中心の高齢学習者でも、日本語に接して来た環境や日本語の程度など、それぞれの相違が見られる為、台北市に位置する両服務中心を代表に挙げた。

まず、Aグループの士林老人服務中心日本語関連クラスは、以下のように日本語クラス（計9クラス）、日本歌曲クラス（計2クラス）から成り立つ。

日本語クラス

1. 日語基礎入門
2. 日語初級
3. 日語會話初級進階 1
4. 日語會話初級進階 2
5. 日語會話中級進階 1
6. 日語會話中級進階 2
7. 日語會話實用高級（午前の部）
8. 日語會話實用高級（午後の部）
9. 日語初級生活會話

⁷ 2011~2012年現在の事を指す

日本歌曲クラス

1. カラ OK 日文老歌
2. カラ OK 日文新歌

そして筆者は事前調査として、アンケート（後の 1-5 研究方法で説明）をとるにあたって、学習内容が近いクラスの重なりや、同一学習者の二重回答を防ぐ為、日語初級や日語初級会話の 2 クラス、そして中級会話、上級会話から各 1 クラスずつ選択（表 1-1）、そして日本歌曲クラスからは日本老歌を選択した。（表 1-2）そのうち研究対象に属する 73 歳以上の本省人学習者から、インタビュー（後の 1-5 研究方法で説明）に応じてくれる学習者（A1~A8）を士林老人服務中心の研究対象とした。以下は士林老人服務中心における研究対象のプロフィールである。

（表 2&表 4）

士林區士林老人服務中心日本語関連研究対象クラス学習人数統計表

(表 1-1)

(2011/10)

日本語クラス	全クラス人数	73 歳以上本省人	73 歳以上外省人
日語初級	28	1	0
日語會話初級進階 2	35	1	0
日語會話中級進階 2	18	2	1
日語會話實用高級	35	7	3

(表 1-2)

日本歌曲クラス	全クラス人数	73 歳以上本省人	73 歳以上外省人
カラ OK 日文老歌	35	11	1

士林區士林老人服務中心日本語関連クラス戦前本省人高齢学習者

A グループ(表 2 の A1 ~ A5 / 表 4 の A6 ~ A8)

(表 2)

(2011/10)

	A1	A2	A3	A4	A5
出身地	南投県	台南県	台北市	台北	台北
性別	男	男	女	女	女
出生年	1930 年 (昭和 5 年)	1934 年 (昭和 9 年)	1935 年 (昭和 10 年)	1934 年 (昭和 9 年)	1934 年 (昭和 9 年)
使用言語 (順番)	閩南語 日本語	閩南語 日本語	北京語 閩南語 日本語	北京語 閩南語 日本語	北京語 閩南語 日本語
日本語に始 めて触れた 時期	9 歳 (公学校)	7 歳 (家庭内)	0 歳 (家庭内)	2 歳 (家庭内)	2 歳 (家庭内)
学歴	公学校 4 年	大学	女学校	師範学校	師範学校
リタイアま での職業 (機関)	銀行員	省政府	警察局	小学校先生	小学校先生
インタビュー の使用言語	日本語	日本語	北京語 日本語	日本語	日本語

続いて、士林老人服務中心における人数で足りない部分を補う形となるが、万華に位置する万華老人服務中心の日本語関連クラスは、日本語クラス（計 2 クラス）、日本歌曲クラス（計 2 クラス）から成り立つ。士林老人服務中心と比較してクラスの数が少ない為、筆者は全ての学習者に事前調査としてアンケ

ート（後の 1-5 研究方法で説明）をとった。（表 3-1）（表 3-2）そのうち研究対象に属する 73 歳以上の本省人学習者から、インタビュー（後の 1-5 研究方法で説明）に応じてくれる学習者（A9~A10）を万華老人服務中心の研究対象とした。以下は万華老人服務中心における研究対象のプロフィールである。（表 4）

萬華區龍山老人服務中心日本語関連研究対象クラス学習人数統計表

（表 3-1）

（2011/10）

日本語クラス	全クラス人数	73 歳以上本省人	73 歳以上外省人
日語基礎	20	2	1
日語進階(三)	18	10	1

（表 3-2）

日本歌曲クラス	全クラス人数	73 歳以上本省人	73 歳以上外省人
日語老歌	14	6	0
日語教唱	6	4	0

萬華區龍山老人服務中心日本語関連クラス戦前本省人高齢学習者

A グループ(表 4 の A9 ~ A10)

（表 4）

（2011/10）

	A6	A7	A8	A9	A10
出身地	台北市	台北県	台北市	台北市	台北市
性別	男	男	男	男	男
出生年	1931 年 (昭和 6 年)	1933 年 (昭和 8 年)	1933 年 (昭和 8 年)	1932 年 (昭和 7 年)	1937 年 (昭和 12 年)
使用言語 (順番)	日本語 閩南語 北京語	閩南語 日本語 北京語	日本語 閩南語 北京語	北京語 閩南語 日本語	北京語 閩南語
日本語に始めて触れた時期	7 歳 (公学校)	9 歳 (公学校)	0 歳 (家庭内)	8 歳 (公学校)	8 歳 (公学校)
学歴	台北高等商業学校	公学校 3 年	台北工業専門学校	初中	大学
リタイアまでの職業 (機関)	銀行員	小商い	建築業	医療機械販売	銀行員
インタビューの使用言語	日本語	日本語	日本語	閩南語 日本語	北京語

- ② 台北市大安区（松年福社会玉蘭荘）で週 2 回の活動をしている玉蘭荘戦前本省人高齢者（B グループ）。活動における使用言語は日本語が多く、時には台湾語も使われる。日本語を流暢に話す人が多く、会員のほぼ半数（66 名の会員中 34 名）がキリスト教信者である。

B グループの玉蘭荘の会員は 66 人である。そのうち研究対象に属する 73 歳以上の本省人高齢者（男性 20 人/女性 40 人）の中からインタビュー（後の 1-5 研究方法で説明）に応じてくれた会員（B1~B10）を玉蘭荘の研究対象とした。以下は玉蘭荘における研究対象のプロフィールである。（表 5-1）（表 5-2）

玉蘭荘戦前本省人高齢者 B グループ(B1 ~ B10)

(表 5-1)

(2012/8 ~ 9)

	B1	B2	B3	B4	B5
出身地	台中県	新竹県	台中県	台北市	台中市
性別	男	女	男	男	女
出生年（西暦/昭和）	1926 年 (昭和元年)	1926 年 (昭和元年)	1928 年 (昭和 3 年)	1932 年 (昭和 7 年)	1933 年 (昭和 8 年)
使用言語 (順番)	日本語 閩南語 北京語	日本語 閩南語 客家語 北京語	日本語 閩南語 北京語	閩南語 北京語 日本語	閩南語 北京語 日本語(友人)
日本語に始めて触れた時期	7 歳 (公学校)	7 歳 (公学校)	7 歳 (公学校)	0 歳 (家庭内)	0 歳 (家庭内)
学歴	公学校 (以降は自学)	高等科 (以降は自学)	師範学校	高校	公学校
リタイアまでの職業 (機関)	小学教員	専業主婦	先生	印刷業	被服貿易
インタビューの使用言語	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語

(表 5-2)

	B6	B7	B8	B9	B10
出身地	嘉義市	台北市	雲林県	台北市	高雄市
性別	女	女	男	男	女
出生年（西暦/昭和）	1928年 (昭和3年)	1928年 (昭和3年)	1923年 (大正12年)	1934年 (昭和9年)	1927年 (昭和2年)
使用言語 (順番)	閩南語 日本語 北京語	日本語 閩南語 北京語	閩南語 日本語 北京語	閩南語 英語 日本語	閩南語 日本語 北京語
日本語に始めて触れた時期	7歳 (公学校)	0歳 (家庭内)	0歳 (家庭内)	0歳 (家庭内)	0歳 (家庭内)
学歴	家政女学校	第三高女	早稲田大学	台北商専	女学校
リタイアまでの職業 (機関)	郡役所	先生	技師	銀行	専業主婦
インタビューの使用言語	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語

- ③ 現在は特に日本語を使った活動には参加していない非所属戦前本省人高齢者（Cグループ）。母方の祖父母の親戚や友人から、日本語を流暢に話せる高齢者をもとに選択した。日本語は友人同士で話すことが多い。

Cグループの高齢者は玉蘭荘高齢者と同じように80歳を超え、日本語を流暢に話せる高齢者である。どの高齢者も筆者の研究対象の定義に当てはまる為、インタビュー（後の1-5研究方法で説明）に応じてくれた高齢者（C1~C10）の全てを非所属戦前本省人高齢者の研究対象にする事が出来た。以下は非所属戦前本省人高齢者における研究対象のプロフィールである。（表 6-1）（表 6-2）

非所属戦前本省人高齢者 D グループ(D1～D10)

(表 6-1)

(2012/4～5)

	C1	C2	C3	C4	C5
出身地	台北市	台北市	台北市	台北市	台北市
性別	女	男	女	男	女
出生年	1932年 (昭和7年)	1926年 (昭和元年)	1932年 (昭和7年)	1929年 (昭和4年)	1933年 (昭和8年)
使用言語 (順番)	日本語 北京語 閩南語	日本語 閩南語 北京語	日本語 閩南語 北京語	日本語 閩南語 北京語	日本語 閩南語 北京語
日本語に始めて触れた時期	5歳 (幼稚園)	0歳 (家庭内)	0歳 (家庭内)	6歳 (幼稚園)	5歳 (幼稚園)
学歴	第一高女	台北工商	中山女中	工業学校	女学校
リタイアまでの職業 (機関)	専業主婦	森永製菓	台湾電力	官庁	専業主婦
インタビューの使用言語	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語

(表 6-2)

	C6	C7	C8	C9	C10
出身地	台北市	台北市	台北市	新北市	台北市
性別	女	女	女	男	女
出生年(西暦/昭和)	1928年 (昭和3年)	1930年 (昭和5年)	1928年 (昭和3年)	1929年 (昭和4年)	1932年 (昭和7年)
使用言語 (順番)	閩南語 日本語 北京語	閩南語 日本語 北京語	日本語 閩南語 北京語	日本語 閩南語 北京語	日本語 閩南語 北京語
日本語に始めて触れた時期	9歳 (公学校)	9歳 (公学校)	0歳 (家庭内)	0歳 (家庭内)	0歳 (家庭内)
学歴	中学	高等科	師範学校	大学	高中
リタイアまでの職業 (機関)	専業主婦	専業主婦	小学校先生	食品貿易	台湾電力
インタビューの使用言語	日本語 閩南語	日本語 閩南語	日本語	日本語	日本語

質問の方向性として、終戦後の日本語の使用状況について国民政府における光復時期（戒厳時）、そして戒厳令が解かれてから今に至るまでの日本語使用及び日本語接触環境の変化や当時の対応を知る事にある。また現在、日本語を使用する目的で通われている機構における反応や日本語を使用するに当たる環境改善など、接触の動向に関連したインタビュー内容や、それぞれの接触分野から見られる日本語接触の特徴を比較、そして分析を行う。

1-5 研究方法

インタビュー（質問内容/取得方法）

老人服務中心日本語関連クラスの戦前本省人高齢学習者を始め、日本語を日常用語のように流暢に話されている玉蘭荘戦前本省人高齢者や、話す場所が限られていない非所属戦前本省人高齢者のそれぞれの日本語接触状況に応じ、適している質問を用意した。その質問の構成や共通点として、大きく6項目に分けられる。

- 1) 終戦後の光復時期から今に至る日本語の使用状況の変化。
- 2) 自分の子供に日本語を教えているか。
- 3) 今通われている、または知っている高齢者を対象とした施設についてどの様に感じているのか。（施設における良し悪し/関連施設の増設希望）
- 4) 今通われている施設以外に、日本語を使用する場所に行っているか。
- 5) 普段の日本語の使用環境や、高齢者を対象とした日本語使用施設について。
- 6) 日本語の図書利用について。

以上の質問内容における取得方法として、老人服務中心におけるインタビューの殆どは、授業の合間における（10～15分）の休み時間を利用して行っている。そして、玉蘭荘は活動開始前の時間や自由行動の合間の時間を使って、1人当たり（15分～20分）のインタビューを行っている。非所属者は被調査者の自宅で行った事により（20前後）と時間はあまり変わらないが、比較的落ち着いた環境でインタビューや対応をすることが出来た。以下は服務中心にお

ける A グループの学習者と、B 及び C グループの非学習者それぞれにおけるインタビューの内容であるが、各グループにおける被調査者の日本語使用環境に基づいて、質問の順番や質問の内容に相違が見られるが、質問の項目や方向性には影響をしていない。

老人服務中心日本語関連クラス戦前本省人高齢学習者における質問

- ①光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？
- ②光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？
- ③学校の卒業後は何をされていましたが？その頃は日本語を話されていましたが？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？
- ④日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？
- ⑤今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？
- ⑥どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？
- ⑦アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として～のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の～のようなことに興味を持ち始めましたか？
- ⑧この老人服務中心に通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）
- ⑨今は普段から日本語を話せる環境にいますか？
（Ex: 家庭内、または周囲の環境）
- ⑩今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？
- ⑪普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？また、日本語の使用環境を深める事や、拡大したいと思いますか？
- ⑫自宅、または図書館や閲覧室で、日本語の本や雑誌を読まれていますか？

玉蘭荘戦前本省人高齢者における質問

- ①終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）
- ②解雇される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？
- ③今は普段から日本語を話せる環境にいますか？
（Ex: 家庭内、または周囲の環境）
- ④普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？
- ⑤自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）
- ⑥玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）
- ⑦いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？
- ⑧玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？
（Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、）
- ⑨その反面、改善して欲しいところはありますか？
- ⑩玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？
- ⑪図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

非所属戦前本省人高齢者における質問

- ①終戦後の光復時期に日本語の使用で限られたことはありますか？
Ex:学校や仕事の場、または私的ににおける生活…
- ②進学や就職のために日本語を再学習することはありませんでしたか？
- ③日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？
Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…
- ④図書館や、特定の閲覧室で日本語の本や雑誌がある事を知っていますか？
- ⑤日本語の本や雑誌を読まれる以外に日本語を使用されることはありますか？
- ⑥高齢者を対象とした老人服务中心や長青学苑で学習をされた事がありますか？
- ⑦どのような原因で行かれる（行かれない）のですか？
- ⑧どのような授業を増設したら参加を試みようと思いますか？
- ⑨今は普段から日本語を話せる環境にいますか？
(Ex: 家庭内、または周囲の環境)
- ⑩今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？
- ⑪高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いますか？（Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？）
- ⑫日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どの様に思われているのか、聞いた事がありますか？

第 2 章 台湾北部の戦前本省人高齢者における日本語使用環境

2-1 台北市の戦前本省人高齢者数及び日本語使用の場について

台湾における高齢者の定義について老人福利法、第 2 条を参考に見ると、「本法所稱老人，指年滿六十五歲以上之人⁸」となっている。そして筆者はまず、本研究を始めた 2011 年に、台北市の本省人や外省人を問わず高齢者数を統計した結果、筆者が本論文で戦前高齢者と定義している 73 歳から 100 歳以上の男性は 90,556 人、そして女性は、97,789 人となった⁹。そしてこの計 188,345 人の中から、筆者は、戦前本省人高齢者の日本語使用動向を知るために、老人服務中心、玉蘭荘、そして非所属の 3 グループにそれぞれ 10 人をお願いし、計 30 人の戦前本省人高齢者のインタビューを行った。

戦前本省人高齢者は、家庭内で日本語を話すこともあるが、その中でも、日本語の程度や、接することが出来る環境に違いが見られる。その中で、高齢者を対象とした老人服務中心（長青大学）で、幼い頃に学ばれた日本語を再学習するグループや、日本語を普段から使用している他、同じ日本統治時代を経験した、高齢者仲間との交流を深める玉蘭荘のグループ、そして玉蘭荘に通われている高齢者と同様、普段から日本語を生活用語として話す、前の 2 グループとは違い、特定した場所には行かない、非所属グループに分けて研究を進めるが、果たしてそれぞれのグループに違いは見られるだろうか。

2-2 老人服務中心日本語関連学習クラスにおける学習傾向

2-2-1 日本語関連学習クラスの特徴及び学習傾向

老人服務中心（長青大学）に通われる資格として、満 60 歳以上で、学歴を問わず参加する事が出来る。しかし、夫婦共に参加する場合、一方が満 60 歳

⁸ 全國法規資料庫 老人福利法

<http://law.moj.gov.tw/LawClass/LawSearchContent.aspx?PC=D0050037&K1=%E8%80%81%E4%BA%BA>

⁹ 臺北市政府民政局 臺北市個年底人口數按性別及年齡分統計表 (101 年)
<http://www.taipei.gov.tw/ct.asp?xItem=1071180&ctNode=41896&mp=102001>

であれば、もう一方が 55 歳でも参加することが可能である。その為、老人服務中心は、高齢者の中でも比較的若い、戦後高齢者が大半以上を占めている。そして、筆者がインタビューをした老人服務中心の中で、最も人気を集めている科目は、日本語クラス、そして日本語カラオケクラスである。日本語クラスは戦後高齢者が多く、カラオケを歌う為に、日本語を習われているという高齢学習者も少なくない。また、改めて若い頃に学んだ日本語を再学習するために授業に通われている戦前的高齢者は、少ないながらも、授業の雰囲気混じって日本語に触れている。しかし日本語がある程度出来る戦前高齢者にとって、今の授業は、物足りないのではないかと筆者は考える。果たして戦前高齢者にとって今の学習環境や歌唱環境は自分に適していると思っているのだろうか。

2-2-2 指導者から見た高齢日本語学習者とは

老人服務中心の日本語学習関連クラスにおける指導者が、高齢者が日本語を話すことに対して感じている事や、高齢学習者の学習態度や学習意欲をどのように見ているだろうか？

まず筆者は、各クラスの指導者に学習者の年齢層について聞いてみたところ、日本語の初級会話や文法を主に教えている先生は、60 歳から 75 歳の学習者が多いと言う。しかし、初級のクラスであるから、片言の日本語しか話すことが出来ない人ばかりではなく、日本語をある程度話すことが出来る 1 人の 80 代の学習者も程度に関係なく、毎週のように来ている。また、日本語の応用編や中級程度に相当するクラスを教えている先生の話では、60 代の学生は僅か 1 人で、クラスの大半を占めるのは、75 歳以上の学習者で 10 人に及ぶ。また、日本語を母語のように流暢に話す 80 代の高齢者 2 人も授業に参加していると言う。そして、日本語の程度に関係なく教えている先生の話では、初級のクラスでは、老人服務中心の年齢制限の最低限である 55 歳からの学習者を初め、

中級のクラスでは、他の場所で学んだことで基礎があり、老人サービスセンター再学習を希望する人が含まれていることから、初級と比べて年齢層がそれほど高くはないと言う。

また、学習者はどの行政区域から来ているのかについて聞いたところ、老人サービスセンターが位置する同行政区域の住民の他に、片道 30 分以上はかかる他の行政区域から向かう人もいる。この状況についてある先生は言う。

「退職した人達にとってのコミュニケーションの場は、ただ単にその勉強をして吸収をするだけじゃなくて、そう言う人と人の付き合いも深く関わるしね、やっぱり知り合いがいればその人達と一緒にこういう機会を利用して、勉強は表面的で、付き合いを充実する人達がいるだろうし、まあ自分の要求や能力に合ったところを地域に関係なく、場所に関係なく勉強をしたいという人もいるし、(後略)」

以上の先生の考えから、高齢者が日本語を学ぶことについて、ただ単なる日本語を学習する目的から、住んでいる同行政区域の老人サービスセンターで、日本語のクラスがあるだけで参加するのではなく、自分の趣味や要望に合った授業に参加する事を初め、多少道のりが遠くても、健康である限り、人との付き合いやコミュニケーションを大事にする高齢者の学習への期待と言えるだろう。そして高齢者自らの戸籍や住んでいる行政区域に制限がなく、他の地域に位置する老人サービスセンターまで学習をする事が出来る為、行動範囲を広げ、交友範囲も日本語を学ぶ考えや動作、そして学習の名義によって、更なる可能性に結びつくことだろう。

また、学習者の学習態度や意欲の表れは、定年退職をされる前の仕事に影響されているかの問いに対して、基礎のクラスでは学校の先生をされていた人の方が真面目に感じられると言う。そして、クラスの中で日本語関係や日商関係の企業に勤めていた人がいながらも、基礎のクラスにいる事で、日本語を話す学生が少ない。そして上級のクラスでは、仕事の面で肩書きを持っていたと感じられる人が多く、日本語を通して色々な知識を深めたいという意欲が見られ

ると言う。

学習者の学習経緯やクラスの選択について聞いたところ、基礎や中級(応用)のクラスにあまり大きな違いはなく、学習者に楽しく、ストレスを感じさせないために、同じような内容に少しずつ変化を加えながら進んでいる状況を以下の話から分かる。

「私は50音からもうここで何年教えているのか分からない。5年くらい教えているのかもしれないです。あいうえお、から教えている学生もいるし、途中から教えている学生もいます。」

以上の話からも分かるように、初中級クラスの学習内容や進度は、繰り返し行われていることで、学習に対してストレスを感じさせない他に、以前にも話したように、日本語に触れながら、人との触れ合いを重視した授業構成となっていると言えよう。そして学習者の日本語学習のきっかけについて聞いたところ、幼い頃から両親が日本語を話していた影響が大きいと言う。また、75歳以降の学生は日本語教育を受けていながらも、終戦によって、1年から2年で中途半端に終わってしまったことから、その続きをしたいと言う学習者や、会社の経営で日商関係の会社とお付き合いがあったから、その言語(日本語)をより知りたい学習者や、日本に良く旅行をするから役立つなど、現実的な実用性も踏まえて、様々な学習動機が見られる。

また、学習者は何を好んで取り組んでいるか、と言う問いに対して、演歌や幼い頃に聞いたことがある童謡、そして昔話など、その頃の思い出を重視した授業内容が高齢学習者に好まれていると言う。そしてストレスを感じさせないように早く進まず繰り返しやっている。しかしこの状況とは反面、中上級を教えている先生によると、学習意欲の旺盛における驚きが以下の話から分かる。

「それはねあらゆる事に対して全てにおいてどんな方面に対しても、まあちょっと比べたら悪いけれども、私もこう、高校生相手にだとか、色々社会人相手に色々教え

ているけれども、やっぱりこのここで勉強する人達というのは、もう、むさぼり、要するに何に対しても兎に角、吸収する意欲がとても強いですね。」

「学習欲だけじゃなくて、私に対する態度もそうだし、あとは授業に対する取り組みにしてもそうだし、これは本当に他の人達に見せたいくらいですよ。台湾の人達じゃなくて日本の人達にも見せてあげたいくらいの、この学習意欲が、かなりもう模範的です。だから特にどういう方向って言うか、全方向に対してね、兎に角もう、あの提供した情報に対してはね、もう本当にもうがむしゃらに吸収してます。これも私は頭が下がります。だから手を抜いて教える事は出来ません。本当ですよ。」

以上の話から分かるように、高齢学習者における授業では基本的にストレスを感じさせないように、学習者の学習要望の1つである過去に触れたことがある歌や童話など、学習の意欲を引き出すことを最優先とされているようである。また、ある程度日本語力がついてきた高齢者が参加する中上級のクラスでは、学習の意欲を引き出す他に、その旺盛な学習要望に値する鋭い質問をどのようにして応え、そして理解させることが出来るだろうか。

そして日本語を教えている中で学習者から最も問題になっている事、例えば放課後に日本語に触れる時間がないことや、また、先生自身はその状況をどの様に見ているかについて質問をしたところ、学生は良く授業の内容だけでは足りないと反応をしたり、教科書の字が小さい、フリガナが小さくて見えないなど、高齢学習者ならではの問題点が浮上していると言う。また、筆者が実際に各クラスの授業状況を参観したことで気づいた事は、授業内容に対して積極性が感じられる（主導権を握っている）のは、60代から70代であり、それ以降の年齢層の学習者は授業内容に対して、関心が表れつつも、60から70代の学習者に比べると自分の意見を発表する事が少なく、ただ授業に通われているようにしか見えないこともあり、受身になりがちであると感ずる。同じ空間で学習をしているのであれば、その年齢層における問題点も気を使う必要があるのではないか。

そして、学習者は日本語の授業以外でも日本語に接触していると聞いたことはあるか、と言う質問に対して、家の中では衛星放送による「NHK」の番組が最も人気を集めている。学習者は買い物以外、特別な用事がない以上、若者と比べて家にいる事が比較的長いことで、テレビから日本語が使われている番組を見ることが、高齢者の身体に最も優しい日本語の触れ方であると言えよう。台湾で日本語を主に放送しているチャンネルは、「NHK」が最も本格的で、その殆どが日本語で話されている。しかし、中国語の字幕がない為、日本語学習の初心者には、その内容を理解する事は難しいだろう。そして、「NHK」の他に日本語が使われている番組として、「緯來日本台」や「國興衛視」など、日本で比較的視聴率が高いドラマやバラエティー番組が主に放送されている。この二つのチャンネルは「NHK」と違って、日本語が聞いて分からない人の為に、中国語の字幕が表示されている事で、日本の番組に興味がある人であれば、日本語が分からない初心者であっても、その内容を充分と楽しめることだろう。しかし、その二つのチャンネルの方向性は、比較的若者から中年の視聴者に向けた番組構成になっている傾向から、比較的高齢である視聴者には難しい部分もあると筆者は考える。つまり、以上の日本語が使われている番組の選択肢から考えると、比較的年齢層が高い日本語学習者は家にいる時間が長いことで、テレビを見ることで日本語に触れたい気持ちはあるものの、日本語の程度が満たない事や、限られた年齢層による番組が比較的多い事から考えると、家の中でテレビに頼って日本語に触れるだけでは足りないと思う高齢者もいると考える。

しかし、家の中でテレビだけが日本語に触れる唯一の手段ではないと考える日本語の初中級学習者もあり、日本語の音楽が好きで、日本民謡や演歌の音楽CDを流したり、授業で日本の歌について学んでいる学習者は、わざわざ、カラオケの設備を買って家の中で、友人を集めてカラオケを歌うと言う。そして日本語が比較的見て分かる学習者は、文芸春秋を愛読本にするなど、限られた

空間で日本語に触れる工夫や努力をしている。また、身体の状態に自信がある人は、授業やテレビで学んだ日本語を使って、日本まで定期的に旅行をするなど、自分の趣味に合った方法で日本語に触れている。また、自分が主体となって趣味である日本語を学ぶ高齢学習者の他に、子供または孫が、日本で就職をしていたり、日本人と結婚している事から、家族の関係で日本語を話すようになったり、学習を始める動機になったと答える学習者もいる。

そして先生方に台北市における高齢者の日本語学習環境をどの様に思うか質問したところ、日本語の程度に関係なく教えている、士林の先生は、日本語を学ぶ意欲があれば、様々な環境による設備や、各地域ごとの活動に力を入れているように感じ、選択肢が色々とあって、学習環境に対して、おおむね良好であると答える。

最後に、これからの高齢者における日本語学習への改善点や注意点について質問をしたところ、今は高齢者を対象とした日本語の教科書がないことで、高校生を対象とした教科書を使用している先生によると、教科書の内容に沿って教えてみると、字が小さい上、理解するのに時間がかかってしまう為、進み具合が速く感じられることが多い。そして、学習者から、日本人の小学校で使われている教材を使うのはどうかと提案があったが、子供に教える教材で大人に教えるのは相応しくないと判断され、採用には至らなかったことに対し、筆者は、高齢者に教える日本語の教材について、適するものが作られていない現時点では、先生自身によって一工夫する必要があると考える。

老人サービス中心における日本語関連学習のクラスで、初級から上級に限らず、学習者は若者と同様、またはそれ以上に真面目に取り組んでいる。しかしながら、高齢者に向けた、見やすい、そして理解しやすい教材が作られていない事で、学習者に限らず、指導者側にも問題が浮上している。いくら学習者に一つでも多く学ばせたい気持ちがあっても、高齢学習者に無理をさせない程度に進んでいる授業内容は、教室から一步離れたら、どれ程活用し、そして来週の授

業にどれだけ覚えているのだろうか。ここでは 60 歳以上の高齢者における老人服務中心の日本語指導者の立場から、どれ程学習者を理解しているのか、そして指導するにつれて新たな考えや問題点が見えて来たことで、それらをどのように改善すべきか、次章における老人服務中心学習者のインタビューに伴って考えて行きたいと思う。

2-3 『玉蘭荘』における実施経緯及び日本語使用の重視

2-3-1 解嚴後に設立された『玉蘭荘』とは

1987 年に 38 年間に及ぶ戒嚴令が解除された事で、今まで私的の場で話されていた日本語が、公の場でも少しずつ限られなくなった。しかし長期間に及ぶ戒嚴令は、戦前や戦後によって台湾に嫁がれた日本人女性の他、戦前から日本語を日常用語として話す本省人高齢者の日本語使用環境が分散していた。その為、日本語を再使用できる期待とは裏腹に、話せる相手が見つからない失望感に包まれていた。そしてこの異変に気づいた、台北東門教会日本語礼拝「聖書と祈りの会」の多田久子宣教師が、1989 年に年配者が日常の生活から日本語を気軽に安心して話せる、老人ケアセンター「玉蘭荘」の設立を考案した。

玉蘭荘の会員（活動に参加されている計 66 人）の中で、戦前に日本語教育を受けた本省人高齢者（男性 20 名/女性 40 名）が大部分を占めている。そして玉蘭荘が設立時に重視していた対象の 1 つである、戦前や戦後によって台湾に嫁がれた日本人（6 名）は、設立から 23 年間経った今、平均年齢は 85 歳を超えている。また、半数以上を占める会員はキリスト教信者（男性 11 名/女性は 3 名の日本人を含む 23 名）であり、ただ単に日本語使用の場を設けるだけでなく、活動が始まり次第、礼拝や賛美歌の指導など、キリスト教信者を対象とした活動が組まれている。そしてその活動に惹かれ、玉蘭荘の会員になった前例も少なくない。また玉蘭荘では年に 2~3 回のボランティア募集があり、中で台湾日本人会の婦人部会における「玉蘭荘ボランティア募集」や日本人会会

報「さんご」からの募集案内、そして夫の就職や子供の就学に伴って台湾に来た日本人主婦同士の口コミによる募集形式が多い。そして台北交流協会からも2名が参加し、計22名のボランティアが順番に玉蘭荘の昼食の準備や、活動時間終了後の掃除など、仕事の分担をしながら手伝いをしている。

2-3-2 『玉蘭荘』における日本語の使用

平均年齢が80歳の玉蘭荘の活動は、時に台湾語を使用しつつ、主に日本語を使用する。そして会員である年配者は、日本語を母語であるかのように流暢に話す。同じように日本植民地時代の経験から、戒厳令を乗り越えた先に、環境や日本語話者の変化に応ずる玉蘭荘が設けられた事は、日本語を続けて話すことを望む人々にとって、頼もしい存在である。

玉蘭荘における活動は非常に多元であり、交流協会の協力の下、台北日本人学校の生徒や台湾に訪れた日本の高校生と接することが出来たり、日本の教会や関連機構との交流も度々行われる。それは日本を身近に感じさせる一方、記憶にあった日本と、現在に至る時代の流れを感じさせる絶好な機会であると言えよう。

2-3-3 『玉蘭荘』が抱える今後の課題

玉蘭荘は戒厳令が解かれた後に、在台日本人や戦前を経験した本省人が周囲の視線を気にせず、気軽に日本語を話しながら、キリスト教の教えに携わることが出来る環境作りを目指して今に至る。そして設立時に最も重視していた、戦前や戦後によって台湾に嫁がれた日本人は、設立から23年間経った今では85歳を超える年配者が多く、年々人数が減っている。また日本植民地時代を経験し、今では日本語を日常用語として話す本省人高齢者も、筆者が研究対象としている1934年(昭和9年)出身のC9さんが若い方に属する。従って今は日常の一課として玉蘭荘に通われている年配者でも、年が進むにつれて当然な

がら減る一方になるだろう。そして、今の玉蘭荘が抱えている課題として、玉蘭荘を今後の世代に引き継がせる理想型とは何かという事にある。1989年に設立された玉蘭荘という、台湾にいる日本語世代によって立ち上げた一足跡をどの様に残せるか、最終章では今後の課題として述べたいと思う。

2-4 非所属戦前本省人高齢者の日本語使用

筆者は本研究の研究対象である戦前本省人高齢者（日本語世代）を、植民地時代に受けた日本語教育の記憶が深いと考える今の73歳（終戦当時の小学校1年生）以上の高齢者を中心に研究を行う中、普段の生活における使用言語を、常に台湾語や日本語を中心に好んで話されながらも、日本語に触れる動機として特定した場所に通うAグループやBグループの高齢者とは異なり、自らの生活環境の中に日本語の書籍や雑誌、またはテレビ番組や友人との交際に日本語を身近な要素として取り入れている高齢者の所謂、非所属戦前本省人高齢者は、本研究を進める重要な一環である。終戦直後に日本語を使用する日系企業に勤務する人や、女性ではこのまま専業主婦として過ごされ、日本語は家庭内で時々話すなど、日本語における使用の傾向や考えは、年齢層に近いBグループの玉蘭荘の高齢者と日本語使用の継続経緯が類似している。そして戒厳令が解かれ、日本語が束縛されることなく公に使用が許されてから、定年退職を過ぎ、今に至るまで所々に難所がありながらも日本語の使用が自らの生活に馴染んでいるように筆者は思う。

定年退職を過ぎた今の戦前本省人高齢者は、同じ経歴をした同世代の人々が少なくなると同時に体力の衰えを感じている中、今まで絶えず話してきた日本語の使用形式に違いが見られるようになった。それは日本語を話したい、または過去に学んだ日本語を思い出したい高齢者を中心とした、老人サービスセンターや、玉蘭荘といった日本語を話す場が台湾北部の所々に設けられた。しかしながら、前にも話した高齢者特有ならではの体力の衰えに惑わされ、そのような

所すら途絶えられてしまう高齢者を本研究を進める中で見られた。そして政府が運営の支援をしている老人サービスセンター、所謂高齢者の再学習及び支援センターで開かれている日本語の授業や活動内容の選択性が少なかったり、拠点が少ないことで、せっかく設けられた場所も、高齢者の戸惑いにより遠ざけられてしまう現状にある。筆者が言うそのような高齢者が本研究の研究対象であるCグループの非所属高齢者である。本研究はこのような日本語には接したいが、今の状況には受け込めず孤立してしまいがちな日本語の使用について考える。

第3章 戦前本省人高齢者における日本語使用意識

3-1 日本語接触及び使用の動向

1945年8月15日における終戦まで使い続けてきた日本語が、1949年5月20日の戒厳令執行から1987年7月15日の戒厳令が解除されるまで、所々で制限をされるようになった。そしてその期間中である1952年には、台湾本省人が母語として話して来た台湾語や日本語の教学も厳禁にされた。それに伴って、新たな母語として、中国語（北京語）を話すよう命じられた事で、当時の本省人は戸惑いを隠せなかつただろう。しかしながら、その時期を乗り越え、今となって他国となった日本に対する終戦前の思いや記憶が、日本語を続けて話すことで、露になって行く様を筆者は不思議に思えた。

この度の研究で筆者は、日本語を続けて話して来た高齢者をあえて3グループに分類した。まず、1グループ目は、両親による影響や自らの趣味によって日本語を学ぶ「老人服務中心日本語関連クラス戦前本省人高齢者」、2グループ目は、日本語の使用が制限されつつも、私的環境で日本語を生活用語として話し、今は玉蘭荘という場所で宗教活動に伴い、日本語の活動に参加している「玉蘭荘戦前本省人高齢者」、3グループ目は2グループ目と同様、険しい時期を乗り越え、日本語を続けて話し、今は特定した機構に行かれることはなく、家族や友人と主に話している「非所属戦前本省人高齢者」の大きく3つのグループに分けた。そして以上のグループは73歳から90歳に近い様々な経験をされて来た高齢者まで、各グループごとに10名ずつインタビューを行った。果たして、以上それぞれの高齢者は、日本語を使用する経緯、そして今の使用環境が違うことで、どれだけの相違が見られるか、この第3章で分析を進めたいと思う。

3-1-1 老人サービス中心日本語関連クラス戦前本省人高齢学習者

1) 終戦後の光復時期から今に至る日本語の使用状況の変化。

老人サービス中心の日本語関連クラスにおける研究対象の中で、それぞれ、家庭要素が異なることで、日本語との接触年齢が、生まれて間もなくして触れる0~2歳のグループと、学校で始めて日本語に触れる7~9歳グループの、異なった2グループの年齢層に分類される。また、同じ戦前本省人高齢者でありながら、終戦当時の年齢や日本語の程度、住んでいる地域、そして仕事が異なることで、終戦から光復時期の日本語使用に様々な相違が見られる。そして、研究対象の日本語の程度が様々であることを考慮し、インタビューの使用言語は、比較的若いA10さん(75歳¹⁰)は、全般に北京語を使用し、その他の9人は、北京語や台湾語を加えながら、日本語を主にインタビューを行った。

終戦前、公(小)学校に入学する以前から日本語に触れていた、0~2歳のグループのA3さん(77歳)、A4さん(78歳)、A5さん(78歳)、そしてA8さん(79歳)は、光復時期に日本語の使用に対して控えるように心掛けたが、プライベートの場で使うなど、途切れることなく使われていた考えを以下の話から分かる。

A3: 兄さんと父さん、いとは殆どが日本語。私は国語家庭だから。けど、外ではあまり使わない、出来る人がいないでしょう、

A4: 話しています。環境でしょ。光復と言ってもすぐに皆、日本語を捨てることは無いでしょう。途切れることはありません。

A5: 私は小さいからね分かりません。学生でしょ、まだ学生時代は、学校は全然日本語を話さない。だけど友達の間はね、ちょっとあの、たまに単語は日本語で言います。混ぜて。

A8: (前略) 今の国語を学ぶのは大変です。だから媒介するのは日本語です。

¹⁰表示している年齢は全てインタビューを行った2012年を基準にしている

中国語で教えて、それを日本語で翻訳しないと理解できないでしょ。言葉の媒介としてはずっと使われているでしょ。

プライベートの時です。それから同年輩の方と語る時です。どうしてもその言葉は便利だから。

また、学校に入学されてから日本語に触れ始めた、7~9歳グループのA1さん(82歳)、A2さん(78歳)、A6さん(81歳)、A7さん(79歳)、A9さん(80歳)、そしてA10さん(75歳)の中で、日本語を控えたのは、A1さん、A7さん、そしてA10さんの3人である。A2さんとA9さんは普段話さないが、場所によって必要な時は日本語を使う。A6さんは、日本語を話す事を希望しているが、話せる人や家庭の環境に恵まれていないと言う。

以上の研究対象における、光復時期の日本語の使用状況について見たところ、当時は、国語(北京語)教育を進められている一方、私的環境や友人同士との会話で、使い慣れている日本語を続ける事に対して、果たして日本語を話す場所で、安心して話す事が出来る場所と、国民政府によって日本語を話してはならない場所など、制限はされていたのだろうか？

まず、両グループの中で、日本語を続けて話さなかったA1さん、A7さん、そしてA10さんは、実際に話すことがなくても、日本語が制限されている周りの環境をどの様に見ていたのだろうか？

A1：政府は(日本語を禁ずると)言っていません。私は聴いて分かりますが、話せません。

(他の人が日本語を話しているのを聞いたこと)ありません。仕事をしていてね、みんな台湾語でしたよ。

A7：話していい所もないし、話していけない所は、あまりはっきりしない。

A10：有聽過有人在講，限制就有的老師有限制，他反對你講日語。後來日語都禁止了，但是外面的人還是有在講啦。比我們年紀大的，尤其是他們在唸中學還是說用日語在溝通。¹¹

以上の話から、明確に国民政府が日本語の使用に対する政策が、見えてこない。その他の7人はどの様に当時の日本語使用環境を捉えているのだろうか？

A3：外ではあまり話さない。家は兄さんと、姉さんの二人で有時候會講¹²。

A4：もちろん後になったら、やっぱり自然とね公共の場所ではね、あまり言わない方がいいと思ってね、だから単に家庭でねお姉さんやお兄さんとかね。

A5：日本語はあまり出来なかったけどね、話せるところは、家の中ですね。片言で話していました。外ではあまり話さなかった。

A8：それはありましたね。特に軍隊入っていた頃は、うっかり一言でも日本語が出ると、睨まれますから。(中略)学校も一時は禁止になりましたね。(中略)プライベートな所があったらね、別に監視されていない以上は話せる。

A2：政府はそんなこと禁止、そんなことないです。あの時はね、補習班の費用がとっても高いですから、日本語を補習に行くとかね、不便とか費用がかかるんだから、そのチャンスが少ないんです。今はチャンスが多いですから、センターでもありますから、簡単に勉強が出来ます。日本語の補習班は滅多に少ないんですよ。機関、政府はね、先輩方には日本語を使っております。昔は、政府の職員はね、年上は皆日本語教育ですよ。だからね、私がオフィスに入っていったらね、皆で日本語を使っています。禁止はそんなことはないですよ。

A9：それはないね。ただし日本語を話す場所はね、病院のところにね商売をやっているでしょ、だから話さないと駄目。以前の南部の広東人、客家人は皆、日本語を使っていたから。日本語を習わないとね、あそこで商

¹¹ 他人が言っているのを聞いたことがあります。制限をしていると言うなら、学校の先生は、日本語を話すことに反対をしていました。それから日本語は禁止されました。しかし、外の人には話していますよ。私より年輩である人。特に中学で勉強をしている時でも、日本語を話していた人がいました。

¹² 時々話す

売が出来ない。

A6：外省人が多いところや、聴いて嫌な人、この人達と一緒に話したくないです。ある人がね、「何を言っているのか！日本語ばっか話して！」こんな人もいますよ。やっぱり相手によって、話す言語が違いますね。そして若い人はね話しても分からないんだから。

以上の7人の話しから、A3、A4、A5、A6、A8の5人は、国民政府が日本語の使用を禁じていることで、公の場所では話さず、私的の場で話しているという結果が半数を占めている。しかしながら、A2、A9さんのように、仕事における日本語の使用は、それ程制限されていないようだ。

A2、A9さんの話から、日本語の使用は、仕事の関係であれば、それ程制限されていないように見られるが、果たしてその他の人は進学や就職の為に日本語の使用、または学習をしているのだろうか？まず、日本語を使って仕事をしているA2、A9さんは、どのようにして日本語と接触していたのだろうか？また、軍隊にいた時は日本語を自由に話せなかったが、仕事の関係で日本語の使用を再開したA8さんを引き続き見て行きたい。

A2：大学を卒業して、あの職場に行った時にね、あの環境、その中の環境、その先輩方にいつも日本語を使っているんだから、あの時は習う機会がありました。しかしあの習い方はね、正確な学校じゃなくてねお互いの喋り相手に過ぎないです。それからね、あの、退職後ですね、この（老人サービスセンターの）設備があっただけからもう1度正式に学生になりました。

A9：医療機器の販売をしていました。あの時は中部の病院で、向こうの人は広東人だからね、日本語は出来る、台湾語が出来ない、だからね日本語になった。（中略）国民学校の卒業後はね、医療器械のところに入ったからね、特に学習はなかったね。

A8：仕事を転々と変えたけどね、建築業の時は殆ど日本語でしょうね。色々ね名詞は日本語で呼ばれていたわけだから。（日本人と共に同じ職場にいることなく）電話や手紙で連絡をしていました。

以上のように、仕事で日本語を使用していた A2、A9、A8 さんの 3 人は、自ら日本語を学ぼうとしているのではなく、仕事の環境に合わせるのが目的で日本語を今に至るまで使用をされている。A2、A9、A8 さんの様に、仕事がきっかけとなって、日本語を続けている人以外に、その他の人は日本語を続けるに当たって、どの様な経緯を歩んでいるのだろうか？まず A1、A7 さんは光復時期から日本語を続けることなく、仕事をリタイアしてから、自らの時間が出来たことで、老人サービスセンターで学習をされたと言う。そして A10 さんは二十歳になってから大学の第二外国語で、日本語を選択した。そして仕事の研修で日本に渡ったものの、成果が出ず、仕事をリタイアしてから、70 歳になって再び日本語の学習に励んでいると言う。ではその他の 4 人は進学や、就職の為に日本語を続けていたのだろうか？まずは、警察局長で仕事をしている A3 さん、学校の先生となった A4、A5 さん、銀行界にいる A6 さんを続けて見て行きたい。

A3：日本語を使うチャンスは少ないです。日本語の学習はリタイアからです。

A4：仕事ではもう全然使いません。仕事だって話せる人そんなに多くないでしょう。日本語話せる人少ないでしょう。私の後輩だってね殆ど日本語話せないでしょう。私と同じ同輩でもね、聞いて分かるけど話せない人も沢山おる。それは私は家庭の関係で。(中略) 旦那さんは外省人。大陸の人だからね全然話せない。だからね全然話していない。

A5：私は学校の先生ですね。だから生徒の前は皆あの、中国語を言いますね。だけど先生同士、先生同士には私より年上の先生がいますね、先生たちは一緒に話す時はたまに、さっき言った通りに単語は日本語で言います。だから私は今ちょっと日本語が出来ますのは、年上の先生たちのお陰ですよ。

A6：初めの 6 年は通信工業、あとの 6 年は鉄道部に入って、それからが銀行界です。仕事は日本語をあまり使わないですね、あまり上手ではないのだから。学習は今は自学をしています。

以上の話から気づくことで、警察局長の仕事、学校の先生、銀行界と言った仕事は、政府機関に属し、公的な場で、人との接触を優先にしている仕事ばかりで

ある。そしてこれらの仕事は、人民、学生、そして顧客の模範にならないといけない自覚から、自然に公の場における日本語使用の制限、そして北京語の習得に繋がっている事だろう。

2) 自分の子供に日本語を教えているか。

光復時期を迎えたことによって、日本語使用の制限を余儀なくされた皆さんは、私的の場で家族や友人と日本語を続けた。また A2、A8、A9 さんのように、仕事の環境によって、日本語の使用に対して比較的制限される事はなかったという経緯を見てきた。しかし、彼らが日本語を話していることに対して、光復後に生まれた、彼らの子供や孫は、どの様に対応をしているのか？また、彼らにとって母語から、外国語となった日本語を、果たして子供達に、どういった形で残しているのだろうか。

まず、光復時期になってから、日本語を話さなくなった、A1 さん、A7 さんや、大学で日本語の勉強をしたいと思いつつも、結果において途切れてしまった A10 さんの 3 人は、日本語についてどの様に説明をしていたのだろうか？まず、A1 さんの子供は日本語に対して関心がなく、A10 さんは日本語力が不十分である為、教えるまでに至らなかった。A7 さんは仕事をリタイアしてから、今の老人サービスセンターまで日本語を学んでいるが、子供達は親が日本語を話しているのに対して、学習を初めた頃は、不思議に思われていたと言う。

では、日本語を続けて話されて来た、その他の人は、日本語をどういった方法で伝えているのだろうか？仕事によって日本語を続けてきた、A2、A8、A9 さんの 3 人のうち、A8 さんや A9 さんは子供達に、日本語を教えることはなかったが、A8 さんの考えでは、普段から聞き慣れているから、自然に話していると言う。また両親が日本語を話しているのに対して、ごく当たり前と思っているだろうと、A8 さんは推測をしている。そして、最も日本語を進んで取り入れていたのは、A2 さんである。

A2：國小的時候曾經有教過，但是唸中學以後就沒有教他了。小的時候有教過他。在國小4，5年級。他們有學到50音，普通的簡單的名詞，他們都出來ますよ。但是因為升學的關係，到了中學以後他們就沒在唸了。聽我們講日語，都沒有太大的問題¹³。しかし、今はね、子供たちと一緒に、日本語ではあまり言わない。私はね、やっぱり還是希望，子供にね機会があれば日本語をね、教えたいですよ。孫でもね、時間があったら留学させたいです。

以上の話から、A2さんが日本語を教えることに対して、ごく普通な事として、取り組んでいるようである。また彼の子供も、日本語を習うことに対して違和感を覚えることなく、日本語に対する親密感すら感じられる。

A3、A4、A5、そしてA6さんの場合、A4さんは主人が外省人で、家庭内で日本語を話さない上、子供はアメリカにいて、日本語を教える機会が殆どないと言う。A6さんの孫は、学校で日本語を選択しているが、息子は殆ど分からないと言う。それに対してA3さんは、孫が大学で日本語を学習していることから、分からないことがあったらA3さんに直接聞きに来ると言う。A5さんの場合、その話から、日本への親しみが感じられる。

A5：私の息子は日本留学行きましたから、日本語は大丈夫ですよ。孫は大学で勉強しています。(中略)私の息子は日本がとても好きで、いつも日本に遊びに行くからね、私も一緒に行きます。家では機会があったらね、日本語で話します。

以上の様々な話から、日本語を話して来た人の中で、7人中3人が、日本語を孫に教えたり、生活用語の1つとして、家庭の中で話されている一方、家族と一緒に住んでいなかったり、日本語に関心がないことで、家の中で日本語を話すことすら難しい、極端な状況が進んでいる。

¹³ 小学校の時に教えました。しかし中学校に上がってから、もう教えていません。小学4~5年生の頃は、50音から簡単な名詞まで、出来るようになっていきますよ。でも進学によって、中学になってから、日本語の勉強をしなくなりました。私達が日本語を話しても、問題なく聞き取れると思いますよ。

3) 今通われている、または知っている高齢者を対象とした施設についてどの様に感じているのか。(施設における良し悪し/関連施設の増設希望)

55歳の高齢者から参加できる、老人服务中心の授業は、日々賑やか環境に包まれている。その中で、日本語の授業や、日本語を使ったカラオケの授業は、人気科目として知られている。しかし、今の授業内容だけであれば、比較的若い、60代から70代前後の高齢者に偏ってしまうのではないかと、筆者は考える。果たして研究対象の皆さんは、今通われているクラスの歌唱環境、学習環境のそれぞれに対して、どの様に思っているのだろうか？

今の授業内容や、学習環境について、どの様に思っているか質問したところ、全般において今の学習内容、先生の指導法、学習環境について、満足をしていると言う。しかし、科目の増設¹⁴や、新たな問題点について、普段考えていないことを質問するなど、現状に囚われる事なく、日本語学習に対する考えや意見を導き出そうと考えた。

A1：習いたいと思いますけど、時間がないですよ。でも、もしもあつたらね、話す勉強をしたいですよ。

A2：そうですね、話す相手がない、少ないです。まあクラスの中は皆若いから、小さい時は日本教育受けてないですから、年取ってから外国語を習うことは口が開かないですよ。だからお互いに日本語を使ってないです。日本語を使うチャンスがないです。

A5：今、習っている友達たちはね、まあ程度がちょっと足りないから、そんな科目が増えるとちょっと難しいと思います。私自分はそのNHKを良く見るから、テレビを良く見るから、自分で勉強をする。そして雑誌も読んで。分からないけど漢字があるから、その大体の意味をあてることが出来る。

A8：やっぱり言葉と言うのは会話を最初に普及させることでしょうね。だから高級班へ行ってもね、そこを終えてもね、中々習った事を応用できない

¹⁴ 今の日本語の学習を中心とした授業にはない、日本の文学、文化、歴史、地理を中心とした授業。また、年齢層にあった授業内容の多様性。

です。

A10：沒有這種課程，很少啦。因為這裡就只是基礎的教學，比較深一點的還是自己看，自己學習比較快。而且你自己學習也比較不會受到時間的限制。就日本文化、歷史等課程，都是年紀比較大的才有辦法，年紀大的學習意願不會很高啦。所以如果要上比較複雜的，可能要學習的人就不會很多¹⁵

以上、それぞれの話から分かる事として、今の授業より一步難しい、または応用する授業における受け入れは難しいようだ。日本語を話したいけど、話す相手がない、そんな環境にいないから、老人服务中心の日本語関連の授業に通い、話せる相手を見つける。というのが現状であるようだ。そして、応用を深めるなら、今は、会話環境の普及が重要であるという考えは、手に届かない未知数に溢れた、歴史や文化の領域よりも、会話など現実性の追求が、今の高齢者に必要とされているのかも知れない。

ところが、老人服务中心で、日本語関連クラスに通われている高齢学習者が、今になっても日本語学習に励む、そのきっかけは何だろうか？

A3：友達が紹介してくれました。就有興趣¹⁶。還有、自分が小さい頃が勉強していた記憶を忘れないように、連續學習，就是這樣子¹⁷。

A4：お友達が出来るからね。日本語の歌も好きですの。

A5：歌詞はちょっとね、歌だからある時は了解するのがちょっと難しいのがあります。先生が説明するから、だけど分からない時は私は辞書を引いてね、自分で勉強をします。ある時は日本語のクラスの先生に聞きます。それに私もとから歌が好きだから。

¹⁵ そんな授業は少ないですよ。ここは基礎的なものばかりを教えているから。難しいのは、自分で学んだ方が速いですよ。それに、自分で学んだ方が時間の制限もないから。日本の文化や歴史の授業を受けるんだったら、年齢層が高い人でないと無理だ。でも、それらの人は学習意欲が高くないと思うよ。だから、難しい授業になると、習う人がそんなに多くないと思うよ。

¹⁶ 興味がある

¹⁷ 続けて勉強をする。こんな感じです。

A7：ただここに来て、日本語を話す仲間があったらうれしい。その感じだけ。しかしここ出たら、話す相手もないですよ。

A8：日本語の歌に触れることが出来るからいいんだ。

A10：我的哥哥以前都在講日語。那我都聽不懂阿，（中略）以外就剛開始有到日本去研習三個月，但是那時候沒有基礎，然後他們講我還是聽不懂。然後我回來台灣他們有寫信，我連那個信都看不懂，我還是想稍微要懂一下才開始學習日文。就是因為有那一段的經過，所以退休反正有時間，就自己來這邊學習日語。¹⁸

以上の話から、高齢者には良くある、友人が出来たらいい、という答えも数々返ってきた。そして過去の経験が深く影響をしているようだ。幼い頃に触れた日本語や、歌った日本語の民謡、両親が聞いていた演歌など終戦から今に至るまで、その記憶は途切れる事無く続けて偲ばれ、その溢れ出す思いを、仕事のリタイアと共に老人服务中心の授業で、少しながら現実化させていると考えていいだろう。

老人服务中心における、日本語学習環境や学習を始めたきっかけなどと、質問を進めてきたが、学習者は、現実性を追求した会話の授業が必要であるという傾向にたどりつつあったが、日本語を学ぶその姿勢は、日本の何に対して同感、または関心を引き寄せられたのか、以下の3人の話を参考にする。

A2：それは、なんと言うのですかな、私は恐らく小さい時にね、日本人になったことがありますから、そういう関係があります。他の人はどうか私は全然分かりませんね。私の友達はね日本の事にね詳しいから、もっと分かります。今はね日本の大学の教科書とかね、正式の教科書を見たいですよ。この中にもね、そういう人がいますよ。

¹⁸ 兄が以前から日本語を話して、私は全然分かりませんでした。（中略）また、日本まで3ヶ月研修に行ったことがあるけど、その時は基礎がなかったから、何を言っているのか全く分かりませんでした。そして帰国後、先方から手紙が送られてきましたが、内容が全く分からなかったのので、このままではいけないと思って、日本語の学習を始めました。そんな過去があったから、リタイヤして、時間があったから、ここに来て日本語を学んでいます。

A5 : それはね、良くあのいつも日本行くでしょ、そうすると歴史が分からないとね、あの、解釈しても何言っているか分からないでしょ、だからそれをね、とっても習いたいの。だけど最近の NHK に沢山歴史の映画とか時代劇があるから、私はその中からちょっと了解しています。

A8 : 日本の文学ですかね。もともと私が子供の頃から好きだったです。私がもう小学校の頃からですね、日本文学全集、大衆文学全集のような本を読みますから。それから散文も読んでいました。

以上の 3 人の話から、A2 さんの場合は、日本植民地時代に、日本人になった経験から、日本の時事に興味があると言う。今は当時とは違う国籍、そして使用言語も大きく違っているが、自らの子供に対する教育や躾け、職場の中における小さな日本語社会、そして仕事のリタイアから日本語の再教育を初め、日本国籍であった、当時の自分を知らず知らずのうちに、台湾人である真実に背いた、無形の意志を辿っていたのかも知れない。また、A5 さんは元から興味を持っていた歴史と、日本観光を組み合わせることで、慣れ親しんだ、日本との距離を縮めているように感じる。そして A8 さんは小学校の頃に読んでいた日本文学を通じて、今に至るまで途切れる事無く、続けてきた日本語を、老人サービスセンターで、如何に自らの興味や感情を整理することが可能だろうか？

4) 今通われている施設以外に、日本語を使用する場所に行っているか。

老人サービスセンターで日本語関連の授業に通われている以外、果たして他のところで日本語を使用する場所に行かれているのだろうか？

A2 : 私はね、今 2ヶ所のところで勉強をしています。こっちの他に、天母の図書館にも、一ヶ所行っています。(中略) ここのクラスメートも、あそこの学生があります。天母はね、教科書が半分だけで、他のは漫画を教えています。まあ小さい時には学校にね、漫画の本は禁止していますよ。あの時は学校の中はね漫画の本は見えていけませんですよ。今はとっても流行しているそうですが。だからその先生は、私は頑固とか時代遅れだ

という気持ちですよ。

A3：我也有在別的地方上，就是天母圖書館，日本語の先生で女の方。日本語を勉強しています。面白いからね。

A6：行っていません。他のところでも学びたいんですが、けどね、教育電台で日本語の勉強をしていますから、私もその教科書を買いました。自分で学んでいます。教科書はね難しいところには翻訳が書いてありますから、いいんだ、その本は。

10人中の2人ではあるが、筆者は、日本語を学習することに対して、複数の場所を回ることに驚いている。今まで出会った高齢学習者は、足が弱く、身体の衰えもあって、1ヶ所に行かれるのが精一杯だった。しかしA2さんやA3さんのように、異なった習い事をするのではなく、同じ日本語関係の授業に行かれているのは珍しい。天母の教材は固定したイメージを与えない漫画を使うことによって、学習者の興味を寄せている。これは高齢学習者における教育に大事な一環である。そして身体の衰えを乗り越えてまで、日本語を続けるその姿勢は、素晴らしい事である。また授業が終わった後に、家で復習をする学習者が数多くいるが、A6さんは、自ら教材を買って日本語力をつけている。ここで、取り上げていないが、A10さんも自ら、教科書や辞書を買って自習をしていると言う。高齢者に向けた日本語学習の教材は、殆ど出版されておらず、日本語を学習するには、問題点があると言えよう。しかしながら、A6さんやA10さんのように自習を試みる高齢者向けの教材を出版することも必要ではないだろうか？

5) 普段の日本語の使用環境や高齢者を対象とした日本語使用施設について。

老人サービスセンターで、日本語関連授業に励んでいる高齢学習者は、果たして普段から、家庭内や住んでいる周囲の環境で、日本語を話せる環境にいるだろうか？まずは日本語を使う機会が少ない以下の6人から始める。

- A1 : 少しぐらいですね、いつもは話していない。家の中で話せるのは僕 1 人だからね。家内はね少し分かるけどね、いつも台湾語で話していますからね。回りの環境もね、話せる人はいないですよ。
- A3 : 平常是不會講的。家の兄ちゃん就會講。兄ちゃんは三つ上。他就會說。家裡就只有兄ちゃんだけ。剩下的就都不會講¹⁹。
- A6 : 普段、ここ以外は日本語を話すチャンスが少ないだから。住んでいる周りの人はね、若い人が多いだから話しません。
- A7 : 今はここ以外に、日本語を話すチャンスはないですよ。家族も話しませんよ。興味ないだから。
- A8 : 家の中はね、子供と別居していますから、私と家内（再婚/今は 60 代）の間では、片言ですね、そんなに十分ではありません。聞くのは問題ないけど、喋るとなると、使う機会がないから。そして家を出たらもっと話す機会が少なくなりますね。日本語を話すとしたらここと、同年輩との会合とかですね。
- A10 : 沒有。有時候會看一些 NHK，會稍微聽一下。但是吸收的部份不會很多²⁰。（中略）跟年紀比較大的朋友聚在一起，會聽他們講。

以上の 6 人の話から、家庭内で本人と話されるのは台湾語であり、日本語を話す人がいない。しかしその中で、A3 さんは三つ上の兄と電話で連絡を取り合っていると言う。しかし桃園に住んでいる為、普段出会うことは難しい。A8 さんは、子供と別居している為、奥さんと 2 人で住んでいるが、日本語は片言で、会話することは難しいと言う。A10 さんは、住んでいる周囲の環境で、年輩の方々と集う時は、彼らが日本語を話しているのを聞いていると言う。少しながら日本語には触れているが、授業の他、普段から話す環境にいないことが日本語使用の不足の現状である。その他の 5 人は、比較的日本語を話せる環境

¹⁹ 他の人は話せません。

²⁰ ないです。時々NHKをみながら聞き流します。しかし、吸収できる部分は少ないです。（中略）年輩の方々と集う時は、彼らが話しているのを聞きます。

にいると言えよう。

A2 : 家の家内は、日本語を使っています。友達の間でね、互いに日本語で会話をしています。練習の為にもね。でもね、普段の生活はね日本語は少ないです。台湾語や中国語が多いです。そしてね、住んでいる周りの環境も話している人はいないですね。でも公園にいる時はね、お互いに日本語を使っています。

A4 : 私の同じ年頃の友達だったらね、日本語や台湾語、国語を混ぜてね、普通はそんな会話の仕方をしていますの。そして私のお姉さんは、女学校は日本時代だったからね、お姉さんと一緒に話す時もやっぱり沢山日本語を使いますの。

A5 : 今はね、家では息子と少し話します。息子だけ。学校（老人サービスセンター）に来たら年寄りの方がいるからね。それから先生と話しますよ、先生は日本人だからね。ここに来ないと私の環境はただ息子だけ。

A9 : 今は奥さんとね日本語を習っていますから、簡単な日本語だったらね。やっぱり話していますよ。でもね、殆どが台湾語ですね。

以上の話から、A2さんの奥さんは、友人と日本語で話している事で、A2さんと互いに日本語で話すことが出来ると言う。しかしその状況は普段の生活用語には繋がらず、台湾語や中国語で話すことが多い。A4さんは、友人との共通言語は日本語であるが、家庭内は日本語で話すことが殆どなく、隣に住んでいる姉と日本語を話すことが多い。A9さんは奥さんと共に日本語を習っているが、それは練習の時に留まり、殆どの使用言語は台湾語である。A5さんはその他の人と比べ、家庭内で日常会話として、日本語を話す機会が多いと言えよう。しかし主人と日本語を話す事はなく、老人サービスセンターと息子の2カ所に留まってしまう。色々を見てきたが、夫妻が共に日本語を日常会話として話せるのは、本当にごく一部であると言えよう。

高齢者が、日本語を話したいと希望するなら、老人サービスセンターのような高齢者を対象とした学習機構で、日本語の関連クラスに入られる他、日本語を話す環境が少なくなったと感ずる中、果たして研究対象の皆さんは、学習機構から一歩踏み出した高齢者の日本語の使用環境を、どの様に見ているのだろうか？

日本語が話せる高齢者が、年々と減る中、日本語の使用環境も同様に減っていると感じている様子を、以下の話から伝わる。

A3：好像比較少。就算有，他們講的還是不太…發音方面…わたし也還是不太流利啊²¹。(中略) 先週の月曜日は日本から樺山の同窓生や先輩の30何人が台湾にいらっしゃって、その時はあの人達と一緒に唱校歌とか、先週にね。在這時候才會講日語²²。

A4：ないようですね。話せる環境は少ないと思いますよ。それに高齢の方々が年々と少なくなっていますから。私が日本語を話せるのは、お姉さんやお兄さんがおる、だから自然とね日本語話す機会がある。そして、私と同じ頃のね友達がおるから、その友達と一緒にになったらね、日本語、中国語、台湾語と混ぜ合ってお話すると、自然と日本語がやっばし進歩しますの。

A5：日本語を話す人は、私たちの年齢でね、限られるでしょ。若い人達はあまり話すのは無理。歌を歌うのは上手だけどね。

(高齢者を対象とした使用環境は) 少ない。学校(老人サービスセンター)以外は殆どね。ただ同窓と一緒にだったら話します。でもね、同窓と言ってもそんなにないね、只有幾個會講²³。そしてね、私(当時陳さんは78歳)の三つ下の人は、全然日本語が出来ません。特別に家の環境とか、商売人、貿易商とかね、日本人と接触している人は案外出来るかも知れないね。でもね、今(2012年当時)の75歳以下の人はちょっと難しい。

A6：もちろん、年をとる者はね、1年1年と少なくなっていくからね、使

²¹ 少ないようですね。あったとしても、話している感じが…発音もね。私だって流暢じゃないのよ。

²² このような時にだけ日本語を使います。

²³ 話せる人は限られています。

用できる環境は少なくなると思います。それにね、話したい人もいれば、話したくない人もいるだから。相手がいないとね難しいだから。

A7: 高齢者と言っても、日本語をスラスラと喋れる人も少ないだから。温泉に入っている時は、高齢者いるけど、台湾語ばかりですよ。日本語分かったらと思うけれども、あまり喋らない。

A8: 段々ともう減ったと思いますね。喋れる人はもう段々と年をとって、亡くなられるし、それから後継者達はね、もう日本語には興味があるし、または職業的に必要な人もいるけれど、一般では国語が主体になっていますね。

以上の話から、同じ戦前的高齢者であっても 75 歳以下の人は話せないと考えているようだ。また、年齢層の他、日本語を話す環境は少なくなっていることで、話せる場面も限られ、兄や姉と会った時、同窓会、友人と電話、または食事の誘いをするなど、特定した場所や時間集わないと、日本語を話す機会が少なくなる。高齢者によって話されていた使用範囲も縮まる事で、日常用語としていた日本語は、徐々に遠ざかる事だろう。しかし、その状況を防ぐために、

A2 さんが以下のように、話している方法が出来ている。

A2: 使用の環境と言ってもね、習う所はありますよ。自分達で集まってやっているところです。政府の政策じゃなくてね、自分たちの趣味でね、日本人の先生を呼んでいます。若い人も一緒にやっています。しかし、日本語を使うチャンスは本当に少ないです。

A2 さんが話している集いの場であるように、高齢者、若者などと、年齢の制限を無くし、自ら日本人の先生を呼んで、学びたいものを学ぶ、話し相手が欲しい人には、先生や他に日本語が出来る人が相手をしてくれるなど、外国語の学習塾みたいに、学習内容に囚われる事無く、伸び伸びと出来る方法は、減少する戦前高齢者にとっても新たな環境であると言えよう。

限られた場所、対象、そして時間帯によって話される日本語は、戦前高齢者にとっても、徐々に日常用語として薄れつつある。その中で、普段の生活環境から気軽に日本語が話せる環境を希望するか、また、その使用環境の範囲を拡

大する事を望むか、について聞いてみたところ、以下のような返答があった。

- A1：欲しいですよ。自分の為に、日本語を話したいですね。話さないと忘れてしまうから。ここに来なくても、住んでいるところでも話したいですからね。
- A2：もちろん、そんな環境があったらいいですよ。自分の会話も上手になりますよ。ただしその環境がないですよ。しかしその場所があったら勉強行きたいです。
- A4：やっぱり普段の環境だとね、もしもね、だって私は日本語は話せるでしょ、だからもしもそんな環境があったらね、欲しいと思います。お互い言語が通じるならば。それにね、年が近い方が話しやすいわね。
- A5：私は当然欲しいです。でも他の人は分かりません。私は日本語が昔から好きです。姉さんが5つ年上でしょ、だから私は姉さんと一緒に話すのは、殆ど日本語で話す。それを抜いて、他の人はあまりそんな機会がありません。ずっと日本小説も雑誌も好きだから、当然私は日本語を習いたい、そしてね、深めたい。機会があったら日本語で話します。
- A7：話せる相手いないから、でも話せる環境は欲しいですよ。
- A9：家の中では使っているよ、でも外では使っていない。相手がないからね。話せるところがあったら行きますよ。
- A10：有那樣的環境，會想要去看看。如果可以交到日本朋友，也可以在其中學習到日語²⁴。

以上の返答は、比較的日本語を話せる環境や、その拡大を希望している学習者である。今は、話せる環境や相手がない事で、そのような環境を希望している。その中から、日本語を続けたいと言う気持ちは、言葉だけでなく、その口調からも強く感じる。そして筆者は、その日本語が話せる環境は、日々日常生活の一部となって続けるのであれば、自宅からあまり離れないほうが、高齢者

²⁴ その様な環境があったら、行ってみたいと思います。日本の友人が出来たり、日本語を学ぶことが出来ると思います。

の方々にも行きやすいのではないかと。しかし、皆々が日本語を話せる環境の拡大を求めているわけではなく、今の使用環境で十分と感じ、あったらいいけど、必ずしも必要ではないと考える人も、出ているのは確かである。

6) 日本語の図書利用について。

老人サービスセンターで日本語に触れる、そして家の中ではNHKの他、日本語に触れることは難しい中、自宅や図書館、閲覧室で、日本語の書籍や雑誌を読まれるなど、違った方法で日本語との接触を、試みているのだろうか？

A1：あまり行かないですよ。日本語の本や雑誌も読んだこともないですよ。あまり図書館に行ってみないから。

A3：読んでいませんよ。目がちょっと良くないからね、あの、テレビだけ、日本の番組を見たり、歌を聴いたり。

A6：読んでいます。辞書を調べるのが好きです。4冊ぐらい持っていますよ。また教育電台の教科書や似たような本も読んでいます。出来るだけ学びたいです。日本語の本は家の近くにある紀伊国屋に行っています。図書館は遠いだから行きません。

A7：私はね、図書館に行ったことないですよ。そして、借り本はあまり趣味がない。本屋だったら、好きだったら、1~2冊買います。

A10：在家會看課本，字典。我沒有去過圖書館²⁵。

以上の話から、老人サービスセンターで日本語の関連授業で教科書に触れる以外、A1さんやA3さんのように、目が良くない、またはそんな習慣がないなどと、書籍に触れる時間は明らかに少ない。そしてA6さん、A7さんのように、図書館には行かないが本屋さんに行くケース、または、A10さんのように外では本を見ないけど、自宅に戻ったら教科書や時点を調べるなど、必要最低限の日本語

²⁵ 自宅で教科書や辞典を調べるけど、図書館には行ったことない。

に触れているなど、学習機構から一步踏み出した環境でも、自分なりの方法でやっている。

3-1-2 玉蘭荘戦前本省人高齢者

1) 終戦後の光復時期から今に至る日本語の使用状況の変化

終戦後の光復時期における日本語の使用について限られた事はあるか、という問いに対して、公的の場（学校/就職先）、私的の場（家族/親戚）それぞれの使用言語が違っていた。日本植民地時代まで生活用語として話していた日本語が、光復を迎えた事から、生活用語で日本語を話してはならないという思想に導かれた。たとえ強制的でなくても、周囲の環境がその様にさせていた。しかしながらその中で日本語の使用が所々にて続けられ話されていた。その中で、特に厳しく日本語の使用を禁じられた公的の場では、仕事関係であれば日本語の使用を許可されていたことが以下の話から分かる。

- B3: 貿易会社はね、日本と貿易をしているわけよ。だからお客さんが来たら、全てが日本人ですよ。だから日本語を喋る機会が多いんだよな。その貿易会社には、普通は台湾語と日本語ですよ。北京語は殆ど使わない。
- B6: 光復後は中国人と1~2年、一緒に仕事するようになったの。(中略)そして職場では北京語の注音を教えていたけどね、特に日本語は話していけない事はなかったのね。
- B8: 仕事の関係で日本の技術者と話す必要があるから、限られることはなかった。

そして日本と直接関わりがある仕事以外の公の場では、日本語の使用禁止が当然とされて来た。また仕事で禁じられる以外に、家から出た外省人がいる周囲の環境からも、日本語の使用が自然に禁じられる傾向にあり、そして反感を抱かれていたことが以下の話から分かる。

- B2: 日本語を使ってはいけないと言われた。だから外に出たら日本語を話さない。
- B5: 外ではあまり大きい声で話せなかったのね。(中略) 仕事をする場所では北京語を使いなさい、使いなさいと厳しく。
- B10: 隣の人がね、そもそも外省人だったの。そして私が友達と日本語を話していたらね、文句言って来た。「あなたは日本人なの？ どうして日本語を話すの？」と抗議をされた事がある。

以上から分かるように、光復時期は日本との仕事上の関係を保ちながらも、その仕事上の環境から一步踏み出したら、強制に日本語を禁じられたり、そう周りから反感を抱かせない為に、公的における日本語の使用を禁じる他、選択肢がない環境にいたと言えよう。

しかし、そのような環境にいたとは言え、日本植民地時代で長期間に渡って日本語を話してきた本省人にとって、国民政府の政策から、日本語の使用を完全に断ち切ることには困難があったと言えよう。だから公的の場、または外出をしたら、日本語を話すことが困難であっても、家族や親戚との私的における使用言語は、日本語の使用が続けられていた事が以下の話から分かる。

- B1: 家の中では厳格に言われてなかったですけど、親戚は日本語を言えた場合はですね、言える方に対しては日本語が使いやすいだから日本語で話しております。
- B2: 家の中や友人同士との間では日本語が話しやすいから、話していました、台湾語よりね。つまり外に聞こえなかったら自由に話していました。
- B5: お家の中でしか言えない。でも友達とは日本語を話していたのね。

公的の場で日本語を話す事は困難であるから、私的の場で話す人がいた中でも、日本語を話したいけれど、その考えから遠ざかり、国民政府に恐怖心を抱え、その政策に背くことなく従う人もいた。

- B9: 国民政府が来た後は、全面に日本語を禁止しました。国民学校の教えでは絶対に北京語を話ささいと言うから、プライベートでも北京語を話すようにしていた。それは両親はたまに話してたけど、白色恐怖があっ

たから話すのは怖いですよ。それに密告された人がいると聞いたことあるから。

以上の話から B9 さんは、公的、または私的環境に関係なく日本語の使用を自ら禁じていたことが分かる。このような考えに導かれたのは、B9 さんが接した環境にも深く影響があると言えよう。それは終戦当時 B9 さんは、他のインタビューに応じた人と比較的若く、また学生であったことで、国民学校の先生からの教えが、深く影響を及ぼしたのではないかと考える。

また、1949 年から 1987 年まで、38 年にも及ぶ戒厳令が解除（解厳）される前後に及ぶ日本語の使用について、違いは感じられたか質問をした。その中で、仕事の関係で日本語の使用を許可されていた人や、公の場で話すことはなくても、私的の場で使い慣れている日本語を話す人など、続けて来た日本語の使用について、果たして変化は見られただろうか。

同じく仕事に日本語の使用を許可されていた B3 さんや B8 さんのうち、技師として日本人との接触時間が長い B8 さんは、あまり変化が感じられなかったようだ。しかし貿易会社に勤めていた B3 さんは、その解厳前後の変化が感じられたことが以下の話から分かる。

B3: 日本語を喋る環境がなんだか、増えた見たいやな。日本語が少し自由になったみたいなんだ。前よりかは自由に喋れるようになったね。

そして、私的環境で日本語を使い続けて来た人は解厳によって日本語の使用に大きな変化がないと話中でも、より民主化となった台湾の政策に怯えることが少なくなり、公の場でも傍の人に気を使うことなく日本語を使えるようになった。しかし、解厳され比較的自由になり、その変化が見られた B3 さんでも、仕事以外の場所で日本語を話したことによって、部分の外省人の反感を招く事を以下の話から分かる。

B3: (前略)ところが日本語ばかり喋っているとね、あの大陸系の人からね、聞いとったらいい気持ちしないらしいんだよ。だから嫌な顔をするんだよ。戒厳令が解かれた後も嫌がる人は嫌がるんだよ。

以上の話から、戒厳令が解除された当時、日本語の使用に対して制限されることが少なくなったとは言い、その状況が一変して許可される、または、周囲における外省人に日本語を生活用語として使うことを納得されるまで、時間が必要とだと考えられる。

2) 自分の子供に日本語を教えているか。

自分の子供に対して日本語を教えているか、そして今は話すことが出来るかという問いについて、インタビューに応じた(10人中8人)の人達は子供たちに日本語を教える機会がなかった。しかし、その中で子供の当時の年齢を考えた上で教えていない、または子供が興味を示さなかったから殆ど話せないのは、B3さん、B4さん、そしてB6さんの3人となった。そして他の4人は特に日本語を教えるはしなかったが、両親が日本語を話している事で、その影響を受けているのではないかと、以下の話で推測することが出来る。

B2: 客家語の方が小さい頃から話し慣れているからね。子供はね日本語が殆ど話せるけどね、話す機会がないの。客家語を話しているからね。

B5: いちいち教えていなかった。ちゃんぽんちゃんぽんでお説教している時とかね。

B8: 機会がなかったわけですよ。学校にもう勉強に行っているから。しかし子供は話せます。日本に留学したことがあるから、自学です。

B9: ありませんね。戒厳令の時だからね。でも娘はね、大学の選択科目で日本語の授業をとりました。

B10: 子供たちはもう北京語を習っているんだから、教えていない。わざわざ教えてないけど、私と主人が話しているのを聞いて分かって来たからね。そして今は簡単な言葉なら話せる。

また、**B6**さんは自分の子供には日本語を教えはしなかったが、孫の子守をしていた事から、歌を通して少しながら教えていた。更に**B1**さん、そして**B7**さんは、日本語を正式に教えていると言うより、子供が興味を示していたら教える、または、日本語に触れて欲しいという思いで、日本語を教えている。

つまり、自らの子供における日本語の教育や日本語を話してもらいたい気持ちは、当時の教育や身近な環境に影響されつつも、子供たちが日本語を回避しない限り、日本語に接して欲しいと考えていると言えよう。

3) 今通われている、または知っている高齢者を対象とした施設についてどの様に感じているのか。(施設における良し悪し/関連施設の増設希望)

今通われている玉蘭荘という施設について、皆さんはどの様に知ったのか、という問いに、(10人中7人)が友達の紹介によるものである。そして、他の3人は宗教による集会の集いによる玉蘭荘の会員から知らされている。また、インタビューに応じた人の中で10年以上通いつけている人は5人に及んだ。

更に、玉蘭荘の最大の魅力とは何か、という問いに対して、皆さんは年齢層が近く、過去に同じような体験をしていることで、使用言語や日本における考えが通じ合う、そして親近感やその環境特有の居心地の良さが、以下の話にて伝わって来る。

B1: 言語の方面と、皆と気が合うから。同じ日本語の教育を受けた人が多いですから。

B2: 皆さんの年が同じくらいで、(中略)来るとまず日本の歌が歌えるんですよ。

B4: 第一に皆日本語の程度が同じくらいだから自由に話せる。それからここ

に来るボランティアや先生方がね、日本語がうまいから。

B5: やっぱり皆日本語で話せて、日本語の教育の水準で付き合えているのがうれしいね。皆日本の教育で、まあ、僅かだけどね本当にいいと思います。皆ね仕来たりと弁えがあるから。

B6: 皆と一緒に語り合っただね、色んなことを話して、それが一番楽しいの。

B7: (前略) ただ日本語を話せるチャンスが多くなりました。

B8: 結局ボランティアがね、とても親切でね、とても気持ちいいです。それに日本語が話せるからいいね。気分的に穏やかでね、礼儀正しいです。

B10: 皆同じ年配者で思想の差も無く、そしてね皆ちゃんと教養がある。思想がほぼ同じぐらいでレベルが同じ。

以上のように年齢層が近い人達が、生活用語として来た日本語を、何も躊躇することなく話す事が出来る玉蘭荘の存在は、日本語世代の高齢者にとって、自らの考えの発言、そして存在感のアピールが実現された、掛替えのない環境と言っても過剰ではないだろう。更に日本語がメインとなって話せるだけでなく、クリスチャンを重視した宗教活動も組まれている事で、自ら携わっている宗教が重視されている喜びや、毎日の生活、そしてその心の支えとして玉蘭荘に通い続けている事は以下の話からでも分かる。

B3: 日本語で牧師さんの説教が聴けること。一般の長老会は台湾語だからね。これが出来なかったら私は来ないですよ。(中略) 日本語の説教があるでしょ、日本語の賛美歌でしょ、日本語の聖書でしょ。私はこれが大好きなんだよ。これの為に来ているわけ。これがなかったら私はあまり来る必要がないんだよ。

B6: 洗礼を受けてないけど、興味はもっているの。うちの主人が亡くなった時もね賛美歌を歌いました。玉蘭荘の皆と一緒にね。

B9: 日本語で自由に喋る。そして奉仕が出来る。そして病気で来れない人のところに行ってお祈りをしてあげる。私は長老教会の長老です。だから

人を慰めることをやりたいです。

そして、玉蘭荘に改善して欲しい所はあるか、という問いについて、他に実行して欲しいことなど、それ何の考えや希望があるが、殆どの方が現状維持で特に問題がないと応えた。ただし、当時の設立目的の一つである、戦前や戦後に台湾に嫁いで来た日本人婦人の方々が、年が進むに連れて減少していくこの状況をどのように補うべきか考える必要がある。

4) 今通われている施設以外に、日本語を使用する場所に行っているか。

同じく日本植民地時代を経験したことで日本語が話せたり、日本語を使って宗教に携わることが出来る玉蘭荘以外に、日本語を使用することが出来る施設に通われているかについて質問をした。中には、教会の宗教活動で日本語を使用されている人が1人、歌のレッスンで日本語に触れている人が1人、その他は、特に決まった施設で日本語を使用することなく、普段の生活で友人と話す時や、外で買い物をする時に、日本語が話せる店員と日本語を交わしている。

5) 普段の日本語の使用環境や高齢者を対象とした日本語使用施設について

玉蘭荘以外の施設で日本語を使用することが殆どない皆さんは、果たして普段の生活における日本語の使用状況はどうだろうか。B1さんとB4さんの2人は、家庭内で家内と台湾語の他に、ちゃんぽんでありながら日本語を話す。そしてB5さん、B6さん、そしてB7さんの3人は、息子や孫と片言でありながら日本語を話している。しかしこの中でB5さんと日本語を話す孫はオーストラリアに移民した事で、日本語を話す機会が少なくなったと言う。そして他の5人は、主人または家内が亡くなったことで、家庭内で日本語が話せる人がいないことなど、友人と話されるが、日本語使用の機会が徐々に減っていることが以下の話から分かる。

B2: 家にいたら日本語は話さない。話さないと言うのはね、話せるのは私と同等の人でないとね、主人もいないしね。それで子供たちも今の中国語教育でしょ、だから私は家庭では客家語で話しています。それで嫁と孫はね中国語で話しているの。上手な中国語ではないけれどね、結構通じるの。

B3: 今はね、実際に言ったら私、自分1人で住んでいるんだよ。家内は10年前に死んでね。

B8: 話せるのはここだけです。家の中では台湾語を使っています。他の所はあまりないです。

B9: 今は玉蘭荘だけです。家は妻も子供も話せないです。私は再婚をしていて妻とは13歳差で台湾語を話しています。子供とは北京語です。

B10: 今はだめね。と言うのは私は今、一人暮らしで子供たちも傍にいない。殆ど日本語を話している主人も15年前に亡くなっているし、そしてね、私の友達日本人の同級生でしょう、だから友達と電話で話す他に、話し相手がない。(中略)それに住んでいる周りは台湾語が多いね。と言うのはね、話せた人もだんだん下手になって来ている。

以上の話から分かるように、日本語を話すことが難しいのは、生活を共にして来た主人、または家内が亡くなった後も子供とは住まず、一人暮らしを選択した事で、人との関わりが少なくなっている場合、または家族と共に住みながらも、日本語が全く話せない場合の大きく2つの傾向に分けられる。

そして、その親しみある日本語は、一方が亡くなったことで、家庭内での使用が少なくなり、その末には家族と日本語を話す事さえ諦めた人がいた事だろう。しかしながら、共通の体験や話題がある人に出会える玉蘭荘に辿り着いたことは、家庭内で消えつつあった親しみある日本語を話していた記憶、そして何よりも大切なのは、自らのもう一つの拠り所を見つけた事に相当するだろう。

また、普段の生活環境から日本語が気軽に話せる所が欲しいか、という問い

に対して、全ての応答者が、そのような環境があったら行ってみたいと、意欲を示している。その中で B2 さんや B5 さんの 2 人は、家から玉蘭荘までの距離が遠いことにあった。足腰が弱って行動が不自由である高齢者にとって週 2 回の活動日も、体力的や交通費のどちらにおいても、負担になると考える。また、住んでいる周りの環境に対して、日本語が話せる人が少ないことに、寂しい気持ちや失望感が伝わって来る。その反面、筆者が日本語が話せる環境づくりについて話したことには期待感が現れるなど、話しの中からその感情の変化が感じられた。

B3: そんな環境があったらすぐ行きますよ。すぐ近くにもしも玉蘭荘みたいなのが別にあったら行きますよ。

B4: 思いますけど、日本語を話せる環境は少なくなったみたいですね。今住んでいる所はそんな環境ないです。

B5: 玉蘭荘みたいな所があったら行きたいね。日本語が話せる環境があったらね。

B6: そうね、やっぱり欲しいと思いますよ。話しているのは、友人との電話や会食ぐらいだからね。

B8: そんな機会があったら欲しいです。台湾人がいても話しませんね。殆ど機会がありません。

B9: 思いますよ。今、住んでいる環境で日本語を話せる人はいないですね。私より年配の方はいますけれど、あまり日本語を話す環境がなければ、徐々に忘れてしまいますよ。だから日本語を話す人は少ないですよ。

B10: 住んでいる所の付近で日本語が話せるのもいいね。私はあまり他の人と接してないから、他の人はどう考えているか分からないけどね。でも話せる環境があったら行ってみたいと思います。

以上のように筆者が取り上げた応答の中で、筆者は 6 人中全ての人に、ある傾向が感じられる。特に B4 さん、B8 さん、そして B9 さん、の 3 人は日本語が

話せる環境における期待感以上に、その応答の中には、疑問や不安が所々に感じられたことから、彼らにとって住んでいる付近の環境で、日本語が話せるのは何を意味するだろうか。、またその考えを具体化するにはどうしたらいいか、今後の問題点について終論にて筆者自らの考えを述べたいと思う。

6) 日本語の図書利用について

玉蘭荘を始め、家族や友人との会話で日本語が話されているが、図書館や閲覧室、または書店まで、日本語関連の本を読まれているか、という問いに対して、B2さん、B3さん、B5さん、そしてB7さんの4人は図書館や書店まで本を読まれる習慣があるのに対して、B1さん、B2さん、そしてB8さんの3人は友人同士で回し読みをしたり、家で静かに本を読まれることが多い。また、B4さんやB9さんのように、お金をかけずに玉蘭荘にある蔵書を読まれている人もいる。皆さんは必ずしも特定した場所に行かれることはないが、日本語を話されるだけでなく、日本語の本も好んで読まれている傾向がある。

3-1-3 非所属戦前本省人高齢者

1) 終戦後の光復時期から今に至る日本語の使用状況の変化。

このグループの高齢者は、その他の2グループとは違い、日本語の使用を続けるために、老人サービスセンターや玉蘭荘など、決まった時間に日本語に触れているのではなく、家族の中で日本語を話せる人と話したり、友人と不定期に連絡をする時に話すなど、生活用語の1つとして日本語を使用する。

まず、終戦後の光復時期に日本語の使用について限られた事はあるか、と言う問いに対して、環境に関係なく日本語を使用しているC5、C7さんや、当時の環境による影響から、日本語の使用を控えたC6、C8、C10さんの様に、日本語使用におけるそれぞれの違いが、以下の話から分かる。

C5 : 日本語をずっと使用しています。どんな時でも使用しています。注意された事ありません。自由自在です。光復当時は殆ど日本語を使っていました。

C7 : 家ではね、主人がね、いつも言う。いつでも話している。友達でね、日本語教育の場合はね、皆日本語で話している。仕事でも日本語を使っていたからね、途切れた事はないです。戒厳令とかね、日本語限られない。そんなの無いです。

C6 : 話していけないよ。皆日本語を話させない、皆中国語、国語、それから台湾語を話していた。そして今はね、中国語、日本語、台湾語の何を話してもかまわない。

C8 : 別に、限られた事はないけどね。しかしね、公にある機関では限られています。だから私達も、公共の場所で日本語を避けた方が安全です。時に関係なく控えていました。

C10 : 終戦当時は無かった。宋楚瑜が新聞局長になった時に、日本語や台湾語が制限されたね。歌も歌ってはいけない。ラジオも日本語は駄目だったね。

以上の話から、専業主婦である C5 さんや、専業主婦でありながら家が作業場である C7 さんは、日本語を話す場所として家の中が多く、公の場の日本語制限における影響は、少ないと考えられる。また、日本語の使用を控えた C6 さんは専業主婦である他、学校の先生である C8 さんや台湾電力の仕事に就かれた C10 さんは、職場における日本語制限の影響を受けているから、日本語の使用を控えるようになっただろう。更に、光復当時はまだ学生で、学校における制限を受けた C1 や C3 さんや、就職により、周りの環境に気を使いながらも、日本語の使用が学生と比べて自由である C2、C4、C9 さんなど、学生、または仕事の場における環境の違いをもとに、日本語の使用状況にも影響が見られた。

C1 : 学校ではあまり日本語を話せなくなったのね。終戦の時はね。と言うのは国民党が来た時は、一時戒厳令があって、その間、学校ではあまり自由

には話して無かったね。影ではやっぱり皆話していたよ。友達同士では日本語で、一応皆は日本語教育を受けているから、一応皆はスラスラに話していたけど、大っぴらには話さなかったですね。

C1 : (国民政府による日本語使用の禁止など) 強制という事はないけど、自然と周囲の環境がそう言う風になって、まあ、日本も敗戦で帰っちゃったし、殆どの人は大っぴらには話さなかったですね。

C3 : 特に制限されたとは思わないけれども、そうね、学校ではもちろん授業の時は使わないよね、けどお友達とかの間ではやっぱり使っていましたよ。

C2 : あんまり感じなかったね。学生はあったらしいね。若い生徒はね、学校で日本語を使っていかなとかね。その時は僕はもう社会に出ているから、そういうのはあまりあまり感じなかった。

C4 : 私は官庁におったんですよ。そこで就職をしていたんですよ。あの時は外省人の方も多かったし、台湾人も多いです。だから言葉が自然的に台湾語か、北京語になってしまいます。(中略)(日本語を)話してもいいですけれども、そんな環境がないですね。

C9 : 限られた事はないね。政府の関係でその中で、ある程度の間が、話をしてはいけないと言っているけれど、我々としては全然相手にしていない。全般的には言わない事と政府は言っているけれど、(中略)でもね公の場では北京語だね。台湾の政府で公の機関は一律北京語だな。日本語はなるべく避けた方がいい。政府の連中は大陸から来ている人が多いからだから皆北京語に傾いている。

以上の話から、光復当時は学校で日本語の使用を制限された C1、C3 さんは公の場で日本語は話さなかったものの、同じ日本語教育を受けた友人とは日本語を続けていた。しかし、1日の大半を学校で過ごす学生にとって、日本語の制限や北京語教育は、私的の使用言語に影響を及ぼしていると考えられるだろう。ただし C1、C3 さんの場合、今に至るまで日本語を流暢に話すことから、彼女らにとって、当時の国民政府が力を入れた北京語教育は、どれだけ母語に近づいたと言えるだろうか。また、光復時期は就職をしている C2 さんは、森永製菓

のように、日本と密接な関係が必要である事から、日本語の使用に対して途切れることなかったと言えるだろう。そして C9 さんは食品貿易の仕事に就いていた為、日本語を続けて使用できる環境にあるものの、仕事の間から一歩踏み出した公の場では、周りの環境や雰囲気によって、日本語の使用は控えている。また、官庁の仕事に就いている C4 さんは、C2、C9 さんとは違い、日本語の制限が最優先とされていることであろう。

学校や公の場で北京語が勧められ、日本語が使われなくなった光復時期で果たして、高等教育への進学や就職の為に、日本語を再学習する事はあったのだろうか。光復時期に日本語の使用を控えていた C6、C8、C10 の 3 人は北京語を主に使っていると言う。学校で日本語の使用を制限された C1 さんは、学校卒業後、ピアノを教えているが日本語を使う機会が無く、北京語を主に使用していると言う。

C1 : 私はピアノを教えていましたが、中国語で教えていました。生徒さんは、皆日本語教育を受けていない人だから、小学校とか中学 1 年の子供だったから、殆ど北京語で話していましたね

C1 さんは中学に入ってから国民教育を受け、私的の場所で日本語を使い続けて今に至るが、当時就職における使用言語は、日本語教育を受けてない子供や、外省人と会話するために、北京語が出来る事は、就職で必需条件であると言える。また、C2、C3、C4、C5、C7、そして C9 さんの 6 人は、就職でも日本語を再学習する事無く、話し続けてきた日本語を使っている。

2) 自分の子供に日本語を教えているか

同じ戦前高齢者でありながら、日本語を続ける為、A、B グループのように、特定した機構で日本語には触れようとしない C グループの戦前非所属本省人高齢者は、果たして息子や孫に対する教育で日本語が使われてたり、または教えているだろうか。また、日本語を話されている両親（祖父母）に対して、息

子や孫はどの様に思われているか質問をした。

Cグループの研究対象（10人）の中で、C4、C6、C7さんは、日本語をあまり話さないのに対して、普段は日本語を使われても、自主的に子供や孫に日本語を教えない状況が目立つ。それは、光復時期で日本語教育とはかけ離れた国民教育を受けている自らの子供に対する考慮の一つであろう。特別に日本語を教えるよりも、子供自ら、両親（祖父母）が話されている事で興味があったら自然に話されるという、子供自らの判断を優先していると考えられる。そして、子供や孫は、普段の挨拶を日本語で話す習慣がついたり、大学や補習班で日本語の科目を選択したり、更には日本の商社に勤めているなど、両親の影響によって、日本語がそれぞれの家族と身近な関係となっているのは確かである。

3) 今通われている、または知っている高齢者を対象とした施設についてどの様に感じているのか。（施設における良し悪し/関連施設の増設希望）

この非所属戦前本省人のグループは、日本語を定期的に話せる機構に通う事無く、私的環境で日本語を使われているが、果たして彼（彼女）らは、高齢者を対象とした老人サービスセンターや、その他の機構をどの様に思っているのだろうか。まず、それらの機構で学習をされた事はあるか、と言う問いに対して、10人中C5さん1人が高齢者を対象とした老人大学で、英語のクラスに通われている。また、C1さんはYWCAでパソコン、C3さんは社会大学で絵画、C7さんは雙連教会で英語や中国結び、C10さんは水泳やダンス倶楽部など、高齢者に限る事無く、若者も一緒に参加できる学習機構（施設）に通われている。そして、C4、C6、C8さんの3人は高齢者を対象とした学習機構や、同じような施設は知っているが、行ったことがないと言う。その原因で、

C4：行きたいと思いませんね。私はもう85歳ですよ。

C6：あまり歩きたくない。年をとると運動とかねあまり好かない。

C8：もう年だからね。それに授業内容で行けそうなものも無いからね。ただ、日本語で違う授業があったら考えて見ます。でもね、テレビでも色んな節目を見ているから、別にその様なところに行かなくても、十分だと思います。

以上の話から、その原因として、自らの年齢であったり、足腰が弱くなって外に出かけたくない、または、今のままで十分と言う意見が挙げられた。そしてC2、C9さんはその様な学習機構における反応が今一である。以上10人のそれぞれの話から、高齢者を対象とした学習機構で学ばれることに対して、学習意欲が足りないように感じる。それは拠点が足らなかつたり、開かれている科目が少ないなど、色々と挙げられるが、高齢者が安心して学習する事が出来る環境づくりとは何か、老人サービスセンターや玉蘭荘の両グループの考えも踏まえ、今後にて論ずる。

4) 今通われている施設以外に、日本語を使用する場所に行っているか。

Cグループの非所属戦前本省人高齢者は、他のA、Bグループの高齢者のように、決まった場所や相手と日本語に接しているのではなく、電話や買い物の待ち合わせで日本語を話すなど、その日によって日本語を話す環境や相手が気紛れである。その為、この質問は、決まった施設に通われていないCグループを除く、A、Bグループの両グループの高齢者を対象に質問をした。

5) 普段の日本語の使用環境や高齢者を対象とした日本語使用施設について。

家の生活用語として日本語を話したり、同級生との雑談で日本語を加えてちゃんぽんに話す、Cグループ（非所属本省人高齢者）の皆は、今の台湾における日本語の使用環境を、どの様に思っているのだろうか。まず、台湾における日本語使用や現状について、前向きに考えているのはC1、C2、C3、C5、C6、

C10 さんの 6 人である。

C1 : 今は至って自由だと思いますね。それに勉強をする気があったら、習うところは沢山あると思うんですよ。

C2 : 日本語は、光復当時よりは日本語使用の範囲がね広がって来ている。若い人の間でも日本語がね、割りところ歓迎されている感じがする。今はね台湾ではね日本語と英語がね、中国語以外に良く通用されていると思う。

C3 : 私たちはね、あまり感じないですよ。友達の間では日本語なり、台湾語なり、それとも北京語なり、皆出来るからね、結局コミュニケーションは全然困難に感じない。それで外に出て日本語出来ないところ、日本語出来ない人の対応の場合も問題は無いしね、あまり困難は無いと思うの。それにね今でもまだ、日本のお友達ともずっと連絡しているね、それから友達のまたお友達が台湾来る時に、まだ紹介して来て、私にねその人の世話をしてくれとかでね、色々チャンスが多いし、だから別に使う機会が少ないとは感じない。

C5 : 今住んでいる、この環境は日本語を使う環境じゃないですね。でもこのままでいいと思いますね。友達という時は日本語を使っていますから。皆、日本語教育ですからね。

C6 : いいですよ。テレビで日本語話している番組がある。

C10 : 話さなくなったと思うね。だから老人大学に行っていると思う。私はちゃんぽんで話しているからね。

以上の話から、C1 や C2 さんは光復時期と比べて今は、日本語の使用が広くなり、自由になった。そして高齢者や若者に関係なく、学ぶ意欲があったら、人の目を気にせずトライする事が出来ると今の日本語使用状況を見ている。また行動が不自由で、家にいる時間が長い C6 さんは、テレビで日本語の番組がみられ、様々な情報が得られる事から、日本を身近に感じていると言う。C3、C5 さんは、家の中で主人と日本語を話される以外に、台湾にいる友人と、日本にいる友人など、連絡を取り続けていることで、日本語を使う機会にが少ないと

は感じていないと言う。その反面、日本語使用の現状に対して、使う機会が少なくなったと感じているのは、C4、C7、C8さんの3人である。

C7：やっぱりね、年齢の差が大きいとね、話し合うのがね違う。若い人の話し方も違うでしょ。年取った人の方が話を通じるから、年上の方がいいんですよ。

C8：日本語を使うことでね、今でもね時たま町とか、バス停でね、年寄りに出会います。そしたらね年よりは普通、家庭で話す相手が今のところ殆どいないんです。例えばね主人や奥さんをなくしたら1人になったでしょ、そして若い人には殆ど日本語が使えないから、家で話す機会が無いの。そして良くバス停やバスの中で、出会った事があるの。以前主人がおった時にね、私と主人がおった時にね日本語で話していると、向こうの方から話しかけてくるの。懐かしくてね、やっぱり日本語で話したいの、という機会を作りたい、そういう人もおります。日本語を話す機会が少なくなったからね。

以上の話から、C7、C8さんの2人は、家の中で、日本語を話す相手がいない高齢者における、寂しさを例に挙げている。年齢の差が大きい若者と日本語を話すより、同年輩の人と話をしたほうが、話を通じ、同じ経験をされて来た人同士ならではの懐かしさが、今の高齢者における日本語使用で重要な一環であろう。

台湾における日本語の使用に対して、日本語が出来る戦前高齢者が年々少なくなる中、日本語を話す環境について、前向きに考える高齢者や、消極な思いを露にしてしまう高齢者が、それぞれの考えを述べた。また、高齢者を対象とした日本語の使用環境を深めたり、拡大する事についてどの様に思うか質問したところ、C3さんを除く殆どの方が、日本語使用環境を広げることに賛成をした。その話の中から、高齢者ならではの、日本語の役割や大切さが伝わる。

C1：思いますね。やっぱり老人には老人なりの絆とか、あの時代に育った色

んな事が皆、似ているから、非常に話しが通ずるんですよ。何か絆が強いと言うんか、一緒に話していると、あの頃の時代を思い出さしてくれるし、楽しいです。

C2 : 広めたいと思うね。私だったらね日本語をおおいに提唱したいね。それにね、私はね同窓の集まりが毎月あるから、その時に多く使うわけだ。

C4 : 私は賛成します。それはいい事ですね。老人大学で広げたほうが速いですよ。入ったらね、日本語の分かる人が多いと思いますよ。

C6 : 環境があれば、あんた言っても聞ける、私言ってもあんた聞けるからね、グループあれば参加してもいい。

C7 : (前略) 同じ日本語教育をした同じグループの人がね、近寄ったらね、いつも日本語では話す。懐かしいからね日本語は。

C8 : 広げてもいいと思います。そこに行く人はね、日本語を使って楽しむわけよ、もう年が行っているから。そして集まる人が殆ど同じ年齢でしょ、だから皆言葉が通じるからそれがやっぱり楽しみなんだ。やっぱり年取るとね。

C10 : もちろんよ。それはいい事よ。老人倶楽部などいいと思いますよ。その環境を広げたらいいと思いますよ。

以上の話から、日本語が話せる環境をつくる、または広げる事は、高齢者同士の集いの場が、新たに出来るだけでなく、彼らの絆や過去の経験を肯定する働きをしていると筆者は考える。しかし、C3さんのように、今の日本語使用は十分で、現状維持を望む人もいる。

C3 : 今は特に広めたいと言う必要は無いと思う。日本のお友達とか、台湾でのお友達の間で日本語を使うのに皆、結構…話すのも問題ないし、だからね。

以上の話から、普段から日本語を話している高齢者にとって、新たな日本語を話す環境を望む他、今の生活における日本語使用圏を維持することも、大事で

あると言えよう。

6) 日本語の図書利用について

高齢者における日本語の使用環境で、家族や友人との談話で、日本語を使われる他、自宅、または生活圏から一步踏み出した、図書館や閲覧室で、日本語の本や雑誌、それから新聞を読まれる事はあるだろうかと質問をすると、Cグループ全ての人が、日本語の関連書籍や雑誌を読まれていると言う。ただその中で身体が不自由、または貸本をする習慣が無い事から、図書館に行かれる事はなく、C4さんの様に、友人とまわし読みをしたり、C6、C10さんの様に本屋に行く習慣があることが以下の話から分かる。

C1：読んでいます。文芸春秋とか音楽の友とかね、色々と日本から送ってもらって、読んでいました。

C2：読みます。日本の新聞をね、会社のほうで日本の方が来ているから、その方が持って来た日本語の新聞とか日本の雑誌、それは仕事の関係でやっぱり読んでいました。

C4：雑誌は読みますけど、図書館でなくて、友達と交換をしているから、私は本を買ったこと無いからね。昔は、日本の雑誌が入ってくるでしょ。少し好奇心があって、買ってみたいりはしたけどね。今はないですね。

C5：読むけどね、最近目は悪くなったから、年も年だから。

C6：あまり読みません。モデルの本を読むだけ。本屋で買って、今の流行のデザインとかね、時々見るの。それから図書館でも読むよ。日本語の雑誌もあるし。

C8：私は家の中で日本語の本を読みます。図書館には行きません。

C9：僕は図書館に行ったことがない。自分の家では見ているけどね。

C10：読みますよ。本屋さんはね、誠品、何嘉仁で色んな本がある。それから

ね、行天宮付近に小さな図書館がある。あそこにも行きます。

図書館にはあまり行かれない高齢者にとって、図書は家で読むもの、または友人同士によってまわし読みをするものとされている。ただし、日本語との接触が少ない高齢者にとって図書館や閲覧室で日本語を読まれる事は、日本語と接触する大事な一環ではないだろうか？高齢者の関心を引き寄せるために、高齢者を対象としたイベントや、図書を増やすなど工夫が必要であると考えます。

3-2 異なる日本語使用の動向から見る共通点や相違とは

以下はそれぞれの状況における日本語の使用状況、または、今通われている施設や、台湾における高齢者を対象とした日本語使用環境に対する考えや、それらの環境を広める事に対して、どの様に思われているか、今までの3グループを比較したものである。そしてその異なるグループにいる高齢者の、立場や状況も考慮に入れながら、それぞれの環境で使われる日本語の相違を比較した。

1) 終戦後の光復時期から今に至る日本語の使用状況の変化。

終戦後の光復時期における日本語の使用で限られていたか、と言う問いに対して、学校や仕事の場、または、私的における環境など、日本語の制限は果たしてあったのか、当時の心境も比較する。

	老人サービス中心 (Aグループ)
日本語を使用することに対して限られていた。 (学校や仕事の場、または私的における環境など) 当時の心境。	①自然と公共の場で、あまり使わない方がいいと思っていた。家族ではお姉さんやお兄さんと話していた。 ②学生時代は、学校や外では日本語を話さない。しかし、学校の友達や家の中では、片言で話していた。 ③ある省長が日本語を禁じていた。日本語を聞いて嫌がる外省人が多いところでは控えていた。しかし、同じ年齢層や、日本語が話せる人同士では、日本語をたまに話していた。

	④家の人は話すけど、私は話さない。学校の先生は、制限をしていた。しかし学校から出ると日本語を話している人を見かける。
日本語を使用することに対して限られなかった。 当時の心境	<p>①国民政府は特に日本語を禁じる事なく、聞いて分かるが、話さなかった。(国民学校を中退してから仕事)</p> <p>②政府は日本語を禁止する事はなく、政府機関にいる年配者は日本語教育を受けている人が多く、日本語を普通に話していた。また、日本語を教える補習班があったが、費用が高く、行くチャンスがない。</p> <p>③出来る人がいないから、外では話さない。家庭内では兄や姉の2人と話している。</p> <p>④話していい場所や、話してはいけない場所などはっきりとしていない。そして話す相手もないから、殆ど話していない。</p> <p>⑤生活で殆ど日本語を使っている。中国語を学んでいる時でも、媒介をするのは日本語で、ずっと使っている。そしてプライベートや同年輩の人とは日本語で話す。</p> <p>⑥光復の後は国語を学んでいる為、日本語を使わなくなった。しかし、限られる事はなく、仕事では日本語を使わないと商売が出来ない。</p>

	玉蘭荘 (B グループ)
日本語を使用することに対して限られていた。 (学校や仕事の場、または私的に おける環境など) 当時の心境	<p>①日本語を話すことに対して、学校でも禁じられていた。しかし教師同士でプライベートの時は日本語使っている。家の中では厳格に言われていない為、親戚同士は日本語の方が言いやすいから、日本語で話していた。</p> <p>②日本語を使つてはいけないと言われた。だから外出時は日本語を使っていない。しかし、日本語の方が話しやすいから、外に聞こえなかったら自由に話していた。</p> <p>③公の場では話しづらい、しかし家族や友人と話す時は皆日本語。</p> <p>④外ではあまり大きな声で話せない。家の中や友達同士では日本語を使っている。</p> <p>⑤終戦後、暫くは生徒を日本語で教えていたが、時間が経つにつれて、公の場で使われなくなった。しかし、家の中では日本語を主に使っている。</p> <p>⑥国民政府が来た時は、全面に日本語を禁止した。国民学校の教えでは絶対に北京語を話すように言われたの</p>

	<p>で、プライベートでは北京語や台湾語を話すようにしている。両親はたまに日本語を話すか、密告を恐れ、日本語を話さなかった。</p> <p>⑦蒋介石が正式に来た年から日本語を使ってはいけないと言った。公では話したら嫌がる人がいるが、自分達の集いでは自由。</p>
<p>日本語を使用することに対して限られなかった。 当時の心境</p>	<p>①貿易会社（日本との貿易）にいた時は、大陸系の人が少ないから、日本語を話すことに対して監視されることは無かった。</p> <p>②限られてはいないけど、あまり話さなかった。光復後、中国人と1~2年一緒に仕事をした。共に仕事をしてた日本人は、追い出したと言うより、いなかった。特に日本語を話してはいけないという事はなかった。</p> <p>③仕事の関係で日本の技術者と話す必要がある為、限られる事はなかった。</p>

	<p>非所属 (cグループ)</p>
<p>日本語を使用することに対して限られていた。 (学校や仕事の場、または私的に おける環境など) 当時の心境。</p>	<p>①皆日本語を話さない。皆国語、台湾語を話していた。</p> <p>②公にある機関は限られています。公共の場所で日本語を避けた方が安全です。時に関係なく控えていた。</p> <p>③政府の中で、ある程度の間が、話してはいけないと言っているけれど、我々は全然相手にしていない。しかし、台湾に政府で公の機関は一律北京語。日本語はなるべく避けた方がいい。</p> <p>④終戦当時はなかったが、宋楚瑜が新聞局長になった時、日本語や台湾語が制限された。歌も歌ってはいけない。ラジオも日本語は駄目だった。</p>
<p>日本語を使用することに対して限られなかった。 当時の心境</p>	<p>①戒厳令があった時、学校であまり自由に日本語を話さなくなった。大っぴらに日本語を話すということは、気が引けるような感じがした。国民政府による日本語制限はなかったが、自然と周囲の環境がそういう風になった。しかし影では友達同士と日本語で話していた。</p> <p>②もう社会に出ていたから、そういうのはあまり感じなかった。</p> <p>③特に制限はされたとは思わない。学校の授業ではもちろん使わないけれど、先生による制限はなかった。</p> <p>④官庁で就職をしていた頃、日本語を話してもいいけど、外省人が多かったから、自然的に北京語になってしま</p>

	<p>う。しかし同学の間では日本語を良く話す。</p> <p>⑤日本語をずっと使用している。注意された事もなく、光復当時は、自由自在に日本語を使っていた。</p> <p>⑥家では主人がいつも日本語を言う。友達で日本語教育の場合は、皆日本語で話している。仕事でも日本語を使っていたから、途切れた事はない。</p>
--	---

終戦後の光復時期における日本語の使用について、各グループの高齢者それぞれについて見たところ、日本語を話すことについて限られていると思っている人で、老人サービスセンターや非所属グループの各4人に対して、玉蘭荘のグループは、7人もいた。また、それぞれのグループで、特別慎重な人で公の場、私的の場に関係なく北京語を話すようになった人以外は、大きな違いは無く、公の場で日本語の制限を受けながらも、プライベートでは家族や友人と、使い慣れた日本語を話す。

2) 自分の子供に日本語を教えているか。

日本語は息子や孫に教えているか。また両親（祖父母）が日本語を話されている事に対して、どの様に思われているか、と言う問いに対して、親の考えや、子供が日本語における反応を比較する。

	老人サービスセンター (A グループ)
子供や孫に対して自主的に日本語を教えている (親の考えや、子供の反応/主な理由)	<p>2人</p> <p>①両親が日本語を話しても聞いて分かる。しかしあまり話せない。 (親として子供に日本語を更に教えたい。孫には機会があったら日本留学を勧めたい。)</p>
子供や孫に対して自主的に日本語を教えていない (親の考えや、子	<p>5人は日本語に殆ど触れていない</p> <p>①子供は関心を示さないから。 ②アメリカにいるから、殆ど英語を使っている。 ③子供は日本語に対して興味がない。また、親が日本語を話すことに対して疑問に思う。</p>

<p>供の反応/主な理由)</p>	<p>④息子はカナダに移民しているから、教えていない。 ⑤子供は何も聞いてこないから。</p> <p>4人は子供自ら興味を示す</p> <p>①分からないところがあったら質問をする。高校から大学まで日本語の科目を選択している。 (特に日本語に対する考えを聞いた事がない。)</p> <p>②息子は、日本留学をしている。孫は大学で日本語を勉強している。 (息子は日本が好きで、良く日本まで遊びに行く。家では機会があったら日本語で話す。)</p> <p>③孫は学校で日本語の授業を選択している。息子は殆ど分からない</p> <p>④両親が話すのを聞いているから、少し話される。</p>
-------------------	--

<p>玉蘭荘 (Bグループ)</p>	
<p>子供や孫に対して自主的に日本語を教えている (親の考えや、子供の反応/主な理由)</p>	<p>3人</p> <p>①子供は日本語が殆ど話せるけど、話す機会が無い。客家語の方が話し慣れている。</p> <p>②孫の子守をしていたから、歌で教えている。息子には教えていない。</p> <p>③学校に行くまで日本語を教えていた。普段でもちゃんぽんで話している。</p>
<p>子供や孫に対して自主的に日本語を教えていない (親の考えや、子供の反応/主な理由)</p>	<p>3人は日本語に殆ど触れていない</p> <p>①子供に教えるチャンスがない。 ②息子と孫と別々に生活をしている。 ③特に教えてはいないが、子供に、お説教をする時は、日本語が出てくる。</p> <p>4人は子供自ら興味を示す</p> <p>①日本の中学に行っている娘が、教えてと頼んだら教える。(4人の子供で話せるのは2番目のみ。でも今は難しい。)</p> <p>②学校に勉強をしていたから、教える機会が無い。しかし子供は日本留学で自学で話せる。</p> <p>③戒厳令のため、教えていない。しかし、娘は選択科目で日本語の授業をとっている。</p> <p>④北京語を勉強している時だから、教えていない。しかし、両親が話しているのを聞いているうちに、簡単な</p>

	言葉が話せる。
--	---------

	非所属 (cグループ)
子供や孫に自主的に日本語を教えている (親の考えや、子供の反応/主な理由)	0人
子供や孫に対して自主的に日本語を教えていない (親の考えや、子供の反応/主な理由)	<p>3人は日本語に殆ど触れていない</p> <p>① 話さない。子供が、どの様に思っているのかも聞いた事がない。</p> <p>② 話しません。</p> <p>③ 終戦の影響もあって、教えていない。しかし、子供は聞いていると思っている。</p> <p>7人は子供自ら興味を示す</p> <p>①主人と話しているのを聞いて、挨拶とか、片言は話している。しかし、その反面、日本に媚びていると冷やかしていた時もあった。</p> <p>②特別に教えていないが、子供は話せると思っている。</p> <p>③日本語を話せると思います。それ程、私達が日本語を話しているのに対して、疑問に思っていないと思いますよ。</p> <p>④子供には教えていないけど、欧米の留学先で日本語を学んでいたことで、今はスラスラに話せるという。高校生の孫は日本語の補習班に通っている。</p> <p>⑤子供は聞いているが、あまり話さない。</p> <p>⑥子供は日本留学をした事がある。時々日本語で話す。</p> <p>⑦主人と話しているのを聞いている。皆聞いて分かる。中で日本の商社に勤めている子供がいる。</p>

子供における教育で自主的に日本語を使っているか、比較してみたところ、老人サービスセンターは2人、玉蘭荘は3人いるが幼い頃に限られ、国民教育に入り、話すチャンスが少なくなってから、大人が自主的に教えるよりも、子供の意志に任せて、聞いてきたら教える、という傾向になっている。特に日本語を生活用

語として話す、非所属のグループは子供の日本語接触(使用)傾向が目立つ為、子供の意志に任せる傾向がより強い。そして両親が子供に対して自主的に日本語を教えていない場合、子供が関心を示す前に、両親による環境づくりや、先入概念によって、子供と日本語との関係を途絶えているように見える。また、親が自主的に日本語教えないが、子供が興味を示す場合、子供や孫は日本留学、日本商社に勤務、または日本語を話している両親(祖父母)に対して自主的に質問するなど、グループによって、子供における日本語教育の概念は殆ど変わっていないように見える。

3) 今通われている、または知っている高齢者を対象とした施設についてどの様に感じているのか。(施設における良し悪し/関連施設の増設希望)

高齢者を対象とした学習機構、または日本語を話せる機構に対して、どの様に思われているか、と言う問いに対して、それぞれのグループの高齢者における高齢者機構の違いとは何かを見た。

	老人サービス中心 (A グループ)
自分に合っている。非常に役立っている。機構の魅力など。	<ul style="list-style-type: none"> ①いいですよ、問題ありません。もしも時間があったら話す勉強をしたいです。 ②今の先生に満足しています。 ③日本語の歌が好きな友達に会えるから来ています。 ④先生の教え方が活発で習いやすい。 ⑤ここに来ている人は日本のカラオケが好きです。そしてこのセンターは厳しく定められていないから、日本語の授業も一緒に学べていいと思います。 ⑥色々と教えているから、何とかやっている。ここで教えている事はいいと思います。実用的です。 ⑦生活の一つの余興として来ている。 ⑧特に問題はないね。毎回の授業を楽しみにしている。 ⑨全体的に良く、先生もユーモアで、楽しいです。
自分には合わない。自分にとって	①クラスの中で話す相手がない。クラスの中は比較的若い人(50~60代)で、年取ってから日本語を習う人は、

は難しい。慣れない。	口が開かないと思う。また日本語を使うチャンスも少ないから。
------------	-------------------------------

玉蘭荘 (B グループ)	
自分に合っている。非常に役立っている。機構の魅力など。	<p>①言語の方面と皆と気が合うから。同じ日本語の教育を受けた人が多い。</p> <p>②皆さんの年が同じくらいで、日本語で宗教活動があるから、非常に楽しいの。</p> <p>③日本語で牧師さんの説教が聴けること。</p> <p>④日本語の程度が同じくらいだから、自由に話せる。それから、ここに来るボランティアや先生方も日本語で話せるから。</p> <p>⑤皆日本語で話せて、日本語の教育の水準で付き合えているのがうれしい。</p> <p>⑥皆と一緒に語り合って、色々な事をするのが一番楽しいの。</p> <p>⑦日本語を話せるチャンスが多くなりました。</p> <p>⑧日本語が話せるから気分的にも穏やか</p> <p>⑨日本語で自由に喋る、そして奉仕が出来る。</p> <p>⑩皆同じ年配者で、思想の差もなく、皆ちゃんと教養がある。</p>
自分には合わない。自分にとっては難しい。慣れない。	0人

非所属 (C グループ)	
老人を対象とした機構に通われた事があるか。また、理想は何か？	<p>①もう 17 年も前から行っています。私のクラスメイトは平均 80 で、最低は 75 以上です。また老人大学では英語を習っています。</p> <p>②あります。雙連教会で英語や中国結びを学んでいます。</p>
老人を対象とした機構に通われないのは何故か？他に問題はあるのか？	<p>①行っていません。そのような施設があることは知っています。YMCA に行った事がありますが、そこは若い人も一緒にいるので、高齢者だけの機構ではありません。</p> <p>②そう言った学習の機構には行っていません。</p> <p>③社会大学で勉強をした事があります。</p> <p>④そういう場所は分かるが、私は行っていません。しかし家内は行っています。</p>

	<p>⑤それは分かるけどあまり行かない。</p> <p>⑥その様な所は知っていますが、行った事はありません。</p> <p>⑦行った事も、知りたくもないよ。</p> <p>⑧そういった場所は分かるけど、私は忙しくて行けない。</p>
--	--

老人サービスセンターや玉蘭荘に通われている高齢者は、自らの機構に対して、満足をしているようである。そして玉蘭荘の最大の魅力は、クリスチャンに喜ばれている、日本語で礼拝、そして牧師の説教を聴くことができる事が最大の魅力であると言えよう。また非所属の高齢者は高齢者を対象とした機構があると分かりながらも、行く気にはなれないようだ。それは家から遠いのか、それとも今の授業は、彼らの学習意欲を引き出せないのかも知れない。非所属の高齢者は決して他のグループと比べ、劣っている事はないが、家から一歩踏み出す動機が必要である。それは、日本語を普段から話すことが出来る、日本語使用環境の充実性が、外に出かける意欲に繋がるのかも知れない。

4) 今通われている施設以外に、日本語を使用する場所に行っているか。

今、通われている施設以外に、日本語を話す授業や施設に通われているか、と言う問いに対して、家族や友人と日本語を話す以外に、特定した場所に通われていない、非所属高齢者を除いて、A、B 両グループの両高齢者に対して、今の施設以外に、他の施設で日本語を使っているか質問をした。老人サービスセンターの日本語関連学習者である A2、A3 さんは近くの図書館で、日本語の活動に参加していると言う。そして B1、B2、B3 さんは玉蘭荘と関連する教会で日本語の礼拝に通われている。また B5 さんは、日本語のカラオケを習われている。B グループの中で日本語の活動に参加されている場合、B5 さん以外の人は、自らの宗教をもとに日本語に接触をしていた。そしてその他の高齢者は、足が不自由であったり、時間が無い関係で、今通われている機構を中心に日本語に触れている。

5) 普段の日本語の使用環境や高齢者を対象とした日本語使用施設について。

今は普段から家や周囲の環境で日本語を話せる環境にいるか、と言う問いに対して、それぞれの生活環境で、如何にして日本語に触れているのか、分類を試してみた。

	老人サービス中心 (A グループ)
普段の生活から日本語を話されている。 (家庭内、または周囲の環境)	①隣に住んでいるお姉さんと、沢山日本語を使っている。
普段の生活で日本語をあまり使わない。(使う機会が少ない)	①いつもは話していない。家の中で話せるのは僕1人だけ。家内は少し分かるけど、いつも台湾語で話す。回りの環境も話せる人はいない。 ②家内は、友達の間で日本語を話します。でも普段の生活は日本語が少なく、台湾語や中国語が多いです。周りの環境では、公園にいる時で話せる相手にあったら話す。 ③老人サービス中心で話す以外、普段は話しません。兄とは話すが、桃園に住んでいる。 ④家では息子と少し話す。 ⑤住んでいる周りの人は、若い人が多いから話しません。 ⑥家族は、日本語に興味が無いから話しません。 ⑦家の中では家内と片言で話しているが、十分ではない。外出したらもっと話す機会が無くなる。 ⑧話せる人が少ないから。 ⑨家でNHKを見るぐらいです。

	玉蘭荘 (B グループ)
普段の生活から日本語を話されている。 (家庭内、または周囲の環境)	①家庭内では家内と台湾語、日本語のちゃんぽんで話します。 ②家内とは同級生の頃から日本語を話しています。他にも話したいけど、話せる相手がいらない。 ③息子は日本語を話せる。日本語は途切れる事無く話し

	ています。
普段の生活で日本語をあまり使わない。(使う機会が少ない)	<p>①家族とは中国語で話している。住んでいる周りの環境は、台湾語と中国語です。</p> <p>②今は一人暮らしをしている。周りの環境は、あまり日本語を話さない。階下の人は90代の人で、ちゃんぽんに話す時がある。2人</p> <p>③孫は話せるけど、今はオーストラリアに移民しているからね。そして周囲の環境は皆若い人だから、日本語出来ない。</p> <p>④家の中は、孫と片言の日本語で話している。</p> <p>⑤家の中では台湾語を使っています。他の所はあまりないです。2人</p>

	非所属 (cグループ)
普段の生活から日本語を話されている。(家庭内、または周囲の環境)	<p>①子供や孫でも、そして主人がいた時でも、殆ど皆、日本語を話せるから自然と日本語が優先となっているんですよ。周りの環境では、70~80代の人がおれば日本語で挨拶をしている。しかしそれ以外で話せる環境は少ない。</p> <p>②家では家内と話す。以外は特別な事がないと、あまり話すことはないですね。</p> <p>③家では主人と娘と話します。</p> <p>④主人とは日本語で話していますね。</p> <p>⑤家内と話しています。周りの環境は話す機会がありません。</p> <p>⑥私と主人は台湾語と日本語のちゃんぽんです。兄弟、家族で良く日本語を話すから、使うチャンスが沢山ありますよ。自分達の集まりで良く話すから。</p>
普段の生活で日本語をあまり使わない。(使う機会が少ない)	<p>①家庭内では少し話します。でも台湾語が多いですね。</p> <p>②全然ありません。子供は皆、英語、広東語、それから中国語、台湾語、日本語に触れない。</p> <p>③家では話さない。姉とは電話で話しています。</p> <p>④家族とは台湾語と中国語が多いです。孫は皆、中国語教育だから。周りの環境で話せる人は少ないです。</p>

老人服务中心のグループは年齢も関係して、日本語を学ばれる以外日本語に触れるチャンスが少ない。そして年齢層が近い玉蘭荘や非所属のグループでは

殆ど夫婦と話すことが多く、ちゃんぽんに話しながらも、日本語を入れて話す傾向が見られる。また非所属のグループは、自らの子供と話す機会があれば、話すようにしている傾向がある。

そして、普段の生活環境で気軽に話せる環境が欲しいか、また、日本語の使用環境を深める事や広げたい考えはあるか、と言う問いに対して、

	老人サービス中心 (A グループ)
普段の生活環境で、日本語を気軽に話せる環境が欲しい。また、使用環境を広げたい。	<p>①欲しいですよ。自分のために日本語を話したいですね。話さないと忘れてしまうから。住んでいるところでも話したいからね。</p> <p>②もちろん、そんな環境があったらいいですよ。自分の会話も上手くなると思います。</p> <p>③別に要求はしないけど、そんな所があったら行ってみたいと思います。</p> <p>④私は日本語を話せるから、そのような環境があったら欲しいと思います。年が近いほうが、話が通じやすいんだよね。</p> <p>⑤私は当然欲しいです。日本語が好きで、姉と話す時はいつも日本語です。機会があったら日本語で話します。</p> <p>⑥もう年だから、住んでいる所の近くに、そんな所があってね、時間があれば行きたいと思います。</p> <p>⑦今は話せる相手がないから、でも話せる環境は欲しいですよ。</p> <p>⑧普通は相手がないからね、話せる場所があったら行きますよ。</p> <p>⑨その様な環境があったら行ってみたいです。日本の友達が出来たら、日本語の勉強も出来るから。</p>
現状維持で十分。特に日本語の使用環境を広げる必要は無い。	<p>①欲しいと言っても、必ずしもと言う必要性はないでしょう。ただそう言う環境はやっぱりあって欲しいと思うけれど。</p>

	玉蘭荘 (B グループ)
普段の生活環境	①この考えはいいと思いますよ。今通っている所は、住

<p>で、日本語を気軽に話せる環境が欲しい。また、使用環境を広げたい。</p>	<p>んでいるところと距離がありますから。</p> <p>②玉蘭荘みたいに、日本語で喋っている環境があったらすぐ行きますよ。</p> <p>③思いますけど、日本語を話せる環境は少なくなった。今住んでいる所は、そんな環境は無いです。</p> <p>④玉蘭荘みたいなのところがあったら行きたいね。日本語が話せる環境だったらね。住んでいる所から、ここに来るまで、距離が少し遠いね。</p> <p>⑤やっぱり欲しいと思う。今で話せるのは、友人との電話や会食ぐらいです。</p> <p>⑥友達と良く日本語で話しているけど、あっても良いと思います。</p> <p>⑦そんな機会があったら欲しいです。台湾人がいても話しませんね。殆ど機会がありません。</p> <p>⑧今住んでいる環境で話せる人はいないです。私より年輩の方はいますが、日本語を話す環境がなければ、徐々に忘れてしまいます。だから日本語を話す人は少ないです。</p> <p>⑨住んでいる所の近くで話せるのも良いね。話せる環境があったら行ってみたいと思います。</p>
<p>現状維持で十分。特に日本語の使用環境を広げる必要は無い。</p>	<p>①そんな環境もあったら言いたいと思いますけど、日頃も同じ年で年輩の方と日本語を話しているんです。</p>

	非所属 (cグループ)
<p>普段の生活環境で、日本語を気軽に話せる環境が欲しい。また、使用環境を広げたい。</p>	<p>①やっぱり老人には老人なりの絆や、あの時代に育った事で似ている部分があるから、非常に話が通ずる。一緒に話していると、あの頃を思い出させてくれる。楽しいです。</p> <p>②私だったら日本語をおおいに提唱したい。日本語が話せる環境があったら皆と集まりたいね。</p> <p>③それはいい事です。老人大学で広げた方が速いです。</p> <p>④いいと思いますね。</p> <p>⑤環境があれば、日本語を誰が言っても聞いて分かるからね。そんなグループがあったら参加したい。</p> <p>⑥同じ日本語教育を受けた同じグループの人がね、近寄ったら、懐かしく思う。</p>

	<p>⑦日本語使って楽しむわけよ。そして集まる人は殆ど同じ年齢でしょ。だから皆言葉が通じるから、それがやっぱり楽しみ。</p> <p>⑧それはいい事よ。老人倶楽部などいいと思いますよ。その環境を広げる努力をすればいいと思います。</p>
現状維持で十分。特に日本語の使用環境を広げる必要は無い。	<p>①今は特に広めたいと思わない。友達との間で良く日本語で話すし、問題もないから、今のままで十分に思う。</p> <p>②台湾は中国の影響を受けているから、この社会で日本語を推敲するのは、大っぴらに出来ないと思う。だからもしも日本語を広げなければ、老人ホームや語言中心みたいな所で推敲をした方がいい。</p>

以上の思いから、日本語の使用環境を広げる事は、一人暮らしの高齢者や、使い慣れている日本語共に話す相手がいない、または心に秘めている思いを打ち明ける相手がいない高齢者にとって、理想な環境づくりであると言えよう。同じ経験をした人同士が、家から一步踏み出した環境で、慣れ親しんだ言語で話す事は、彼らにとって第2の家族を築いていると言っても、過言ではないだろう。

6) 日本語の図書利用について。

自宅、または図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれているか、という問いに対して、

	老人服务中心 (A グループ)
自宅や図書館で、日本語関連の書籍を読まれている。	<p>①造園の仕事をしていた頃、日本語の参考書で勉強をしていた。家にある本は日本語の本が多い。図書館は雑誌を借りた事がある。</p> <p>②図書館には行かない。自宅では、日本の小説を読んでいます。雑誌は友達に会ったら貸してくれます。</p> <p>③自宅で、日本語の教科書や辞書を調べている。図書館は遠いから行かない。2人</p> <p>④図書館に行った事はない。借り本には興味が無い。しかし、本屋で好きな本があったら、1~2冊買います。</p>

	<p>⑤本屋に行って読みます。それから、同窓の友人同士で交換をしながら読んでいます。</p> <p>⑥たまに友達が日本に行く時に買ってもらう。</p>
<p>自宅や図書館で日本語関連の書籍を読んだ事がない。または読まなくなった。</p>	<p>①あまり図書館には行かない。日本語の本や雑誌を読んだ事も無い。</p> <p>②読んでいない。目が良くないから、テレビだけ。日本語の番組を見たり、歌を聴いたり。 2人</p>

	玉蘭荘 (B グループ)
<p>自宅や図書館で、日本語関連の書籍を読まれている。</p>	<p>①友人と回し読みをしている。</p> <p>②図書館に行ってもあまり無いから、本屋さんに行っています。</p> <p>③日本人と商売をしていた時期があつて日本に対する関心も深いから、広い範囲で読んでいます。</p> <p>④あまりと図書館には行かないが、玉蘭荘の蔵書を読んでいます。</p> <p>⑤本屋さんに行く他、図書館でも月刊を読んでいる。しかし日本語の本は少ない。</p> <p>⑥図書館や本屋さんで読んでいます。</p> <p>⑦本屋さんでは読みませんが、家ではバイブルを読む。</p> <p>⑧交流協会から閲覧室の紹介があるから、行った事があるが、他の場所には行った事がない。</p>
<p>自宅や図書館で日本語関連の書籍を読んだ事がない。または読まなくなった。</p>	<p>①主人がいた頃は、図書館で読んでいた。しかし、今は歩けなくなって、主人が無くなってから外に出かける事が、少なくなった。</p> <p>②玉蘭荘や教会以外には行かないから、今は日本語の本をあまり読まない。</p>

	非所属 (C グループ)
<p>自宅や図書館で、日本語関連の書籍を読まれている。</p>	<p>①本屋で文芸春秋や音楽の友など、他に日本から送ってきた本を読んでいます。</p> <p>②図書館には行かないけど、同僚が来て持って来てくれたら読む。自分では本を買わない。</p> <p>③家では小説を読んでいる。図書館には行かない。</p> <p>④図書館ではなく、友達と交換をして読んでいる。</p> <p>⑤図書館で日本語の雑誌を見ている。</p> <p>⑥一ヶ月に一回ぐらい図書館、または本屋さんに行きま</p>

	<p>す。または、友達から借りますが、本屋で買いません。</p> <p>⑦家の中で日本語の本を読みます。図書館には行かない。</p> <p>⑧図書館に行った事はない。自分の家では見ている。</p> <p>⑨本屋さんや図書館に行っている。</p>
<p>自宅や図書館で日本語関連の書籍を読んだ事がない。または読まなくなった。</p>	<p>①読んだ事はあるが、今は目が悪くなったから、読まなくなった。</p>

比較をしている3グループで、図書館は日本語の本が少ない事で、行く人は少ない。そして友達同士の回し読みが、高齢者における日本語の本に触れる方法となっている。本屋に行く場合もあるが、本を買うことは少なく、回し読みの準備をしている為に買う人も少くない。また、目が悪くなった事で、本を読む以上にテレビに頼る高齢者も増えている。

第4章 結論

4-1 戦前本省人高齢者における日本語使用の継続意識とは

本研究は、台湾における戦前本省人高齢者が、日本語を話されている事を前提に、老人服务中心、玉蘭荘、そしてどちらのグループにも属さない非所属のグループで、終戦から今に至るまでの日本語の使用動向を比較した。その研究対象である30人の中で、今は日本語を再復習したり、日本語の歌を歌ったり、同年代の人と日本語を使って会話をしたり、また、何処かへ行く事無く、家庭内や住んでいる近くの環境で日本語を話されるなど、様々な形式で、自由に日本語に触れている。そして今は、日本語を話される高齢者を見ても、ごく普通に思える環境になっているが、彼らが若かった頃、台湾が光復を迎えた事によって、公の場で日本語を思うように話せないなど、不自由な思いをしたことも、インタビューを通して確かにあったことが分かった。しかし、その不自由な時期を乗り越え、場所に関係なく日本語を話せるようになった事で、日本語を私的の場所で話していた人達も、ようやく公の場で話すようになった。

その日本語使用の経緯がありながら、日本語を続けて話される、その継続意識は、何処から来ているのか考えた。光復時期を迎え、戒嚴令の発布から、解除されるまでの38年の間、台湾本省人の母語であった日本語や台湾語の使用環境が狭くなる一方、政府は、中国語（国語）の学習や使用を全国民に進め、公務機関における使用言語も中国語が多くなった。しかし、その様な環境にいるにも拘らず、戦前に生まれた研究対象の皆さんの中で、半分以上の人は日本語を最も使いやすい使用言語の1つとして話されていると言う。そしてこの日本語における使用に対して、38年に及ぶ戒嚴令で、日本語に触れる機会や場所に制限があるにせよ、自らの国語は、日本語であることを主張しているように感じられた。しかし、だからと言って、日本語の使用環境や使用対象をそれ程、確保しているわけではない。日本語を全く話せない外省人と結婚したことで、家庭内の使用言語が中国語（国語）中心となってしまったり、夫婦が共に

日本語を日常会話として話しても、子供達に日本語を話して欲しいと、教える事も少なく、子供の興味や希望を尊重している。ただし、日本語を使う環境が減っている中でも、自らの日本語使用は決して途絶える事無く、最低限は確保していた。家族とは話さないが日本語が出来る同級生や友人と電話で連絡を取ったり、皆で集まってカラオケを歌ったり、一人暮らしをしている人や日本語を話せる相手がなくなった事で、老人サービスセンターや玉蘭荘のような、年齢層が近く、同じような経験や話題を持った人との出会いが、日本語を話す一つの方法としている。つまり、単純に日本語が話し易いから続ける、と言った考えだけでなく、戦前に受けた日本語教育や様々な思い出など、同じ時代を経験され、生きて来た人との絆や証を保つために日本語を続けていると言えるのではないか。そしてもしも、彼らにとって日本語を続けることは、同世代の人との絆や歩んできた証を守りたい気持ちがあるならば、日本語を継続する事が可能である場所（拠点）の確保や設立が、戦前本省人高齢者における日本語の継続意識や彼らが経験した過去を尊重する、大切な一步であると考えられる。

4-2 高齢者学習機構における日本語関連学習への展望

台湾の北部で、高齢者を対象とした日本語関連クラスが開かれている老人サービスセンターは、日本語のクラスが初級、中級、上級クラスに分かれ、階級に関係なく、60歳後半から、70歳代の学習者が殆どであるが、上級のクラスは80代の学生が、所々で見られる。そしてカラオケのクラスは、60代から80代と学習者の年齢層が広い。今の学習者から感じられる事は、年齢層が60代から70代と、比較的若い高齢者が学んでいる事が分かる。それは、教えている内容に基礎的なものが多く、上級のクラスに入ってから、ようやく応用編が加わる。しかし、筆者は日本語に触れる事を希望している、戦前の比較的年齢がある高齢者には、向いていないように感ずる。戦前高齢者におけるインタビューでは、「今開かれている授業の他に希望する科目は無いかな？」という質問に対して、

年齢の事も考えて、現状維持を希望する学習者が多かった。しかし、高齢者の為にかかれていた日本語関連の授業であるのに、限定された年齢層にしか向いていない授業内容を、どのように思ったらいいだろうか。そして比較的日本語が出来る戦前的高齢者は、今の授業内容を「現状維持」と言った言葉を自分に言い聞かしているように感じる。今の高齢者で、日本語が比較的出来る戦前高齢者と、日本語を今から習う戦後高齢者が共に学習が出来る、今の時代であるからこそ、学習者の要望や授業に通われている学生の年齢層も考慮に入れ、授業内容に変化を加える事が、今の高齢者日本語教育で大事な一環となる。また、高齢学習者に向けた教材の編集も大事である。今、使われている教材は、若者に向けて編集された教材が多く、高齢学習者が希望する、分かりやすい、見やすい教材の条件とはかけ離れているのではないか。当然ながら今の高齢者日本語教育の為に、わざわざ教材を作る事は難しさがあるだろう。しかし高齢者を対象とした老人サービスセンターで日本語の授業がかかれていたのに対し、高齢者が得たこの学習の機会を、適した教材が無い事で、満足出来ない授業になる事は、どれだけ惜しい事であろうか。ぜひこの高齢日本語学習者の問題を、後の学習者に影響させないこの思いこそが、今後の日本語学習に対して大きく前進するに繋がるだろう。

4-3 高齢者日本語使用環境の重視及び公共の場の設立

第3章のインタビュー分析から、台北市における戦前本省人高齢者の一部分ではあるが、その日本語使用状況が見えてきた。1987年に戒厳令が解かれたことから、日本語使用における制限が徐々に緩やかとなった。そして戦前的高齢者が日本語を気軽に話すことが出来る玉蘭荘や、忘れかけていた日本語を再び話せるように、老人サービスセンターでも日本語関連の授業が次々と開かれるなど、若者だけでなく高齢者でも、日本語を使用する機会が増えているように感じていた。しかし若者とは対照に、身体の衰えから外出することすら難しくなった

高齢者が、日本語を話すために、遠くにある特定の機構まで足を運ぶのは困難なことである。そして、家の中でも共にして来た夫(妻)が亡くなったことで、生前のように日本語を生活用語として家の中で話すことは難しい。また家族と別れて、一人暮らしをしている高齢者は、日本語を話すどころか、一般的な会話をすることさえ問題になっているだろう。このように高齢者ならではの問題を考えた上で、彼らにとって限られている自らの生活圏で日本語を話すこと、または身体の衰えや限られた生活圏を乗り越えてまで、日本語を続けたい彼らの行動を周囲の人々は、どれだけどれだけ真剣に対応をしているだろうか。

まず、現在ある高齢者を対象とした、または利用(使用)することが出来る日本語使用関連機関(施設)を考えたい。

- ①老人サービスセンター
- ②婦人会
- ③教会(宗教関係)
- ④長青學苑

以上の機構(施設)のように社会局や宗教が携わっているものが多い。老人サービスセンターや婦人会、そして長青學苑は各行政区域に拠点があるが、日本語の授業が必ずしもあるとは限らない。また、たとえあったとしても、選択性が比較的少ない。更に婦人会は高齢者も数多く学ばれているが、高齢者専門の学習機構ではなく、若者も通える機構になっている為、若者とは話が通じない、または一緒に学習すると授業に追いつけないなど問題が新たに増えると予想される。もし、学習機構で時間に制限されるのは、苦手であり、自由な環境で日本語を話したいと思うならば、玉蘭荘で日本語を話したり、家族や友人と共にカラオケを歌う方が、比較的話せる人に向いているのではないかと思う。以上の他、若者と同様、図書館や書店など私的な環境になりがちである。しかし、それらの機構(施設)に行けるのは、ある程度健康には自信がある人、または傍

に誰かがついていない場合に限られがちである。そうしたら身体の衰えによって、限られた生活圏になりがちの高齢者、または家で日本語を話したくても話す相手がいない高齢者に対して、不可能と思っていた日本語が話せる環境を与えることは出来ないだろうか。

この度は、公的の場に出る事なく、私的の生活圏で日本語に接する高齢者として、非所属戦前本省人高齢者というグループを一つ設けたが、その中で身体の衰えや不具合を訴えたのはたったの1人である。その他の共通点として視力が落ち、小さな字を読むのが辛いなどと、高齢者ならではの悩みを訴えているが、決して外に出られない状態ではない。そして彼らは、今ある高齢者を対象とした機関（施設）で日本語に触れることが出来る場所など、全く知らないわけではない。しかしながら、今ある機関（施設）で開かれている授業に対して程度が合わない、興味がないなど、その場所には相応しくないと考えている人が多い。社会局によって高齢者を対象とした機関（施設）を設けたにも関わらず、それは限られた戦後高齢者向きの授業であると考えざるを得ない。

4-4 今後の課題

本研究は、日本統治時代により日本語教育を受けた戦前本省人高齢者が、終戦後における日本語の使用動向をもとに、老人サービスセンターで再学習をしているAグループや、玉蘭荘で日本語を生活用語として話されるBグループ、そして日本語に触れるために、決まった場所へ通う事無く、生活用語として普段から話されるCグループの、大きく3グループに分類した。そして、インタビューを通じて、それぞれの生活圏における日本語の使用状況を始め、子供への教育、高齢者学習施設を如何にして捉えているか、そして、高齢者の日本語使用環境をどの様に希望しているのか、終戦から今に至る日本語使用動向の相違を比較した。そして、本研究を戦前本省人高齢者における日本語を使用する継続意識や、学習機関における日本語関連授業への展望、そして高齢者を対象とする、

日本語使用環境の重視及び公共の場の設立を、今の高齢者における日本語接触の現況として見て来た。

今の高齢者で、日本語を生活用語として使用するのには、日本統治時代を経験された戦前本省人高齢者、所謂日本語世代の高齢者が大部分を占めており、もし、日本語を家から離れた場所から使用範囲を広げるには、老人服务中心のように高齢者同士が共に学ぶ学習機構や、玉蘭荘のように、日本統治時代で同じ経験をした高齢者同士の集まり（集会）に通われるなど、大きく2つの傾向に分けられる。しかし、前者は日本語における選択肢が少なく、高齢者と言いつつも、比較的若い戦後高齢者を中心とした学習機構になっている。また後者はより日本語接触環境に近いが、その環境における情報が少なく、通われる高齢者も限られがちである他、利用者の途絶えを防ぐ為にも、より多くの日本語が出来る高齢者の関心を引き寄せる工夫も必要である。また、高齢者が日本語学習をされている中、若い学習者と同じ教材や方法で教えるなど、高齢者における学習への希望や、今抱えている問題を十分に理解していない指導者であれば、それは学習者にして不親切である以上に、学習をする事自体が負担になるのではないかと筆者は考える。更に、若い学習者が使う日本語の教材や指導法の違いとして、高齢者の学習に問題視されがちである、学習意欲や学習態度の違い、日本語を話すことや学習をする目的の違い、そして高齢者ならではの身体の衰えによる視力の低下や聴力の衰えなど、両者の間で様々な相違が見られる。そして高齢日本語学習者が年々増えている中、高齢者が抱える問題に対応した日本語教材の開発や改善が必要であるが、現時点で高齢者に限定した、教材を出版する事が難しく、若い学習者の学習資源と比べて疎かにされがちであると見る。しかし、高齢化が進み、高齢者学習が重視されつつある中、今の人気科目である日本語やカラオケのクラスを始め、学習者の特徴や希望に基づいた学習基準を、高齢日本語学習者の立場になって、今後の授業で改めて対策を練ることが必要がある。

また、特定した場所へ通われる他に、生活圏における身近な場所で、日本語使用環境の確保や新たに設立する事も、日本語を生活用語として話している、または日本語を話すことを希望しているが、話す環境に恵まれていない、戦前高齢者や、日本語を話している両親の影響を受けた戦後高齢者に対して、親しみやすい環境の1つになると筆者は予想する。しかし時間が進むにつれて、日本語に親しみがある戦前高齢者が、この世から去る時には、日本語を話して来た環境や学習環境は、今と比べてどの様な変化をもたらすのか、その台湾における日本語の位置関係を改めて考える事が必要となるだろう。

本研究で、高齢者を対象とした学習環境、そして高齢学習者ならではの教材における問題点を取り上げた。そして普段の生活圏では、日本語を話すことが難しい高齢者は、どの様にして生活圏から一歩踏み出した場所まで、日本語を使われているのか、インタビューを通して、今の戦前高齢者における日本語使用の実態に近づいた。中で、日本語がどれ程、彼らにとって大事であるのか、単なる当時の懐かしい思いや、話しやすいからだけで無く、日本語を今に至るまで継続して話す事は、過去に日本人として生きた時代、そしてその頃に話していた日本語（当時の国語）に対する特別な感情や思いを改めて知る事が出来た。そして、彼らの思いを知る他に、今における高齢者とどう向き合えばいいのか、彼らが考えている事の由来や、希望している事を本研究によって、改めて戦前本省人高齢者の生き方を重視する一歩でありたい。

そして本研究を通して改めて思ったのは、日本語を話すことが出来る戦前本省人高齢者を研究対象とする難しさにあった。筆者は本研究で植民地時代における日本語の教育に影響を受けている、または記憶にある人、そして今でも日本語をある程度話すことが出来る戦前本省人高齢者を研究対象とする為、終戦当時が小学校、または公学校の1年生を含むそれ以上の生徒で、現在の73歳から74歳の高齢者を研究対象としてインタビューを行った。しかし、インタビューを通じて、疎開や空襲から身を守る為や家庭の事情によって、学校に通

われていない人もいることから、植民地時代における記憶や植民地時代に習った日本語を今でも流暢に話せる高齢者は、当時の小学校や公学校で6年生以上、または仕事で日本語を使う環境にいないければ、今に至るまで日本語を生活用語として話すことは難しい。つまり現在の80代でなければ、植民地当時の状況や当時の学習における記憶を聞くのは難しいと言える。その為、今後戦前本省人高齢者の年齢層が高くなるにつれ、彼らを対象とした記憶を元にした研究を進めるのは困難になると予測する。

また、本研究は戦前に学ばれた日本語に対する、戦後の使用動向を中心にA,B,Cグループに分けてインタビューを進めたが、他にも色々と日本語を話す機構が見られる。そして本研究の研究範囲である台北市でも、行政区の間における比較を試みる事も、日本語使用の違いに相違が見られると予測する。更に、高齢者を対象とした学習機構における教材の考案を出す事で高齢者教育における進展、そして高齢学習者における学習意欲の変化も今後の研究課題として興味深い領域である。

最後に日本語を日常用語として話す戦前本省人高齢者における、今後の日本語使用状況や、戦後高齢者が増える一方の現在の社会における日本語使用環境の変化も、戦後の高齢者における日本語使用動向の課題として研究を進める必要があると考える。

参考文献

(日本語)

張徳水(1992)『激動！台湾の歴史は語りつづける ―ある台湾人の自国の認識―』雄山閣

伊藤潔 (1993)『台湾』中公新書

笠原政治・植野弘子 (1995)『台湾』河出書房新社

板倉俊雄(1995)『台湾私見―「中華民国」から「台湾」へ―』制作社

国語文化学会 (1996)『外地・大陸・南方 日本語教育実践』冬至出版

塩見邦雄 (1996)『視聴覚教育の理論と方法』ナカニシヤ出版

司馬遼太郎 (1997)『台湾紀行』朝日文庫

河路由佳 (1998)『日本統治下における台湾公学校の日本語教育と戦後台湾におけるその展開
―当時の台湾人教師・日本人教師・台湾人児童からの証言―』東京農工大学 人間と社会第9号

本名信行・岡本佐智子 (2000)『アジアにおける日本語教育』三修社

今津美穂 (2000)『日本統治時代における台北市在住「台湾人」の日本語使用―社会的変種
の使用について―』信州大学留学生センター紀要第1号 2000年3月

若林正文 (2001)『台湾』ちくま新書

今津美穂 (2002)『漢族系台湾人高齢層の日本語使用 ―言語生活史調査を通じて―』信
州大学留学生センター紀要第3号 2002年3月

謝雅梅 (2003)『台湾は今日も日本晴れ!』綜合法令

石剛 (2003)『植民地支配と日本語 台湾、満州国、大陸占領地における言語政策』
三元社

台湾史研究部会(2003)『台湾の近代と日本』中京大学社会科学研究所

角南聡一郎 (2005)『台湾の衣食住文化にみる「日本」像 ―物質文化から見た戦後台湾
における植民地文化の持続性と変容―』財元興寺文化財研究所

津田勤子 (2005)『台湾日治世代の親日態度と自己概念』淡江大学日本研究所

陳贊珍(2005)『台湾における高齢者日本語教育についての一考察 ―高齢者教育機関を中
心に―』銘傳大学応用日語学系碩士班

五十嵐真子・三尾裕子(2006)『戦後台湾における「日本」植民地経験の連続・変貌・利用』
風響社

長山靖生 (2007)『日本人の老後』新潮選書

岡部芳広 (2007)『植民地台湾における公学校唱歌教育』明石書店

ステファン・コルクユフ著/上水流久彦・西村一之訳 (2008) 『台湾外省人の現在変容する
国家とそのアイデンティティ』 風響社

小林よしのり (2008) 『台湾論』 小学館文庫

邱景一・荻野純一・柳木昭信・伊東ひさし (2008) 『台北歴史散歩 日本統治の足跡と
近現代史を探る』 日経 BP 企画

川島真・清水麗・松田康博・楊永明 (2009) 『日台関係史 1945-2008』 東京大学出版社

片倉佳史 (2009) 『台湾に生きている「日本」』 祥伝社新書

台湾史研究会 (2009) 『現代台湾研究 第三十六号』 台湾史研究会

張明德(2009) 『玉蘭莊のシルバー族』 台北市松年福祉會玉蘭莊

中川仁(2009) 『戦後台湾の言語政策—北京語同化政策と多言語主義』 東方書店

酒井亨 (2010) 『「親日」台湾の幻想 —現地で見聞きした真の日本観』 扶桑社新書

酒井充子(2010) 『台湾人生』 文藝春秋

安田敏朗(2011) 『かれらの日本語—台湾「残留」日本語論』 人文書院

(中国語)

陳榮成(1991) 『被出賣的台灣』 前衛出版社

蔡明珪(1991) 『老人教育學員學習滿意度及相關因素之研究：以臺北市長青學苑為例』
東吳大學社會學研究所

張德水(1992) 『激動！台灣的歷史』 前衛出版社

張蒼松(1997) 『典藏艋舺歲月』 時報文化出版企業股份有限公司

黃玉齋主編(2001) 『台灣年鑑(4)』 海峽學術出版社

黃智慧 (2002) 『台灣腔的日本語：殖民後的詩歌寄情活動』 中央研究院民族學研究所

佐藤春夫 著 / 邱若山 譯(2002) 『殖民地之旅』 草根出版事業有限公司

松尾隆男(2003) 『臺灣之日語教學中日本歌謠教學之研究』 輔仁大學 語言學研究所

陳宗慶(2004) 『初級日語教育歌曲應用法之研究』 銘傳大學應用日語學系碩士班

吳宗仁・張雅淨 (2005) 『日治時期行政統治策略之後殖民分析』

曾健民(2005) 『1945 破曉時刻的台灣：八月十五日後激動的一百天』 聯經出版

- 許佩賢(2005)『殖民地台灣的近代學校』遠流出版事業股份有限公司
- 荊子馨 LEO T. S. CHING 著 / 鄭力軒 譯 (2006) 『成為「日本人」：殖民地認同與台灣政治』
麥田出版社
- 廖炳惠 (2007) 『後殖民理性批判』
- 若林正丈(2007)『台灣抗日運動史研究』播種者出版有限公司
- 中華民國社區教育學會(2007)『社區高齡教育跨科際整合』師大書苑有限公司
- 曾健民(2007)『台灣一九四六・動盪的曙光：二二八前的台灣』人間出版社
- 黃文雄 (2008) 『日本留給台灣的精神文化遺產』前衛出版社
- 吳淑芳(2008)『臺北縣松年大學學員參與動機及學習困難之研究』國立臺灣師範大學
社會教育與文化行政碩士學位班
- 張秋嵐 (2008) 『長青學苑老人持續參與學習活動之研究』大葉大學休閒事業管理學系碩
士班
- 許雪姬編註(2010)『灌園先生日記(十七)1945年』中央研究院台灣史研究所
- 思想編委員會著 (2010) 『台灣的日本症候群』聯經出版社
- 薛化元 (2010) 『戰後台灣歷史閱覽』五南圖書出版社
- 蘇碩斌(2010)『看不見與看得見的台北』群學出版有限公司
- 繁星編輯部(2010)『不花錢學日語 精選 18 個「上網免費快學日文」方案』繁星出版
- 余東穎(2010)『歌謠式學習對於學生學習日語單詞的影響』國立中央大學網路學習科技研究所
- 翁爾婕(2010)『參與高雄市社區型長青學苑音樂學習課程老年人快樂程度調查』國立臺
南大學音樂學系教學碩士班
- 尚真(2010)『高齡學習者動機與學習滿意度研究-以高雄市長青學苑為例』南開科技大
學福祉科技與服務管理所
- 覺元宏 (2010) 『高齡學習需求與參與情況分析之研究：以嘉義市長青學苑為例』國立中正大
學成人及繼續教育所
- 魏惠娟(2010)『我國樂齡學習資源中心課程類型、學習需求及滿意度之研究』國立中正大學
成人及繼續教育研究所
- 李奕昕『高齡化社會高齡者教育育的策略與規劃』
- 黃智慧 『戰後台灣的「日本文化論」書物中顯現的「對日觀」』中央研究院民族學研究所
台灣日本研究學會『台灣日本研究 第三期』

附録資料：インタビュー内容記録

士林区士林老人服務中心戦前本省人高齢者

A1 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？

■：話していません。

植民地時代は何歳まで日本語に触れていましたか？

■：9歳から初めて、あの時はね戦争中だからね、あまり勉強をしていません。いつも空襲が来ていますからね。国民学校の4年生まで勉強していました。

その後は勉強を続けましたか？

■：勉強していません。国民学校、終わったら仕事ですよ。

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？（国民政府は日本語を話すことに対して禁じていましたか）

■：政府は言っていないです。私は聴いて分かりますが、話せません。

他の人が話しているのを聞いたことはありますか？

■：ありません。仕事をしていてね、みんな台湾語でしたよ。

仕事の中で、本省人の他に外省人はいましたか？

■：ありません。

陳さんのご両親は日本語を話せますか？

■：話すけど、あまりスラスラと話せません。でもね聞いて分かりますから。

学校の卒業後は何をされていましたか？その頃は日本語を話されていましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：仕事はね、あまり固定してない。よんだら行って仕事するよ。日本語はね結婚をして年寄りになってから、また始めました。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：教えてない。子供は関心ないからね。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：いいですよ。問題ありません。

日本の文化や歴史について、勉強をしたいと思えますか？

■：習いたいと思えますけど、時間がないですよ。でも、もしもあつたらね、話す勉強をしたいですよ。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■：このクラスはね、面白いからね。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として～のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の～のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：日本の事は好きだからね。でもね、年寄りだから、時間もあまりないからね。

この老人サービスセンターに通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていたら、何を習われていますか？）

か？またその理由はなんですか？)

■：ここだけですよ。他はないですよ。

普段は何をしていますか？

■：もう年寄りの生活をしていますよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：少しぐらいですね、いつもは話していない。家の中で話せるのは僕1人だからね。家内はね少し分かるけどね、いつも台湾語で話していますからね。回りの環境もね、話せる人はいないですよ。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：そんなのないですよ。会って話しする人もないですよ。

同級生とは連絡をしていますか？

■：していません。もう沢山、亡くなっているからね。10年ぐらい前にね、同級生と一緒に、先生を迎えました。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■：欲しいですよ。自分の為に、日本語を話したいですね。話さないと忘れてしまうから。ここに来なくても、住んでいるところでも話したいですからね。

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：あまり行かないですよ。日本語の本や雑誌も読んだこともないですよ。あまり図書館に行ってみないから。

A2 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？

■：私はね、国民学校の4年生まで日本教育を受けました。12歳以前には日本教育で、12歳以後には全然受けていません。自分もずっと日本語を読んでいない、もうすぐに忘れてしまう状況になっています。

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：ないです、ないです。台湾はそんなことないです。政府はそんなこと禁止、そんなことないです。あの時はね、補習班の費用がとっても高いですから、日本語を補習に行くとな、不便とか費用がかかるんだから、そのチャンスが少ないんです。今はチャンスが多いですから、センターでもありますから、簡単に勉強が出来ます。日本語の補習班は滅多に少ないですよ。機関、政府はね、先輩方には日本語を使っております。昔は、政府の職員はね、年上は皆日本語教育ですよ。だからね、私がオフィスに入っていたらね、皆で日本語を使っています。禁止はそんなことはないですよ。

学校の卒業後は何をされていましたが？その頃は日本語を話されていましたが？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：あの時ね、もうずっと日本語の本を見ていないですね。あの時ね中学、高校の勉強をするんだから、日本語を習う時間もないし、その後ね、20歳から台北に来ました。省政府に入ってから、リタイアまで。今はずっと台北に住んでいます。大学を卒業して、あの職場に行った時にね、あの環境、その中の環境、その先輩方にいつも日本語を使っているんだから、あの時は習う機会がありました。しかしあの習い方はね、正確な学校じゃなくてねお互いの喋り相手に過ぎないです。それからね、あの、退職後ですね、この設備があつてからもう1度正式に学生になりました。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：國小的時候曾經有教過，但是唸中學以後就沒有教他了。小的時候有教過他。在國小4，5年級。他們有學到50音，普通的簡單的名詞，他們都出來ますよ。但是因為升學的關係，到了中學以後他們就沒在唸了。聽我們講日語，都沒有太大的問題²⁶。しかし、今はね、子供たちと一緒に、日本語ではあまり言わない。私はね、やっぱり還是希望，子供にね機会があれば日本語をね、教えたいですよ。孫でもね、時間があったら留学させたいです。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：こっちはね、日本語を受けている方は沢山いますよ。この中はね、日本語を受けている学生が一番多いですよ。日本語のカラオケの授業もあります。カラオケの授業はね、簡単な日本語を習ってから、2時間のうち1時間はひらがなを習って、第2時間は歌を習っています。

今の日本語学習の環境は特に問題ありませんか？

■：そうですね、話す相手がない、少ないです。まあクラスの中は皆若いだから、小さい時は日本教育受けてないですから、年取ってから外国語を習うことは口が開かないですよ。だからお互いに日本語を使ってないです。日本語を使うチャンスがないです。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？（どのくらい前からか覚えていますか？）

■：退職以後ですね、私は6年前ですね。退職してないのは時間がないですよ。この正式の学校に来て勉強をするのは時間がないですから、退職後で時間があったから、暇つぶしの気持ちで、この中心に来ました。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として～のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の～のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：それは、なんと言うのですかな、私は恐らく小さい時にね、日本人になったことがありますから、そういう関係があります。他の人はどうか私は全然分かりませんね。私の友達は何日本の事にね詳しいから、もっと分かりたいです。今はね日本の大学の教科書とかね、正式の教科書を見たいですよ。この中にも

²⁶ 小学校の時に教えました。

ね、そういう人がいますよ。

この老人サービス中心に通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：私はね、今2ヶ所のところで勉強をしています。こっちの他に、天母の図書館にも、一ヶ所行っています。

（上に続く）同じような科目ですか？

■：ええ、日本語です。あそこの先生はやっぱり日本人です。先生はとってもいいです。私はね今参加しているクラスはね、比較的レベルが高いところです。この中にね、4級、5級分かれています。そしてここは一番最上級です。しかし年取った後ね、記憶力が減っているだから、あまり上達には出来ませんですね。

（上に続く）なぜ天母の図書館にも行こうと思ったんですか？そのきっかけは何ですか。またこちらとどっちが先ですか？

■：図書館は毎週行ってますよ。こっちが先ですよ。ここのクラスメートも、あそこの学生があります。あの先生も悪くないと、消息があって、だからまだ行きました。また市内でね、皆年取っている友達です。80何歳のおばさんが沢山あってね、あの中では皆、日本語で喋っています。天母はね、教科書が半分だけで、他のは漫画を教えています。まあ小さい時には学校にね、漫画の本は禁止していますよ。あの時は学校の中はね漫画の本は見ていけませんですよ。今はとっても流行しているそうですが。だからその先生は、私は頑固とか時代遅れだという気持ちですよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：家の家内は、日本語を使っています。友達の間でね、互いに日本語で会話をしています。練習の為にもね。でもね、普段の生活はね日本語は少ないです。台湾語や中国語が多いです。そしてね、住んでいる周りの環境も話している人はいないですね。でも公園にいる時はね、お互いに日本語を使っています。

同級生とは日本語を話していますか？

■：同級生とはもう連絡をしていません。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：使用の環境と言ってもね、習う所はありますよ。自分たちで集まってやっているところです。政府の政策じゃなくてね、自分たちの趣味でね、日本人の先生を呼んでいます。若い人も一緒にやっています。しかし、日本語を使うチャンスは本当に少ないです。

高齢者だけを対象にしている所はありますか？

■：それは少ないです。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■：もちろん、そんな環境があったらいいですよ。自分の会話も上手になりますよ。ただしその環境がないですよ。しかしその場所があったら勉強行きたいです。

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：沢山あります。家でも日本語の勉強をしています。以前、私は造園の仕事をやっているんですからね、造園の技術は日本庭園ですからね、参考書は殆どが日本語で書いています。家にある本は日本語の本が多いですね。図書館はね、雑誌を借りたことがあります。でもね、あまり時間がないからね、今は借りても読む時間がないです。

A3 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていきましたか？または話すのを控えていましたか？

■：兄さんと父さん、いとは殆どが日本語。私は国語家庭だから。けど、外ではあまり使わない、出来る人がいないでしょう、

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：外ではあまり話さない。家は兄さんと、姉さんの二人で有時候會講。

学校の卒業後は何をされていましたか？その頃は日本語を話されていましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：私は警察局で仕事をしています。日本語を使うチャンスは少ないです。日本語の学習はリタイアからです。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：有時候會，他們有時候會問，興趣的時候，看了什麼有不懂就會來問，就主動會來問。在高中到大學有在修日文課，他們就會問。或是他們聽到什麼，不懂意思就會來問，就跟他講。沒有聽過他們對於日文的想法。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：很滿意。對於現在的老師很滿意。

今の日本語の学習について、特に問題はないですか？

■：ありません。聞くことはちゃんと出来ますけど、書くことが出来ません。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■：友達が紹介してくれました。就有興趣。還有、自分が小さい頃が勉強していた記憶を忘れないように、連續學習，就是這樣子。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として～のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の～のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：その授業があったら行きたいと思います。也不是説きっかけ啦、就、小さい頃から日本語で、幼稚園から日本の幼稚園に入っていますから、長い間使用してない、忘れてるから、就希望可以毎日上課、複習啦。すらすらにはあまり言えませんが。だけど私はもう年だから、これぐらいで結構です。

この老人服務中心に通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：我也有在別的地方上，就是天母圖書館，日本語の先生で女の方。日本語を勉強しています。面白いからね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：來這邊，有機會才講，平常是不會講的。家の兄ちゃん就會講。兄ちゃんは三つ上。他就會說。家裡就只有兄ちゃんだけ。剩下的就都不會講。

兄さんは今、どこに住んでいますか？

■：兄さんは桃園にいます。

（上に続く…）ご主人とは話していますか？

■：先生已經過世了。他也不會講，他是外省人。

（上に続く…）同級生とは？

■：同班同學でも、同じ年でも、他們都不會講。

（上に続く…）在周圍的環境，都比較少講日文嗎？

■：都很少講。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：好像比較少。就算有，他們講的還是不太…発音方面…わたし也還是不太流利啊。

(上に続く…) 除了這裡在學習以外，接觸到其他使用日語的高齡者的環境，您覺得如何呢？

■：不多，沒有什麼機會。今日は金曜日でしょ、先週の月曜日は日本から樺山の同窓生や先輩の30何人が台湾にいらっしゃって、その時はあの人達と一緒に唱校歌とか、先週にね。在這時候才會講日語。

所以您在生活中，是比較少接觸日語的？

■：是的。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■：別に、沒有要求什麼啦。但是如果有那樣的地方，會想要去看看。但是我覺得我的年紀比較大一點，會跟不上。所以我就像信義路就有一個叫玉蘭莊，我去過。我們クラス有好幾個去，都叫我去，所以我有去過一次。但是後來覺得不太行，所以就遠慮しました。我的同學啊，也有到天母圖書館，那邊也有日語教室。

所以您覺得，並不會想要進一步接觸，或是想要把使用日語的環境擴大嗎？

■：不會想耶，因為さっき兄ちゃん才在講「日本語勉強して何するの？」所以就…

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：読んでいませんよ。目がちょっと良くないからね、あの、テレビだけ、日本の番組を見たり、歌を聴いたり。

A4 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？

■：話してます。環境でしょ。光復と言ってもすぐに皆、日本語を捨てること

は無いでしょう。途切れることはありません。

何歳まで日本語に触れましたか？

■：私はせいぜい小学校の3年あたりですね。それで台湾は光復しましたから。

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：もちろん後になったら、やっぱり自然とね公共の場所ではね、あまり言わない方がいいと思ってね、だから単に家庭でねお姉さんやお兄さんとかね。

学校の卒業後は何をされていましたか？その頃は日本語を話されていましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：仕事ではもう全然使いません。仕事だって話せる人そんなに多くないでしょう。日本語話せる人少ないでしょう。私の後輩だってね殆ど日本語話せないでしょう。私と同じ同輩でもね、聞いて分かるけど話せない人も沢山おる。それは私は家庭の関係で。

夫は日本語を話せましたか？

■：旦那さんは外省人。大陸の人だからね全然話せない。だからね全然話していない。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：全然出来ない。話したこともない。あの人たちは皆アメリカにおるからね、皆英語。あの人たちの主語は中国語。恐らく台湾に残ったら日本語習う人もやっぱりおるでしょ、若い人は。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：カラオケと言ったら、今は沢山の人が行ってますの。私も時々行きます。それであそこでね、もうやっぱりね、日本語の歌を聴いてからね、わあ、こん

なに沢山の日本語の歌が台湾に入ってるってことが分かりますの。だから面白いなの。そして例えばこのクラスでね、日本語の歌を習っているでしょ、だから習ったら自然と私たちの日本語も進歩しますの。そして歌詞をみてからね、日本のね、日本語だけじゃなくて、日本の文学もね、とってもいい歌詞が沢山ありますの。だから自然とね日本の文学にも接近してからね、色々歌詞の内容で色んな、もっと日本語が上手になりますの。

今、習っているカラオケの内容は演歌がほとんどですか。

■：これはやっぱり演歌がありますの。この中に演歌が沢山ありますの。

歌謡は教えていますか？

■：歌謡と言ったら時たま教えます。あまりないです。殆どが演歌でね私のこのクラスはね老歌班と言って古い歌のクラス。そしてもう一つのクラスは新しい歌のクラス、今、日本のはやっている歌のクラス、今、習っているのは昭和時代のね、4,50年前の歌。だから演歌も沢山あります。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■：お友達が出来るからね。日本語の歌も好きですの。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として～のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の～のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：私だったらもう日本語は習いたくないの。でもね、日本の歴史や日本の文学があったら、そんなものがあれば習うかもしれない。私だったらね日本の文学や歴史、私本人は歴史が好きだから、中国の歴史であろうとね。歴史や地理が好きだから、歴史の授業があったら私は来るかもしれません。

この老人サービス中心に通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：もうここで十分だからね、他のところには行ってませんよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■ : 私の同じ年頃の友達だったらね、日本語や台湾語、国語を混ぜてね、普通はそんな会話の仕方をしていますの。そして私のお姉さんは、女学校は日本時代だったからね、お姉さんと一緒に話す時もやっぱり沢山日本語を使いますの。

お姉さんは今、何処に住んでいますか？

■ : 隣に住んでいます。

毎日、日本語で会話することはありますか？

■ : ありますよ、殆どが。

ご主人とは日本語を話していますか？

■ : もう、今はいません。私の旦那さんは日本語で来ません。外省人だから。

今は普段から日本語を話せる環境にいるという事ですね。

■ : そうです。

(上に続く…) 今住んでいる周囲の環境で日本語は使われていますか？

■ : だって話せる人、少ないでしょう。いないでしょう。若い人とか中年の人なんか皆、話せないでしょう。だからね私より若い人と一緒になったら殆ど日本語を話しません。私と同じ年頃とかね、私より目上の方だったらね、もちろん日本語で話します。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■ : ないようですね。話せる環境は少ないと思いますよ。それに高齢の方々が年々と少なくなっていますから。私が日本語を話せるのは、お姉さんやお兄さんがおる、だから自然とね日本語話す機会がある。そして、私と同じ頃のね友達がおるから、その友達と一緒にしたらね、日本語、中国語、台湾語とね混ぜ合ってお話すると、自然と日本語が進歩しますの。日本語の歌を歌うと自然とね、やっぱり日本語のことを忘れることが出来ないの。自然と日本語がね、

進歩しますの。そして日本文も自然と進歩します。あの歌詞を見てね。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■: やっぱし普段の環境だとね、もしもね、だって私は日本語は話せるでしょ、だからもしもそんな環境があったらね、欲しいと思います。お互い言語が通じるならば。それにね、年が近い方が話しやすいわね。例えば若い人が日本語を習っても、あの人達は日本語を言いませんよ。単に習っただけです。あの人の商社は日本語が必要だと、あの人は日本語を習うでしょ。或いは日本語留学に行くからといって日本語を習うでしょ。大体がそのようなものですよ。それで普段、やっぱし日本語をあまりお話しません。習いに行ってもお話しません。そんな環境がないからですよ。

(上に続く…) 日本のように台北も市民会館のような所があったら、日本語を話せる人同士の距離が縮まると思いますが、そのようなあったらいいと思いませんか？

■: 思いますよ、もちろん。そんな場所があったら行きたいと思います。

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■: 私は日本の小説を読んでいます。探偵小説、ミステリーが好きですね。だってこんな年でしょ、探偵の方が面白いでしょ。

雑誌は見ていますか？

■: 時たま。或いは友達に会ったら貸してくれますの。

A5 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？

■: 私は小さいからね分かりません。学生でしょ、まだ学生時代は、学校は全然日本語を話さない。だけど友達の間はね、ちょっとあの、たまに単語は日本語で言います。混ぜて。

実際に日本語を学習した期間は、何歳から何歳の間ですか？

■：数え年は8歳から10歳ぐらい、だから2年間だけ。そして3年生は空襲で学校をやめてね、5年生に降伏、その3年間は全然勉強をしていません。

実際に学習をしたのは、小学校1年生から2年生までで、それ以降は殆ど日本語に触れていないという事ですね。

■：3年生は、今ちょっと忘れたけどね、3年生はちょっと習ったらしい。そして疎開して、慣れないからまた家に帰って来てね、全然勉強をしていません。

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：日本語はあまり出来なかったけどね、話せるところは、家の中ですね。片言で話していました。外ではあまり話さなかった。

学校の卒業後は何をされていましたか？その頃は日本語を話されていましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：私は学校の先生ですね。だから生徒の前は皆あの、中国語を言いますね。だけど先生同士、先生同士には私より年上の先生がいますね、先生たちは一緒に話す時はたまに、さっき言った通りに単語は日本語で言います。だから私は今ちょっと日本語が出来ますのは、年上の先生たちのお陰ですよ。

学校の先生になったのは何歳からですか？

■：満18歳。

それまでは日本語を使っていたか？

■：その前まではね、私は日本の小説が好きでしょ、だから姉さんは、姉さんは私の5つ上だから、姉さんとまだあの50音を習って、そして小説を読んで雑誌を読んで、ただ話すのはちょっと難しいけど、読むのは大丈夫ですよ。

そして18歳になってから、実際に先生になっても、少しながら日本語を使われていたという事ですか？

■：そうです。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：私の息子は日本留学行きましたから、日本語は大丈夫ですよ。孫は大学で勉強しています。

（上に続く）彼らは日本についてどの様に思っているか、聞いたことはありますか？

■：ありますよ。私の息子は日本がとても好きで、いつも日本に遊びに行くからね、私も一緒に行きます。家では機会があったらね、日本語で話します。

日本に対して比較的親切感を感じているという事ですか？

■：そうです。

両親は日本語を話されていますか？

■：あんまり出来ません。私の実のお父さんは、日本語が上手です。日本の会社に勤めているからね、日本時代に銀行に勤めているから日本語は大丈夫ですよ。お母さんはちょっと難しいけど、お父さんは大丈夫です。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：私も日本語を3年習いました、ここでね。だから今聞いたとおりに、私は相当進歩したと思っています。今はカラオケのクラスですが、カラオケの方が早い、カラオケはもう5、6年ぐらい歌ったけど、日本語は3年間ぐらい。先生の教え方がとっても活発で習いやすいの。

授業内容に関して、特に違うものを習いたいとは思いませんでしたか？

■：ありますよ。日本語は普通の会話は大丈夫だけど、案外難しい文句はやっぱりだめです。それに先生はね日本のニュースの内容を教材として教えてくれ

ます。

特に日本の歴史や文化を中心とした授業はありませんが、先生に聞いたら教えてくれるという事ですよ。

■：私はね、ビデオが好きだからね、日本の歴史の、最近の日本のドラマも見えていますから、だから日本の歴史は、まあちょっと分かります。以前は学校では日本の歴史を全然習っていません。今はテレビで習っています、NHKでね。

今のサービス中心で大きく二分野に分けられる日本語関連のクラスについて、戦前の学習者に対して満たされていると思いますか？

■：もし、今の授業意外に日本の歴史や文化とか、こんな科目があったら私習います。

年配者、特に戦前高齢者における限られた日本語の使用環境についてどの様に思いますか？

■：今、習っている友達たちはね、まあ程度がちょっと足りないから、そんな科目が増えるとちょっと難しいと思います。私自分はそのNHKを良く見るから、テレビを良く見るから、自分で勉強をする。そして雑誌も読んで。分からないけど漢字があるから、その大体の意味をあてることが出来る。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■：歌詞はちょっとね、歌だからある時は了解するのがちょっと難しいのがあります。先生が説明するから、だけど分からない時は私は辞書を引いてね、自分で勉強をします。ある時は日本語のクラスの先生に聞きます。それに私もとから歌が好きだから。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として~のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の~のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：それはね、良くあのいつも日本行くでしょ、そうすると歴史が分からないとね、あの、解釈しても何言っているか分からないでしょ、だからそれをね、とっても習いたいの。だけど最近のNHKに沢山歴史の映画とか時代劇があるから、私はその中からちょっと了解しています。

この老人サービスセンターに通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：いいえ、もう時間ありませんから。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：今はね、家では息子と少し話します。息子だけ。学校（老人サービスセンター）に来たら年寄りの方がいるからね。それから先生と話しますよ、先生は日本人だからね。ここに来ないと私の環境はただ息子だけ。

陳さんの息子は今、何歳ですか？

■：数え年で56でしょ。息子は日本に四ヶ月ぐらい勉強に行ったから、それで…それから大学の時も日本語を習いました。

他の家族は日本語を話しませんか？

■：私の兄さんは話せますが、もう亡くなりましたね。弟は日本会社に勤めているから。弟と少し話します。それから弟の友達で、日本の友達がいるから、その時に話します。それ以外は全然機会がありません。そしてこのサービスセンターに来ている月曜と金曜の2日だけ。だからここにいる時は、なるべく日本語を話します。

家族で話せるのは陳さんの弟と息子の二人ですね？

■：そうです。息子と一緒に住んでいます。そしてたまに日本語で話します。単語をね。息子はあまり出来ないけど単語なら大丈夫。台湾語や国語と混ぜて話しています。ちゃんぽんですね。

（上に続く）今住んでいる周囲の環境はどうですか？

■：私と同じ年頃のおばあちゃんがね、2人ぐらいいるね。出会った時はなるべく日本語で話します。同じ社區に住んでいます。

陳さんは淡水区に住んでいますが、観光区域であることから、日本語を聞く機会もそれなりに増えているんじゃないですか？

■ : だけど MRT の淡水駅から出たら、乗り換えのバス停がすぐ近くにあるからね。そしてすぐに家に帰るでしょ、だからあまり観光客と接触する時間がありません。たまに息子の友達と日本語で話しています。それぐらいですわね。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■ : 今の若い人（40~50 歳の中年）はカラオケの為に習っているらしい。皆歌が好きだから。50 音を習ってすぐに歌を歌えるでしょ、その目的だと思います。日本語を話す人は、私たちの年齢でね、限られるでしょ。若い人達はあまり話すのは無理。歌を歌うのは上手だけどね。でも若い人で私の孫は大学で日本語を学んでいましたから、かなり私と日本語で話す時があります。息子と同じように単語でね。
私はね以前、全然話していません。ここで勉強をしてから、こちらの先生と話してから、日本語を話せるようになりました。以前は全然駄目ですよ。

以前と言うのは何歳ですか？

■ : 光復語ちょっとね、初中（中学）の時ね。私、師範学校でしょ。だから国語を話すことが義務付けられていたから、全然、日本語を話す機会がありません。（単語は続けて使っているから、全く話してないわけではない）そして学校の先生になってから、年上の人とちゃんぽんで混ぜて話しました。（でも夫は外省人だから家では話さなかった）
そして民国 70 年だから、1981 年に私はアメリカに行きました。そして飛行機の中で、日本人に会いました。その時に初めて日本語で口に出しました。それが初めて。

ですから、高齢者を対象とした日本語の使用環境は少ないですよ。

■ : 少ない。学校（老人サービスセンター）以外は殆どね。ただ同窓と一緒にいたら話します。でもね、同窓と言ってもそんなにないな、只有幾個會講。そしてね、私（当時陳さんは 78 歳）の三つ下の方は、全然日本語が出来ません。特別に家の環境とか、商売人、貿易商とかね、日本人と接触している人は案外出来るかも知れないね。でもね、今（2012 年当時）の 75 歳以下の人はちょっと難しい。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■：私は当然欲しいです。でも他の人は分かりません。私は日本語が昔から好きです。姉さんが5つ年上でしょ、だから私は姉さんと一緒に話すのは、殆ど日本語で話す。それを抜いて、他の人はあまりそんな機会がありません。ずっと日本小説も雑誌も好きだから、当然私は日本語を習いたい、そしてね、深めたい。機会があったら日本語で話します。

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：全然、そんな時間がありません。それにね、今は目が悪いからあまり読まないの。以前は私、読みますよ。

図書館や特定の閲覧室で日本語の本や雑誌があることを知っていますか。

■：分かりませんね。以前、私が台中にいた時、文化書局で雑誌を読んでいた。

近くに紀伊国屋がありますが、行かれますか？

■：行きますよ、たまに。

A6 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？

■：終戦後は、同じ年輩なら話すけどね、たまには話すけどね、しょっちゅうは話しません。話す機会がないんだから。

日本語はいつまで学んでいましたか？

■：初等科1年

家族の間では話していましたか？

■：話していません。国語家庭ではないから。

学校では話していましたが、外ではどうですか？

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：外省人が多いところや、聴いて嫌な人、この人達と一緒に話したくないです。ある人がね、「何を言っているのか！日本語ばっか話して！」こんな人もいますよ。やっぱり相手によって、話す言語が違いますね。そして若い人はね話しても分からないんだから。しかしね、僕より年寄りの人も分からない人がいますからね。その時はもちろん話しません。

国民政府は日本語を話してはいけないと、制限をしていましたか？

■：そう言われています。ある省長は一応禁止していました。でもこの制度があってもね、日本語が話せる人は、日本語で話し合っている人もいます。癖になっていますから、自然に出てきます。

学校の卒業後は何をされていましたか？その頃は日本語を話されていましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：初めの6年は通信工業。あとの6年は鉄道部に入って、それからが銀行界です。仕事は日本語をあまり使わないですね、あまり上手ではないのだから。学習は今は自学をしています。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：教えていません。僕の孫はまだ14歳だから、若いです。しかし学校では学んでいるみたいです。仮名は少し出来るけど、あまり上手ではありません。息子は殆ど分かりません。日本語を使う仕事ではないから。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：皆は日本語のカラオケが好きです。そしてねこのセンターはね、厳しく定められていないんだから、もちろん日本語も教えているんだから、いいと思います。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■：学ばば学ぶ程、分からないことが浮かびますから、面白いですよ。それを分かるようにする為に勉強に来ています。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として～のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の～のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：興味があるのは、それだけではないけどね、新しい事を習うのが好きなんだ。

この老人サービスセンターに通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：行っていません。他のところでも学びたいんですが、ただね、教育電台で日本語の勉強をしていますから、私もその教科書を買いました。自分で学んでいます。教科書はね難しいところには翻訳が書いてありますから、いいんだ、その本は。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：普段、ここ以外は日本語を話すチャンスが少ないから。住んでいる周りの人はね、若い人が多いから話しません。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：もちろん、年をとる者はね、1年1年と少なくなっていくからね、使用できる環境は少なくなると思います。それにね、話したい人もいれば、話したくない人もいるから。相手がいないとね難しいから。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■:欲しいけどね、今の日本語は外来語が多いんだから、それは難しいです。聞いて分かりません。それにね、もう年だから、住んでいるところの近くにそんな所があってね、時間があれば行きたいと思います。ただ私が欲しいから変わるものじゃないからね。

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■:読んでいます。辞書を調べるのが好きです。4冊ぐらい持っていますよ。また教育電台の教科書や似たような本も読んでいます。出来るだけ学びたいです。日本語の本は家の近くにある紀伊国屋に行っています。図書館は遠いだから行きません。

A7さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたか？または話すのを控えていましたか？

■:ない、全然話していない。話す相手もない。日本語は下手ですよ。

仕事でも日本語は使いませんでしたか。

■:ありません。しかし台湾人にとって、あまり日本語を喋らない。

国民政府が話すのを制限していたからですか。

■:その関係もあります。

取り締まっているという事はありませんか。

■:聞いたことはありますよ。事故起こったら大変ですよ。だから話さない。

他の人が日本語を話しているのを聞いたことありますか。

■:ないですね。その時、光復の後も日本人と兵隊さんも日本に帰ったでしょ、

だから台湾人も日本語を喋らない。私が住んでいる台北県では日本語を話す人なかったね。

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：話していい所もないし、話していけない所は、あまりはっきりしない。そして、国民政府が北京語を話すように言ってたけど、その勉強もしていないから、めちゃくちゃですよ。

お仕事の使用言語は台湾語ですか。

■：そうです。

日本語に再び触れた年齢はいつですか。

■：ないですよ。そんな話す相手ないですよ。ここに来るまではないですよ。

学校の卒業後は何をされておりましたか？その頃は日本語を話されておりましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：運転の仕事をしていました。日本語は話していない。そしてね、日本語の学習は年取ってから始めた。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：日本語があまり出来ないから、教えられないですよ。子供も日本語に対して興味がないです。それでね、私が日本語を話すとき息子が、「可笑しいね、なぜ日本語を話すのか？」そしてね私が逆に「どうして英語話すの？」と聞いた。そしてね、また文句言うの。でも今は反対しない、初めの時だけ。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：色々教えているだから、なんとかやっている。ここで教えていることはいいと思います。実用しています。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■：ただここに来て、日本語を話す仲間があったらうれしい。その感じだけ。しかしここ出たら、話す相手もいないですよ。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として～のように書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の～のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：今は、それに興味があるからね、参加してみたいです。

この老人サービスセンターに通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：ないです。時間がないだから。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：今はここ以外に、日本語を話すチャンスはないですよ。家族も話しませんよ。興味ないだから。でもね士林に住んでいるだから、ガイドさんが日本語で案内している時、静かに聴いている。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：高齢者と言っても、日本語をスラスラと喋れる人も少ないから。温泉に入っている時は、高齢者いるけど、台湾語ばかりですよ。日本語分かると思うけれども、あまり喋らない。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■：話せる相手いないから、でも話せる環境は欲しいですよ。

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：私はね、図書館に行ったことないですよ。そして、借り本はあまり趣味がない。本屋だったら、好きだったら、1~2冊買います。

A8 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？

■：日本語は、殆ど使っていましたね。というのは、私たちが中学はいるときの入学試験もね国語や、数学、物理と言った科目はね、日本文で問題は出されて、それを答えるんですから、だから日本文は結構使っていたんです。

光復の時でもそうですか？

■：そうです。だって光復と言っても、終戦までの間は中断状態になっていたでしょ。恐らく3年ぐらいは空白だったでしょ。政治もね。来てから、今の国語を学ぶのは大変です。だから媒介するのは日本語です。中国語で教えて、それを日本語で翻訳しないと理解できないでしょ。言葉の媒介としてはずっと使われているでしょ。

(上に続く) 空白の3年は話されていたとの事ですが、国民政府が来た時は控えていましたか？

■：控えているけどやっぱり使います。

それは環境によって違いますか？

■：それはプライベートの時です。それから同年輩の方と語る時です。どうしてもその言葉は便利だから。

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：それはありましたね。特に軍隊入っていた頃は、うっかり一言でも日本語が出ると、睨まれますから。

それは温さんが何歳の時でしたか？

■：私が 25~26 の時でしょうね。

その年頃でも軍隊に入られるんですか？

■：徴兵制度ですから。学校を出るとすぐ二十歳になると徴兵です。ところが、学校を出てからだ、人員の配備があるから、私は幸いに 26 あたりに軍隊に行った。それで 2 年間ですね。

軍隊以外に禁止されていた場所がありますか？

■：学校も一時は禁止になりましたね。

(上に続く) 安心して話せる場所がありましたか？

■：プライベートな所があったらね、別に監視されていない以上は話せる。

学校の卒業後は軍隊に入られていたとの事ですが、その後は日本語を話されていきましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：仕事を転々と変えたけどね、建築業の時は殆ど日本語でしょうね。色々だね名詞は日本語で呼ばれていたわけだから。

それは日本人と共に仕事をしていたからですか？

■：それはないです。でも、電話や手紙で連絡をしていました。

(上に続く) 国民政府は、仕事の日本語使用まで制限をしていなかったという事ですか？

■：と言うのはね、戒厳されていない段階では、日本との貿易もあまりなかったわけですよ、あの時点では。後で日本の企業が台湾に来て合弁をやったり、その時点になってからまた、日本語を使う機会が増えたわけですよ。その時点で政府は関与しません。

(上に続く) それは戒厳令が解かれた後のことですか？

■：まだです。戦後から15年ぐらいでしょうね。

色々と制限をされたと聞いたこともありますが、それは職種によって違うのでしょうか？

■：職種ではなくて、タイミングだと思いますよ。変な時に、変な所で使ったら、変な理由で罰則されることもあるし。

郵便局や銀行など、公的な機関での使用言語はどうでしょうか？

■：一応は国語、北京語ですね。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：特に教えてはいないけど、ただやっぱり聞いているから、やっぱり喋りません。

（上に続く）特に教えていないとの事ですが、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：ごく当たり前だろうと思っているでしょう。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■：ただ今はね、生活の1つの余興としてやっているんだから、特にと言う様な考え方がないと思います、みんなもね。ただ、日本語を知る人達はね、やっぱり日本語の言葉の豊かさをね、そしてその便利さを知っているんだから、自然と歌を歌っても、カラオケ行っても、日本語の歌多いでしょ。だから日本語は、まだまだ続くと思います。

高齢者の日本語学習クラスでカラオケが広く、戦前の方々にも親しまれていますが、単なる日本語学習になると、色々とレベル分けはされていますが、やはり学習者が限られてしまうと思いますが、どの様にお思いですか？

■：1つの言葉はね、実用にまで持ち込むのは、やっぱり年期もかかるし、それは2~3年で出来るものではないと思います。

今のクラスは60後半から70代の高齢者の為に開かれているようで、80代の人や日本語が出来る方々の人向けのクラスではないように感じますが。

■：私たちは、日本語で一番最後に教育を受けた、切れた年なんです。終戦で私たちが6年生の時ですから。だからそれから前3年若い人達はね、実際には学校に行っても学んでいないわけ。空襲で。だから彼達は日本語に対してある程度の愛着があると思うんですよ。その環境で育ったもんだから。それでね終戦当時が小学校1年の人は、殆どが日本語を知らないです。

日本語教育に対して記憶があるのは78歳以上と考えたほうがいいでしょうか？

■：いや、もっと遅いですよ。厳格に考えてみると82~83でしょうね。

そしてその中でまた国民学校や小学校と日本語の程度にも変化が現れてきますよね。

■：そうです。

日本語について、もしも科目の増設がありましたら、どのような科目を増やした方がいいと思いますか？

■：やっぱり言葉と言うのは会話を最初に普及させることでしょうね。だから高級班へ行ってもね、そこを終えてもね、中々習った事を応用できないです。というのは一番いい例ですね、台湾から日本へ留学をした大学生はですね、そこで4年間学んでも、帰国したらやっぱり日本語は喋れないですよ。それは非常に多いです。だから、言葉と言うのは如何に基本からやって行かないと。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■：日本語の歌に触れることが出来るからいいんだ。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として~のようにと書かれていますが、どのような事がきっかけで、日本の~のような事に興味を持ち始めましたか？

■：日本の文学ですかね。もともと私が子供の頃から好きだったです。私がもう小学校の頃からですね、日本文学全集、大衆文学全集のような本を読みますから。それから散文も読んでいました。

ご両親は、日本語が話せるとお聞きしましたが、それは片言ですか？

■：完璧な日本語を使いますね。

それは仕事の関係からですか？

■：家の父は仕事の関係からでしょうね。日本総督府で中の職員だったものだから。

この老人サービスセンターに通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：もう今はないです。もう年だからね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：いますね例えばこのような環境は、日本語を喋る人も多いし。それで家の中はね、子供と別居していますから、私と家内（再婚/今は60代）の間では、片言ですね、そんなに十分ではありません。聞くのは問題ないけど、喋るとなると、使う機会がないから。そして家を出たらもっと話す機会が少なくなりますね。日本語を話すとしたらここと、同年輩との会合とかですね。つい2~3年前までは定期的に小学校や、中学校の同窓会をやっていました。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：段々ともう減ったと思いますね。喋れる人はもう段々と年をとって、亡くなられるし、それから後継者達はね、もう日本語には興味があるし、または職業的に必要な人もいるけれど、一般では国語が主体になっていますね。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■：欲しいと言っても、必ずしもと言う必要性はないでしょう。ただそういう環境はやっぱりあって欲しいと思うけれど。色んなことでね関与していますから、日本との接触はこれからも色々続くと思います。

日本語を話せる環境があったとしたら、行ってみたいと思いますか？

■：一応、私はもう十分だと思う。だからまたそれ以上、特殊な科目で例えば文芸や文学とかでなかったら、今ので十分です。

自宅または、図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：本屋に行って読みますね。それから同窓の友人同士でね、交換をしながら読んでいます。

図書館はどうですか？

■：あまりないですね。本は少ないでしょ。私は探しに行ったことはないけれど、恐らくないと思います。

万華区龍山老人服務中心戦前本省人高齢者

A9 さん

光復時期になった後は、日本語を話されていましたが？または話すのを控えていましたか？

■：光復の後はあまり日本語を使っていない。台湾は、光復の後はね、皆は国語を習っている。

日本語を実際に使っていた期間はどのくらいですか？

■：私は初中の後でね、卒業の後、中南米やカナダに移民をして、それでまた台湾もどって仕事さがした。私がいた店でね、やっぱり日本の医療機械を売っているの。あの時ね、やっぱり日本語が無いとね、商売が出来ないの。あの時は中南部で、お医者さんはやっぱり日本語使っていたから。

日本語はどのくらい見て分かりますか？

■：大体、見て分かりますけど、あまり難しい日本語はやっぱり長い間、使っていないからね、分からなくなってるね。

光復時期で日本語を話す場所として、安心して話せる場所と、日本語を話してはならない場所など、限られていましたか？

■：それはないね。ただし日本語を話す場所はね、病院のところにね商売をやっているでしょ、だから話さないでだめ。以前の南部の広東人、客家人は皆、日本語を使っていたから。日本語を習わないとね、あそこで商売が出来ない。

あの時は、本省人のお医者を中心ですか。外省人や日本人は、いましたか。

■：一般はね、本省人の医者が多いの。当時は日本時代ね、医者は台湾人はおるんだ、弁護士は台湾にやっぱしない、だからもしも大学に行ったらね、弁護士は、やっぱり日本へ行かないとなれない。一般の医者は台湾におけるんだ。

今、話しているのは台湾のどの辺りですか。

■：北部ですね、中南部にはあまり行かない。

(上に続く) 日本語を話してはならない所は、なかったということですか？

■：一般的はね、新竹以内の所はね、やっぱり日本語が無いとね商売が出来ない。あの人たちは皆、広東人だから。だからね、制限はなかったね。

両親は日本語を話されてましたか。

■：出来ないね、田舎の人だから。板橋の樹林あたりだからね。家の中はね、日本語を話していません。

学校の卒業後は何をされてましたか？その頃は日本語を話されてましたか？また、進学や就職のために日本語の学習を続けましたか？

■：医療機器の販売をしていました。あの時は中部の病院で、向こうの人は広

東人だからね、日本語は出来る、台湾語が出来ない、だからね日本語になった。

(上に続く) 就職のために日本語の学習をしていましたか？

■ : 国民学校の卒業後はね、医療器械のところに入ったからね、特に学習はなかったね。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母(祖父)が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■ : 教えてないですね。

(上に続く) また、頼さんが日本語を話していることに対して、何か話していましたか？

■ : 特にないですね。私の息子はね、カナダに行っているんだ。移民してそこに行った。

今の日本語学習、またはカラオケの歌唱環境や学習内容を、どのようにお思いですか？

■ : 特に問題は無いね。毎回の授業を楽しみにしている。

どのような事がきっかけで、今の授業に通われましたか？

■ : もう年寄りだから、もう仕事が出来ないからね。

今の授業について、頼さんはどの様に思っていますか？もう少し深く学びたいとか、違うことを学びたいなどありますか？

■ : もう年が多いだからね、家内と一緒にね、日本語や日本語の歌を習っているからね、家に帰ったら復習しますよ。

アンケートで興味を持っている事や、新たに設立したい科目として~のように書かれています。どのような事がきっかけで、日本の~のようなことに興味を持ち始めましたか？

■：文化については知りたいけどね、歴史や地理は固いからね。

でも、サービスセンターでそのような授業がありましたら、通いたいという考えはありますか。

■：私は、習いに行きます。でも年だからね、あまり頭を使わない。それに時間も無いからね。

この老人サービスセンターに通われている以外に、また他のところで日本語関連の授業に通われていますか？（もしも通われていましたら、何を習われていますか？またその理由はなんですか？）

■：今は無いですね。もう 80 歳ですよ。以前はあるけど今は無い。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：話せる人が少ないですね。

今は誰と一緒に住んでいますか？

■：今は家の家内だけ。末の息子はね、アメリカで職に就いているの。

奥さんと一緒にいる時は、日本語を話しますか？

■：今は奥さんとね日本語を習っていますから、簡単な日本語だったらね。やっぱり話していますよ。でもね、殆どが台湾語ですね。

今の台湾高齢者における日本語の使用環境についてどの様に思いますか？

■：年齢の高い人はね、やっぱり日本語を使っています。でも少なくなっているからね、ここに来て話しているの。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか。また、日本語の使用環境を深めることや、拡大したいと思いますか？

■:家の中では使っているよ、でも外では使っていない。相手がいらないからね。話せるところがあったら行きますよ。

自宅、または図書館や閲覧室で、日本語の本や雑誌は読まれていますか？

■:たまに友達が日本に行く時に、買ってもらっていますよ。

A10 さん

在光復時期後，您有說日語嗎？還是您有節制說日語呢？

■:沒有，就家裡的人有在講，我就沒有在講。

在二次大戰結束以前，您是國小一年級有學習到什麼樣的日語呢？

■:哪個時候就跑空襲嘛，一天到晚就往鄉下跑，所以也沒有什麼…就五十音有教到啦，katakana，hiragana 還沒教就已經光復了。所以只有學片假名。所以只有接觸到那一段，因為那個時候是戰爭嘛，所以等於沒有學到什麼。

所以如果要比較有學到日語，大約要到多大呢？

■:要到當時的小四，因為我接觸的人的人有的小四，日語程度就很高了。那小四，他們有唸幼稚園，然後又唸到小學四年級，他們的程度都很高。然後他們看小說都沒有問題了。

是否在光復時期，有認識的人在公共場合講日語嗎？是否有受到限制呢？

■:有聽過有人在講，限制就有的老師有限制，他反對你講日語。後來日語都禁止了，但是外面的人還是有在講啦。比我們年紀大的，尤其是他們在唸中學還是說用日語在溝通。

升學，或是工作的時候有接觸(學習)日語嗎？

■:直到 20 幾歲才有在接觸到，我有唸第二外國語。工作的時候有到日本去過，但是沒有什麼效果啦。是有聽到日本人在講啦。還有退休以後就從 70 歲開始想自己，因為一開始是唱日本歌啦，但是反正要學一種外國語言，就自己買會話書開始看起，看一年多就覺得還是早老師學習，可能比較有效果。那一學就是兩年，

除了這裡還有在社區大學，龍山國中學過。

所以在殖民時期學習的日語，就沒有什麼記憶了嗎？

■：就沒有了。

現在除了在這裡，還有使用到日語的機會嗎？

■：沒有了。

請問您有教兒子或孫子講日語嗎？以外有講到日治時期的相關話題嗎？(他們的反應為何?)

■：都沒有。我就不太會講了。他們也沒有問過我。

那麼您的父母會提到相關話題嗎？

■：會阿，我的爸爸、媽媽都有受過日本教育。爸爸是日本時期的中學畢業的，我的媽媽是小學畢業的。

現在的日語教學課程的教學內容，或是卡拉 OK 的歌唱環境，您覺得如何呢？

■：大致上都很好。日本老師也教的很有趣。因為我到現在還是有每天看 2~3 個小時的日語課本及資料，所以我現在的程度，好像比班上學的高一點。因為我現在時間比較多，所以有空就拿起來看一看。背一些單字。

對於此服務中心所開設的日語相關課程以外，請問您是否還期望開設日本文化、歷史等課程呢？

■：沒有這種課程，很少啦。因為這裡就只是基礎的教學，比較深一點的還是自己看，自己學習比較快。而且你自己學習也比較不會受到時間的限制。就日本文化、歷史等課程，都是年紀比較大的才有辦法，年紀大的學習意願不會很高啦。所以如果要上比較複雜的，可能要學習的人就不會很多。

現在服務中心的日語課程，範圍還不是很大…

■：對，而且一個禮拜只有一次，如果你回家沒有複習就有讀跟沒有讀一樣。

請問您到這裡讀的契機為何呢?

■：我的哥哥以前都在講日語。那我都聽不懂阿，那現在我就想，教材上的文章大部分都看的懂啦，就是聽比較難，然後你要表達可能比較可以啦，聽力還要加強啦。以外就剛開始有到日本去研習三個月，但是那時候沒有基礎，然後他們講我還是聽不懂。然後我回來台灣他們有寫信，我連那個信都看不懂，我還是想稍微要懂一下才開始學習日文。就是因為有那一段的經過，所以退休反正有時間，就自己來這邊學習日語。

在問卷中，您回答想要新增的課程為~，請問您回答此課程的契機為何呢?

■：單純是興趣啦。對日文的興趣其實以後也不一定用的到啦。但是就說比較可以多了解一些日本的文化，還有可以看一些日本的書籍、雜誌等等。就只有這樣就好了，反正時間就是這樣打發掉嘛。

如果有開設其他課程，您會想要來了解嗎?

■：當然想要來聽聽看阿，喜歡多了解一點。

請問您在此服務中心以外，有在其他地點上日文相關課程嗎?

■：沒有了。

請問您的生活環境中，是處於講日文的環境嗎?

■：沒有。但是有個朋友，我會跟他研究日語。但是說實在，沒有什麼環境可言。

所以在家裡，您有講日語的習慣嗎?

■：沒有。有時候會看一些 NHK，會稍微聽一下。但是吸收的部份，不會很多。

請問在周圍環境，會接觸到日語嗎?

■：跟年紀比較大的朋友聚在一起，會聽他們講。

請問您對於現在的高齡者日語學習，或是接觸日語的環境，有何看法呢?

■：很少。就只知道社區大學有在教日語。

請問您希望在生活圈，或是周圍環境，就可以講到日語嗎？

■：有那樣的環境，會想要去看看。如果可以交到日本朋友，也可以在其中學習到日語。

請問您有在自家，圖書館或閱覽室，有看過日語的書籍或雜誌嗎？

■：在家會看課本，字典。我沒有去過圖書館。

除了看課本，您還會看日文書嗎？

■：還沒有那個程度啦。我都盡量把教材的資料，就看很多教材的資料。你現在要看小說，不是那麼快就可以的。它有很多中文字，你也不一定會唸阿。

玉蘭莊戰前本省人高齡者

B1 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事はありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）

■：あります。あの時はですね、日本語は話していけないと学校でもですね、禁じられたのです。

終戦後で学校以外に親戚の間や家庭内の生活用語として、日本語を話すことを禁じられていましたか。

■：家の中では厳格に言われてなかったですけど、親戚は日本語を言えた場合はですね、言える方に対しては日本語が使いやすいだから日本語で話しております。そして学校において、教員同士ですね、原則上ですね日本語は話してはいけないと言われてました。しかし普通の時はですね話しておりました。言い易いだから。

解嚴される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：戒嚴令の時もですね、教員同士でプライベートには日本語を日本語を話しているから、あまり変わらないですね。でも解嚴後は自由になったから、言語も自由になったし、それから政府の政治もですね、だんだんと民主化になって来たから。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：家庭内では家内とちゃんぽんですね。ただ家内は北京語が話せないから、日本語と台湾語です。

玉蘭荘の近く、つまり同じく大安区に住まわれているとの事ですが、日本語が話せる同じ年齢層の年配者はいますか。

■：だんだんと少なくなっていますよ。私はここ以外に、教会でですね、日本語を話せる年配の方がおるんです。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：そんな環境があったらいいですけど、私は今玉蘭荘、教会、そして私は音楽が好きだから、ギターの先生は家に来てですね教えてくれているんです。だから、私は生活上では忙しいです。それに夜は毎日パソコンを打っているんです。パソコンはですね、玉蘭荘の総幹事になった後ですね、必要に迫られて勉強しました。それに日本語が話せる環境もですね、日頃もですね、同じ年で年配の方ともずっと日本語を話しているんです。

教会の年齢層はどのくらいですか。

■：今はですね日本語が言えない年齢層が多くなって来ていますね。だんだんと日本語が話せる方が少なくなっている。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：教えたと言うよりもですね、一人の娘ですね、初中に日本に行っているんだから。ただパパ教えてと言った時はですね、私は教えたんです。そして他の子はですね、私は4名の子がおるんですが、ちょっと話せるのはこの二番目の

娘です。しかし、今はちょっと難しいです。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：私は教会の、同じ学校教員ですね、そして同じ教会のクリスチャンの女の方からですね、玉蘭荘というところがありますから来ませんかと言ったのですよ。そして彼女はここで習字を教えていた、奉仕に習字を教えていた。ボランティアとして。その関係上です、私も参加したんです。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：ここが成立してですね、3年後に来たんです。ですから解厳しなければ玉蘭荘の成立は難しいと思いますよ。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

（Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、）

■：言語の方面と、皆と気が合うから。同じ日本語の教育を受けた人が多いですから。

その反面、改善して欲しいところはありますか？

■：私はクリスチャン、そしてここはですね説教をするんだから、私の宗教に合っているんだから、特にないですね。ただ私が呼びかけているのはですね、老人がここで集い、ここで歌い、ここで仲良く、そして老けないように本を読み、話し合ったりですね、お互い老化しないように、私は進めているんですよ。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：今のところは、玉蘭荘と教会だけですね。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：ないですね。私はですね本を読むのはですね、友達が貸して、そして以前ですね読書会を4、5名でですね、日本から本を買ってきて回し読みということをやっていました。

どの様な本を好んで読まれていますか。

■:私はですね、文学的な本が好きです。政治に携わるのは好きじゃないです。

B2 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）

■:日本語を使ってはいけないと言われた。だから外に出たら日本語を話さない。だけど、家の中や友人同士の間では日本語が話しやすいから、話していました、台湾語よりね。つまり外に聞こえなかったら自由に話していました。

解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■:そう感じませんでしたね。家の中は自由に話していたから。でも傍の人に気を使わずにね。以前はね、外で話す時は気を使いますよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■:家にいたら日本語は話さない。話さないと言うのはね、話せるのは私と同等の人でないね、主人もいないしね。それで子供たちも今の中国語教育でしょ、だから私は家庭では客家語で話しています。それで嫁と孫はね中国語で話しているの。上手な中国語ではないけれどね、結構通じるの。

今、住まわれている周囲の環境で日本語を話す機会はありますか。

■:ないですね、今殆どが台湾語ですね。私が住んでいる所は中国語と台湾語でね、それぐらいです。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■:そうですね、やっぱりそっちの方がいいと思いますよ。それに新北投からこちらに来るのも距離がありますからね。新北投に移るまではね、杭州南路に住んでいたの。だからあそこから「聖書と祈りの会」、そして天母教会もある

けど私は行ったことがない。教会で日本語が話せるのは3つ。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：客家語の方が小さい頃から話し慣れているからね。子供はね日本語が殆ど話せるけどね、話す機会がないの。客家語を話しているからね。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：私はね「聖書と祈りの会」にずっと行っているんですよ。そこから分かれて出てきたのが玉蘭荘だからね。私は最初から参加しているんですけど、2年間オーストラリアにいる間、ここに参加することが出来なかったの。今年で23年になるけどね、私は20年ぐらいここにおります。成立した時はオーストラリアにいたからね。それできっかけはね、こちらに野田さんという日本の方がね、ご主人と一緒に台湾に来られまして、主人が亡くなってから日本語を話す相手が無いから「聖書と祈りの会」に出席しているんですよ。そこで堀田先生という宣教の方がおりまして、何かちょっとした集える場所があればいいのになっていったら堀田先生が一生懸命お世話して下さい、そしてこういう玉蘭荘というところが設立されたわけ。そしてね、非常に皆さんに喜ばれるところなんです。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：オーストラリアから帰ってきてだから、設立してから2年後。その前にねこの方から資料を送って下さったの。そして帰ってきてからすぐに集会場所に来ました。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

（Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、）

■：皆さんの年が同じくらいで、もちろん若い方もいらっしゃいますよね、例えば日本からこちらに留学された女の方でね、それでいらっしゃる前に調べるんですよ、台湾に突然行って言葉が通じないと困るから、それで言葉が分かるようなところ探していて、そしてここがいつも集いの場所としているから、沢山来てボランティアやって下さっているんです。そしてここに来ればすぐに言葉が通じるでしょ、通じない事は本当にきつい事なの、ちょっとした買い物でもね。だからここに来るとね、皆さんが自分の人のように接してくれるんで

すよ。非常に楽しんです。来るとまず日本の歌が歌えるんでしょ、それで歌を歌った後は聖書を牧師さんがお話しをされるんですよ。

その反面、改善して欲しいところはありますか？

■：特に無いですね。こちらの幹事はしっかりしているからね。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：今、教会が3つあるでしょ。「聖書と祈りの会」「天母教会」「城中教会」、そして日本語の出来る老人の集会所はここだけです。そして教会まで訪問して下さる人の接待役や話し相手とかね。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：そうですね、日本語が読めるところ少ないですね。ここは沢山ありますからね。それに良く友達からも貸して下さるからね。図書館行ってもないんですよ。少ない、本当に簡単なものね。私は玉蘭荘で拾い読みの担当をしているから、だからね本屋さんで読んで気に入った、または感動したもので種類に関係なく取り入れていますね。

B3 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）

■：大陸系の人には少なかったし、わりと日本語を喋ることにに関しては、そんなに監視はされなかったね。だいたいそんな環境におったから。（貿易会社時）小学校にいた時も大陸系の人がいっぱいおったでしょう、でも校長はあんなのが嫌いだからね、あまり採用してないんだよ。だから大陸系の人が少ないんだよ。その後、貿易会社に入っても、大陸系の人には1人もいないの。その貿易会社はね、日本と貿易をしているわけよ。だからお客さんが来たら、全てが日本人ですよ。だから日本語を喋る機会が多いんだよな。その貿易会社には、普通は台湾語と日本語ですよ。北京語は殆ど使わない。どちらも大陸系の人を使わない環境だからね。もちろん友達で限られていたり、いつも監視されている人がいたと聞いたことはあるけど、でも私の場合はなかったね。

家庭内や親戚との間で使っている言語はなんですか？

■：私も長男だし、家内も長女でしょ、だから同輩で私より年上はいないの。親戚と友達はね、そう言うのは全部年下が多いでしょ。それはもう、日本語が出来る人は日本語喋るけど、出来なかったら仕様がなくて、喋ったって聞いて分からんから、そう言う場合には台湾語。それで台湾語があまり上手くない人は、北京語を喋る事もあるしね。

解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：日本語を喋る環境がなんだか、増えた見たいやな。日本語が少し自由になったみたいなんだ。前よりかは自由に喋れるようになったね。ところが日本語ばかり喋っているとね、あの大陸系の人やね、聞いてとったらいい気持ちしないらしいんだよ。だから嫌な顔をするんだよ。戒厳令が解かれた後も嫌がる人は嫌がるんだよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：今はね、実際に言ったら私、自分一人で住んでいるんだよ。家内は10年前に死んでね。本当はねアメリカに移民する予定だったんだよ、そしてね私の息子と孫の合わせて11人は全部アメリカにいるんだよ。それで私だけが台湾に残って台湾籍ですよ、後は全部アメリカ籍。

今住んでいる周囲の環境で日本語を話せる人はいますか？

■：皆はあまり日本語を話さないね。私の向かいに住んでいる人がね、大陸系の人だから。階下の人は年が行ってるし、ちゃんぽんだな、90いくつの人が住んでいる。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：だから玉蘭荘に来たんだよ。日本語で喋っている環境だから。それにそんな環境があったらすぐ行きますよ。すぐ近くにもしも玉蘭荘みたいなのが別にあったら行きますよ。でも普段はね、私はクリスチャンだからね教会に行っているわけよ。そして教会の活動は一週間に2回あるわけ。それにねお年寄りを中心としたグループにも毎週の水曜日に活動があるから、そこで色々バイブル

の研究をしたり、長老や牧師の説教を聴いたり、それから賛美歌を歌ったりしてね、そういう活動をしているわけ。それは日本語を使わないけどね。台湾語の長老教会だから。色々と忙しいわけよ。でもそうしないと、色々と活動に参加しないと家でボサ～としていたら、そのうちに痴呆症になるよ。

日本語を使う教会に行ってみたいと思いませんか？

■：そうね、一番初めからその教会に行ったけどね、でも今更ね天母の教会に行くのも遠いしね。ところが私は家でこうバイブルはね全部日本語のバイブルを使っているわけよ。日本語と北京語と台湾語の3種類がありますけどね。やっぱり日本語が一番馴染みやすいんだよね。その次は実際言うとな北京語なんですよ。台湾語が一番難しいんだよ。本当に面白い現象なんだよ。普通台湾語で喋っても問題ないんだよ、でも台湾語をバイブルで読むとなると、時々ね普通喋っている言葉と違う場合があるんだよ。だからなかなか馴染めないんだよね。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：教えるチャンスがないね。自分が教員やっている時だってね、子供がまだ小学校でしょ、だから殆ど教えるチャンスがないんだよ。みんな他の生徒に教えているんだよ。だから自分の子供はね殆ど家内が見ているから、ほったらかしているの。家内も教員をやったんだから。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：参加していた年寄りのグループで1人ここに来とったんだよね。その人が紹介してくれたんだよ。ところが私に紹介した人はね、それから2~3回来てねそれっきりもう来ないんだよ。そして私はそのままずっと継続して来たんだよ。あの人はね私より四つ上ですよ。88になるね。足に全然力が入らないらしいんだよね。動くのがしんどいらしい。だからこちらの総幹事がやっているホームケアも必要になるんだよね。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：それはね、私2003年にここに来たんですよ。だから満9年になりますよ。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

（Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいる

など、常に日本語を話せる環境にいるから、、、)

■：日本語で牧師さんの説教が聴けること。一般の長老会は台湾語だからね。これが出来なかったら私は来ないですよ。でも一般的な日本語の集会は、そんな所は無いけど、友愛教会という所でも日本語を使ってるんだけどね、一ヶ月一回だからね。ところがそれは宗教活動がないんだ。それでここはあるんだ。日本語の説教があるでしょ、日本語の賛美歌でしょ、日本語の聖書でしょ。私はこれが大好きなんだよ。これの為に来ているわけ。これがなかったら私はあまり来る必要がないんだよ。分からないな、今は YES か NO か言えない。

その反面、改善して欲しいところがありますか？

■：それは色々あるけど、無理だな。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：そんな環境がないからね。さっき言った友愛教会ぐらいでしょ。それにさっき言ったように、一週間に4日間も固定した活動があるから、もうこれでいいと思うんだよ。これ以上忙しくなったら、何の為にリタイアしたのか、意味がないんだよな。やっぱりちょっとね自分の静かな時間が欲しいわけ。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：最近良く行ってますよ。昔でも良く行ってましたよ。日本人と商売をした時期があったでしょ、だから日本に対する関心も深まるわけ。

B4 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？ (Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用)

■：公の場では話しづらいですね。しかし、家族や友人と話す時は皆日本語です。

解嚴される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：大いに感じます。日本語を気にせずに話せるようになった。でも家でも話していたからね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：友達とですね、そして玉蘭荘です。家内とは同級生から日本語を話しています。それから話したいけど話す相手が無い。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：思いますけど、日本語を話せる環境は少なくなったみたいですね。今住んでいる所はそんな環境ないです。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：教えていません。息子と孫と別々に生活をしているから。

息子や孫は日本語について興味を示したことはありますか？

■：全然ありません。殆どが北京語です。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：友達から紹介してもらって、ここの人で偶然に出会ってね。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：7年になります。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

(Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、)

■：第一に皆日本語の程度が同じぐらいだから自由に話せる。それからここに来るボランティアや先生方がね、日本語がうまいから。

玉蘭荘はキリスト教徒が馴染みやすい環境になっていますが、その宗教に携わ

っていますか。

■：携わっていませんね。ただ日本語を話したいだけだから。

その反面、改善して欲しいところはありますか？

■：別にありませんね。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：通っていません。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：あまり行きません。しかしここで沢山本見てます。ここの蔵書は多いんだ。恐らくこの本を多く読むのは僕でしょう。この7年で150冊の本は読んでいます。

日本語の本を読む習慣はありますか？

■：あります。

B5 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）

■：ありました。外ではあまり大きい声で話せなかったのね、お家の中でしか言えない。でも友達とは日本語を話していたのね。そして北京語はテレビで習ったの。仕事をする場所では北京語を使いなさい、使いなさいと厳しく。

解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：公共の場所ではね、使っているのは少し変わったね。前はずっと家の中と友達と一緒にいる時だけ。でも私が思うのはね、20何歳の時にもう日本語の雑誌借りれたよ、専門に日本の雑誌貸しているお店があったよ。あれどこから

来るか分からないけど、やっぱりあったよ。週刊誌や月刊とかね。

それはどんな本でしたか？

■：主婦の友、少年倶楽部、少女倶楽部。今の週刊誌見たいの、皆入ってくるのよ。でもそれがあって良かったよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：友達と電話で話しているの。そして玉蘭荘。後は無いね、皆出来ない。私がここで一番若いみたいよ。主人が亡くなってから、今は孫と話すこともあるのね。小さい頃に私の仕事の場所に来て、日本語聞いているから。あの子は今、話せるよ。でも今はオーストラリア移民で、国籍も向こう。そして周囲の環境はね皆若い人だから、日本語出来ないの。でも同じような年の年よりもいると思いますよ。ただ引き出していないだけ。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：玉蘭荘みたいな所があったら行きたいね。日本語が話せる環境があったらね。今はここに来るまでタクシーで 220 元。距離が少し遠いね。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：いちいちは教えていなかった。ちゃんぽんちゃんぽんでお説教している時とかね。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：友達で紹介で。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：2年半前に紹介してくれて本当に有難く思っています。楽しいです。ここはね、病院に行ったついでに来ているんです。時々暑い日は来ない時もあるね。やっぱり距離が遠いから。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

(Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、)

■：やっぱり皆日本語で話せて、日本語の教育の水準で付き合っているのがうれしいね。皆日本の教育で、まあ、僅かだけどね本当にいいと思います。皆ね仕来たりと弁えがあるから。台湾は大陸の人が来た時と比べて、良くなっていますよ。日本という教育はね、恥ずかしがるのを分かって欲しいと言う教育があったから、私も子供たちにこのように教育をしてきた。私たちのような日本語教育の人がいなかったら、この下の一代の人はどうなっているんだろうね。

その反面、改善して欲しいところがありますか？

■：私は来て短いし、いつも休んでいるのが多いから、あまり言えないけど、皆一生懸命頑張ってくれています。他にやって欲しいこともあるけれど、それは言えないと思う。経済的にも皆さんもボランティアの方も一生懸命だから有難いと思っています。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：日本語の歌を習いに行ってる。家の付近。それはね個人的に教えているんです。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：行きますよ。本屋さんで。そしてね、北投の公園の中の図書館はね月刊を読んでいるの。そこは本がいっぱいあります。でも家の板橋はないね。図書館でも日本語の本がない。

B6 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？ (Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用)

■：限られた事はないけどね、あの時はあまり話しなかったものね。中国人が来て、それからずっと中国の政府になったんだからね。私が家政女学校から卒業して郡役所に入った時は日本人と台湾人だったんだよね。そして光復後は中

国人と1~2年、一緒に仕事するようになったの。日本人は追い出したと言うより、いなかったんだよね。そして職場では北京語の注音を教えていたけどね、特に日本語は話していけない事はなかったのね。

解雇される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：私たちはね日本語のほうが慣れてるからね、自由に話せるのよね。だから違いと言ってもね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：友達とはね。そして家の中は孫と片言の日本語をね。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：そうね、やっぱり欲しいと思いますよ。話しているのは、友人との電話や会食ぐらいだからね。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：孫には教えました、子守をしていたから歌なんかね。でも自分の子供には教えなかったね。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：私は従姉（今は91歳）が先に来たの、ここに。そして今はもう南部に住んでいるから来なくなったの。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：今年で16年目。当時は主人と一緒に来ました。主人は税務署からリタイアしたからね。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

(Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、)

■：皆と一緒に語り合っただね、色々なことを話して、それが一番楽しいの。牧師の説教もいいですよ。私はキリスト教信者じゃないけど、うちの息子はね1人アメリカに留学したでしょ、そしてその子に私は進めてクリスチャンになりなさいって言ったの。あそこは親戚もあまりないしね、友達も無いでしょ。だから私、今とても熱心なの。洗礼を受けてないけど、興味はもっているの。うちの主人が亡くなった時もね賛美歌を歌いました。玉蘭荘の皆と一緒にね。

その反面、改善して欲しいところがありますか？

■：それは無いですけど、ここに来てお話をする牧師の後に、面白くない節目もあるけど、改善はして欲しいという事は無いわよ。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：ないの、お友達と以外にね。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：主人がいた時はね、大安の図書館でねお友達と一緒に見ました。交流協会の閲覧室には行ったことないわね。日本語の書店には主人と行ったことがあります。あの時は若かったもん、今は歩けなくなったからね。亡くなってからね、外に出かけなくなったの。

B7 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）

■：終戦後の暫くの間は日本語で教えていました。そして公の場で使わなくなりました。そして注音や北京語を暫く勉強して、もちろん家や友達とは日本語の方を主に使っています。

解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：公の場で話せる様になりました。でもね、家では日本語を話して来たからね。特に違いは。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：今でも友達や家の中では日本語を話しています。息子は日本語を話せますよ。日本語は途切れることなく話していますよ。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：そうね、友達とは良く電話で話しているからね。あってもいいと思いますよ。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：学校に行くまで日本語を教えて、ちゃんぽんして話していました。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：女学校時代の友達の紹介。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：1年ぐらい前ですね。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

(Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、)

■：私はまだ来て間もないからね、ただ日本語を話せるチャンスが多くなりました。

その反面、改善して欲しいところはありますか？

■：そこまでは注意していないけど、特にはないですね。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：決まってはいるけど、外でもものを買う時や聞く時とかは日本語を使いま

す。台湾語よりも日本語を使っています。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：大好きです。主に図書館ですね、本屋さんも行きます。

B8 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）

■：仕事の関係で日本の技術者と話す必要があるから、限られることはなかった。

解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：仕事で話してきたからあまり感じないです。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？
（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：話せるのはここだけです。家の中では台湾語を使っています。他の所はあまりないです。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：そんな機会があったら欲しいです。台湾人がいても話しませんね。殆ど機会がありません。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：ありません。機会がなかったわけですよ。学校にもう勉強に行っているから。しかし子供は話せます。日本に留学したことがあるから、自学です。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：はっきりと覚えてないですよ。たぶん友達からです。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：10年以上になります。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

(Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、)

■：結局ボランティアがね、とても親切でね、とても気持ちいいです。それに日本語が話せるからいいね。気分的に穏やかでね、礼儀正しいです。

その反面、改善して欲しいところはありますか？

■：あまり関心してないです。ただ参加をしているだけだから。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：ありません。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：本屋さんでは読みません。しかし家では日本語のバイブルを読みます。

B9 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？ (Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用)

■：国民政府が来た後は、全面に日本語を禁止しました。国民学校の教えでは絶対に北京語を話さないと言うから、プライベートでも北京語を話すようにしていた。それは両親はたまに話してたけど、白色恐怖があったから話すのは怖いですよ。それに密告された人がいると聞いたことあるから。

台湾語は話しても良かったんですか？

■：家では台湾語を話してもいいです。でも学校では必ず北京語を話して台湾語は駄目です。日本語も同じように使ってはいけません。

戒厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：戒厳の前は、日本語を話したら警察が来るから、恐ろしいよ。でも戒厳令が解かれて、李登輝総統になってから、日本語に再び話すことが出来るようになった。変化は大きいですよ。

日本語を話すことが出来る仕事はありますか？

■：ありませんね。あの時の私が知っている限りでは、日本大使館に勤めている人達だけよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(Ex: 家庭内、または周囲の環境)

■：今は玉蘭荘だけです。家は妻も子供も話せないです。私は再婚をしていて妻とは13歳差で台湾語を話しています。子供とは北京語です。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：思いますよ。今、住んでいる環境で日本語を話せる人はいないですね。私より年配の方はいますけれど、あまり日本語を話す環境がなければ、徐々に忘れてしまいますよ。だから日本語を話す人は少ないですよ。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：ありませんね。戒厳令の時だからね。でも娘はね、大学の選択科目で日本語の授業をとりました。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：私は70歳に定年した後、私はクリスチャンだから、ある教会の合唱団に参加して、歌を歌っている時に仲間がね、「あんた日本語話すの上手ね、今玉蘭荘という所があるよ。来てみない」と誘ってくれた。そして来たらいまの総幹事に会いました。この前までは、日本語を話すチャンスが少なかったんで

すよ、そして玉蘭荘に来たら、こういう所があるんだと思ってね、実際に活動に参加したらいい所だな、と思って。それで日本語の昔のね、勉強した内容が蘇って来たんです。不思議ですよ。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：7年前です。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

(Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、)

■：日本語で自由に喋る。そして奉仕が出来る。そして病気で来れない人のところに行ってお祈りをしてあげる。私は長老教会の長老です。だから人を慰めることをやりたいです。

その反面、改善して欲しいところはありますか？

■：今はここにいる日本人が徐々に少なくなって来ました。そしてこれから、この日本人がいなくなった後、どうなるかが心配ですよ。当初設立した目的が無くなるから。だからこれを理事会で良く一種としてね皆で考えるべきですよ。だから玉蘭荘はね、ここにいる日本人がいなくなっても、続けるべきだと思いますよ。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：特にないですね。でも関係のある教会は日本語教会は玉蘭荘と関係を保っている。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：交流協会から良く閲覧室の紹介があるから、行った事はあるけど、他の所は行ったことないですね。玉蘭荘には私が100冊ほど提供しましたよ。

B10 さん

終戦後の光復時期における日本語の使用について、限られた事がありますか？（Ex: 終戦後における家庭内や親戚との生活言語/学校における言語使用/就職環境における言語使用）

■：戦後の最初の時は自由だったからね、日本語が殆どね、普通の生活としては日本語で、そのうちに蒋介石が正式に来た年から、日本語を使ってはいけないと言い出した。私はあまり、外に出てないからね。でも自分たちの集いでは自由ね、公ではどうも日本語を言うと、そうそう、私は結婚後も台南にずっとおったのね、そして隣の人がね、そもそも外省人だったの。そして私が友達と日本語を話していたらね、文句言って来た。「あなたは日本人なの？ どうして日本語を話すの？」と抗議をされた事がある。それでもね友達同士で平気に話すよ。公でも場所によるからね。同じ台湾の人がいる場所は殆ど無かったね。

解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？

■：私は家の中にいてね、勤めた事が無いから、あまりはっきりと分からないけどね、しかしね李登輝総統になってから、そう厳しく取り締まらなくなったと思うね。あまり外の人と接しないからね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

（Ex: 家庭内、または周囲の環境）

■：今はだめね。と言うのは私は今、一人暮らしで子供たちも傍にいない。殆ど日本語を話している主人も15年前に亡くなっているし、そしてね私の友達も日本人の同級生でしょう、だから友達と電話で話す他に、話し相手がいない。私が住んでいる所は殆どが若い者でしょ、若い者は昼間は勤めに出るし、帰って来ても忙しいし話すことも無いでしょ、だから結局、私は一人で閉じこもっていることになる。それに住んでいる周りは台湾語が多いね。と言うのはね、話せた人もだんだん下手になって来ている、そして私の学校は日本人ばかりだったから、私の日本語は割と上手な方だと思う。

普段の生活環境から、気軽に日本語が話せる環境が欲しいと思いますか？

■：住んでいる所の付近で日本語が話せるのもいいね。私はあまり他の人と接してないから、他の人はどう考えているか分からないけどね。でも話せる環境があったら行ってみたいと思います。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？（今は話されていますか？）

■：子供たちはもう北京語を習っているんだから、教えていない。わざわざ教えてないけど、私と主人が話しているのを聞いて分かって来たからね。そして今は簡単な言葉なら話せる。だけどね私たちの関係で難しい言葉話すこともあるから、日本人がびっくりしたのを息子から聞いたことある。

玉蘭荘という施設をどのように知りましたか？（きっかけ）

■：主人が亡くなってから台南から台北県の養老院に5年行ったことがあってね、その後、台北市に家を買ってね今に至るまで住んでいるわけ。そしたらね1人で住んでから話し相手がいない、でこれはいけないと思ってね、そして姪にお年寄りの集会所のような所はないかと聞いたの。そしたら姪が他のおばさんから聞いて玉蘭荘を教えてもらったの。そしてこちらを参観して、いい所だなと思ってずっとここに来ているわけ。

高齢者を対象とした、老人サービスセンターがあるのを知っていますか？

■：あるけどね、私は行ったことないね。ここに来る以外はね。本当はもっと出た方がいいと思うけどね。

いつ頃からこちらに来られるようになりましたか？

■：もう4年前。

玉蘭荘の最大の魅力は何ですか？

（Ex: 他の高齢者を対象とした施設と違って、日本人のボランティアがいるなど、常に日本語を話せる環境にいるから、、、）

■：皆同じ年配者で思想の差も無く、そしてね皆ちゃんと教養がある。思想がほぼ同じぐらいでレベルが同じ。

その反面、改善して欲しいところはありますか？

■：別のないみたいね。私はここに対して印象がいいからね。

玉蘭荘以外に日本語を使用することが出来る施設に通われていますか？

■：行ってないですね。本当は行きたいと思うけど、今は玉蘭荘だけでもう

十分、それにいい所。

図書館や閲覧室で日本語の本や雑誌を読まれていますか？

■：私は玉蘭荘や教会以外にあまり出かけないから。でもボケ防止にも、もう少し本を読んだ方がいいかもね。

非所属戦前本省人高齢者

C1 さん

終戦後の光復時代に日本語の使用で限られたことはありますか？

Ex:学校や仕事の場、または私的における生活…

(また解嚴される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？)

■：学校ではあまり日本語を話せなくなったのね。終戦の時はね。と言うのは国民党が来た時は、一時戒嚴令があって、その間、学校ではあまり自由には話して無かったね。影ではやっぱり皆話していたよ。友達同士では日本語で、一応皆は日本語教育を受けているから、一応皆はスラスラに話していたけど、大っぴらには話さなかったですね。

つまり、公的の場所では話し辛かったという事になりますか？

■：そう言うところはありますね。大っぴらに日本語を話すという事は、気が引けるような感じがしましたね。

国民政府は日本語を使う事に対して、強制的に禁じていましたか？

■：強制という事はないけど、自然と周囲の環境がそういう風になって、まあ、日本も敗戦で帰っちゃったし、殆どの人は大っぴらには話さなかったですね。

家の中では話していましたか？

■：話していましたね。両親と、それから結婚した後は、主人と話していまし

たよ。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：それは無かったですね。就職なんかしようと思ったら、終戦の後、何年か忘れたけど、沢山と日本の企業が入るようになって、職場行こうと思ったら、日本語を使う機会が沢山ありましたね。私の友達も沢山、日商関係に行っています。そして私はピアノを教えていましたが、中国語で教えていました。生徒さんは、皆日本語教育を受けていない人だから、小学校とか中学1年の子供だったから、殆ど北京語で話していましたね

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：読んでいます。文芸春秋とか音楽の友とかね、色々と日本から送ってもらって、読んでいました。

今までインタビューをして来た人の中で、友人同士で回し読みをする習慣があると、聞きましたが、そのような習慣はありますか？

■：私は回すと言うよりもね、借り本をするんですよ、一ヶ月に本屋さんが専門に、日本語の本を貸しているんですよ。そして毎月、5冊、10冊借りて、一ヶ月にいくらって言うふうに、買うんじゃなくて、借りて読んでいるんですよ。

日本語の本や雑誌を読まれる以外に日本語を使用されることはありますか？

■：ありますよ。クラス会に行ったら殆ど、戒厳令はしいてるけど、後は少し緩くなって、クラス会などで皆でミーティングをする時も、日本語を話してゲラゲラ笑う事もあるし、皆は殆どが日本語教育を受けているから、主にかえって話しているのは日本語で、そして多少中国語を話したり台湾語を混じって言っていたような感じですね。

高齢者を対象とした老人サービスセンターや長青学苑で学習された事がありますか？

■：ありません。でもその様な施設がある事は知っていました。YWCAに行った事がありますが、そこは若い人も高齢者も、皆混ざってやっていた感じで、高齢者だけの機構ではなかったですね。

どのような原因で行かれる（行かれない）のですか？

■：レベルが、私達にとって低いという感じだったので、行く事はなかったですね。

どのような授業を増設したら参加を試みようと思いますか？

■：そうですね、例えば、私は音楽が好きだから、音楽方面の授業や、文学方面だね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？
(家庭内、または周囲の環境)

■：いますね。子供や孫でも、そして前、主人がいた時でも、殆ど皆、日本語を話せるから自然と日本語が優先となっているんですよ。その他には中国語というふうだね。

住んでいる周りの環境はどうですか？

■：そうですね。7,80歳のおじいちゃんや、おばあちゃん達がおれば、日本語で挨拶していますね。私が今住んでいるマンションの近くではそんな感じですね。それ以外で、話せる環境は少ないですね。

今の台湾における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：今は至って自由だと思いますね。それに勉強をする気があったら、習うところは沢山あると思うんですよ。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いますか？ (Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？)

■：思いますね。やっぱり老人には老人なりの絆とか、あの時代に育った色々な事が皆、似ているから、非常に話しが通ずるんですよ。何か絆が強いと言うんか、一緒に話していると、あの頃の時代を思い出さしてくれるし、楽しいです。

その様な環境は、今住んでいる周囲の環境に限りますか？または少し離れても

参考にしますか？

■：そうですね、そう遠くなかったら行きますね。場所が離れていたらちょっと行きにくいですよ。足が悪いから、人に連れて行ってもらうと迷惑をかけるからね。

今は高齢者にとって日本語を話せる環境が少ないように感じますが、どの様に改善を試みたら、日本語を話せる人が増えると思いますか？

■：やっぱり、老人大学だったらね、話せる種類や範囲を増やして、いつも基礎ばかりをやらないでね、他の方面もね、色々と広げたら習う人が多いと思いますよ。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：子供には特別教える事はなかったけど、私が主人とお話しているのを聞いて、挨拶とか片言は話していましたね。でも子供達はね、私が日本に媚びていると、冷かしていた時もありましたね。

C2 さん

光復時代に日本語を使ってはいけない、という事はありませんでしたか？

■：あんまり感じなかったね。学生はあったらしいね。若い生徒はね、学校で日本語を使っていかなとかね。その時は僕はもう社会に出ているから、そういうのはあまりあまり感じなかった。

就職のために日本語を再学習されたという事がありましたか？

■：そうね、なかったですな。社会出てからもう日本語を再び学ぶ機会はあまり無かったです。

日本語の本や雑誌を読まれますか？

■：読みます。日本の新聞をね、会社のほうで日本の方が来ているから、その

方が持って来た日本語の新聞とか日本の雑誌、それは仕事の関係でやっぱり読んでいました。

そしたら、今はどうですか？

■：今は無いな。会社を辞めた後はそんな関係がなくなったから。

今の図書館や閲覧室には行かれますか？

■：そこへ行っても中文の本が多くなりましたね。けど、僕はあんまり図書館には行かないんだ。

文芸春秋や読売、朝日などの新聞は読まれないのですか？

■：日本のね昔の同僚が来て、持って来たら読むわけだ。自分では直接買わない。それで日本の友達が持って来たり、そういう日本関係の文章は持って来たら読む。

本や雑誌を読まれる以外、または日常生活以外で日本語を使われることはありますか？

■：今の段階はね、同窓の集まりは全部日本語だ。中国語や台湾語はあまり使わない。日本語が多い。そして日本語はね、僕の家内も娘も日本語を使えるから、それで日本語、中国語、台湾語とちゃんぽんですわ。

高齢者を対象とした老人サービスセンターや長青学苑といった学習機構で学習をされたことはありますか？

■：ないね。そう言った学習の機構には学習をしていませんね。

一度でもそちらに通いたいと思いましたが？

■：この頃はね、あまりそういう積極性は無い。

でしたら、その中ではどのような事を学ばれているか知っていますか？

■：それは知らないけどね、僕はねゴルフが好きだから、ゴルフ関係の本とかは読む。そういう講習会があれば、それは参加する。

今の老人サービスセンターでは、日本語に関する授業では、学習の授業やカラオケのクラスの両種類にしか分かれていませんが、どのように思われますか？

■：私自身は、歌を歌わない。カラオケは聴く方でね、歌わない。で、日本語の歌の方が馴染みやすい。

そしたら歌謡曲はどうですか？

■：日本語の歌謡曲だったら歌います。

歌謡曲と演歌はどちらの方がいいですか？

■：演歌の方がいいんだ。歌謡曲よりも昔の演歌の方がね、懐かしくそれがいい。

年配者を対象とした学習機構に通われなかった理由はなんですか？

■：僕はね、喉がね今のようにいい声が出せないから、それで歌はね、自分が歌うよりも聞く方に思いを置いている。

もし、老人サービスセンターに歴史や地理、或いは文化など日本のことについて教えているクラスがあったら、通われたいと思いますか？

■：それは行く、それはいい。それでね、日本の文献をね研究するとか、友達にねそう言うものを研究している同窓生がおるから、それにはちよくちよく参加する。

特に日本の何について興味を持っていますか？

■：日本歴史、鎌倉時代のね。日本の武士道時代が盛んな頃。

日本の現況や政治については興味はありますか？

■：それもあるね。

映画の鑑賞はどうですか？

■：映画には僕はあまり行かない。もう何十年も映画をみてないよ。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：家ではね、家内と話す。以外は特別な事がないと、あまり話すことは無いですね。

今の台湾における日本語使用の環境についてどう思いますか？

■：日本語は、光復当時よりは日本語使用の範囲がね広がって来ている。若い人の間でも日本語がね、割りところ歓迎されている感じがする。今はね台湾ではね日本語と英語がね、中国語以外に良く通用されていると思う。

ただ戦前の年配者に対しての日本語使用についてあまり力を入れていない、範囲が限られている感じですが、どのように思っていますか？

■：そう、範囲が限られている。

日本語の使用環境についてももう少し広めたいと思いますか？

■：広めたいと思うね。私だったらね日本語をおおいに提唱したいね。それにね、私はね同窓の集まりが毎月あるから、その時に多く使うわけだ。

社会区域で日本語を使用していますか？

■：社区はあんまりないね。

でも社区での集まりがあったら定期的に集まりたいと思いますか？

■：それは、集まりたいと思うね。興味はある。日本語が話せる環境として。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：話していると思うけどね、特別教えているわけではない。

C3 さん

終戦後の光復時期に日本語を使うことにあって、限られたことはありますか？

■：特に制限されたとは思わないけれども、そうね、学校ではもちろん授業の時は使わないよね、ただお友達とかの間ではやっぱり使っていましたよ。

光復時の先生は日本語の使用を禁じていましたか？

■：特には言ってなかったみたいだね。

進学や就職のために、日本語の再学習をしたことはありましたか？

■：なかったよね。

日本語の本を好んで読まれていますか？

■：読んでますよ、家で小説をちょいちょいね。

新聞はどうですか？

■：ここでは特に日本語の新聞をとってないでしょ、だから日本に旅行した時なんかは日本語の新聞をやっぱり読みます。

図書館や閲覧室のような所で、日本語の本を読まれることはありますか？

■：あまりないですね。

でもそう言った所は知っていますか？またそこで日本語の雑誌や新聞が置かれていることは知っていますか？

■：ええ、分かります。

高齢者を対象とした老人サービスセンターや、長青学苑で学習をされた事がありますか？

■:あの士林のね、社会大学で勉強をした事がありますよ。大分前になるけど。あの時は音楽の方面とか、それから美術の方ね、絵を習った事がある。

その大学で日本語の授業があった事は知っていますか？

■:多分あるでしょうね。だけどあの時あそこにあったのは、日本の初歩的なあれじゃないの…私たちが行くようなあれじゃないの。

カラオケの授業には興味を持っていますか？

■:いや、私は音痴だからね、カラオケは駄目。

だから特に日本語の授業があっても、通われることは考えなかったという事になりますね。

■:そうですね。

また今の老人服务中心のカラオケや日本語学習の授業以外に、日本語の歴史や文化の授業などより多様に教えているのであれば、参加したいと思いませんか？

■:今は特に考えてないね。私は今、別にね手話を習っているの。だからそれで忙しくて、他のところには行かれない。

語学関係の授業に通いたいと思っていましたか？

■:ないですね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■:家では主人と娘と話します。でも殆どは友達と話しています。

今の台湾における高齢者の日本語の使用環境についてどのように思いますか。話す機会が少ないと感じますが、どうでしょうか？

■:私たちはね、あまり感じないですよ。友達の間では日本語なり、台湾語なり、それとも北京語なり、皆出来るからね、結局コミュニケーションは全然困難に感じない。それで外に出て日本語出来ないところ、日本語出来ない人の

対応の場合も問題は無いしね、あまり困難は無いと思うの。それにね今でもまだ、日本のお友達ともずっと連絡しているね、それから友達のまたお友達が台湾来る時に、まだ紹介して来て、私にねその人の世話をしてくれとかでね、色々チャンスが多いし、だから別に使う機会が少ないとは感じない。

それは育った環境や過去に住んでいた所における影響はあると思いますか？

■：それは多分あると思います。

今の高齢者における日本語の使用環境について、広めたいと思いますか？

■：今は特に広めたいと言う必要は無いと思う。日本のお友達とか、台湾でのお友達の間で日本語を使うのに皆、結構…話すのも問題ないし、だからね。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：私も主人と同じですね。話していると思います。娘はそれ程思っていないと思いますよ。

C4 さん

仕事の時には日本語を使われましたか？

■：終戦後にはあまり使わないですね。

それは光復時期における影響からですか？

■：そうでなくて、私は官庁におったんですよ。そこで就職をしていたんですよ。あの時は外省人の方も多かったし、台湾人も多いですよ。だから言葉が自然的に台湾語か、北京語になってしまいます。

でも、日本語は話して良かったんですか？

■：話してもいいですけども、そんな環境がないですね。

私的の環境で、日本語は話されていましたか？

■：それは話しますよ。

続けて話されていましたか？

■：それでもないですけど、同学の間では良く話します。例えば同窓会とか。

光復時期では、特に日本語を話してはいけないと言うのは無かったんですか？

■：なかったですね。

しかし、その様な環境が無かったという事ですね？

■：でも、あの時の政府の制度も、あまり歓迎しないですよ。日本語を話すのは。

戒厳令があった時と、それが解かれた時の、前後の日本語使用は変わったと思いますか？

■：それは関係ないですよ。それに、日本語の必要も特に無かったですよ。私はね、日本の人と往来をするでしょ。あの人達が遊びに来るとか、私達が遊びに行った時に、良く一緒になるんですよ。その時がみんな日本語ですよ。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：ないです。日本語を再学習するより、もう話せるからね。

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：雑誌は読みますけど、図書館でなくて、友達と交換をしているから、私は本を買ったこと無いからね。昔は、日本の雑誌が入ってくるでしょ。少し好奇心があって、買ってみたいはしたけどね。今はないですね。

日本語の本や雑誌を読まれる以外に日本語を使用されることはありますか？

■：家内とよく話しますよ。あとは同窓会ぐらいです。

高齢者を対象とした老人サービスセンターや長青学苑で学習された事がありますか？

■：そういう場所は分かりますけれど、私は行っていません。しかし、家内は行っています。

どのような授業を増設したら参加を試みようと思いますか？

■：行きたいと思いませんね。私はもう 85 歳ですよ。

日本語の歌を歌われますか？

■：歌わないですけど、良く聞きますよ。日本の演歌をね、寝る時に枕元において聞きますね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：家庭内では少し話します。でも台湾語が多いですね。

今の台湾における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：あまりないですよ。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いますか？ (Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？)

■：私は賛成します。それはいい事ですね。老人大学で広げたほうが速いですよ。入ったらね、日本語の分かる人が多いと思いますよ。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：話さないですね、どの様に思っているのかも聞いたことないです。

C5 さん

何歳まで日本語を正式に学ばれましたか？

■：女学校 1 年まで日本語を習っていました。その後は光復です。

終戦後の光復時期に日本語の使用で限られたことはありますか？

Ex:学校や仕事の場、または私的ににおける生活…

■：日本語をずっと使用しています。どんな時でも使用しています。注意された事はありません。自由自在です。光復当時は殆ど日本語を使っていました。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：ありませんね。だけど使っています。

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：読むけどね、最近は目が悪くなったから、年も年だから。

高齢者を対象とした老人服务中心や長青学苑で学習された事がありますか？

■：もう 17 年も前から行っています。ずっと。それに、私のクラスメイトは平均 80 ですね。最低は 75 以上です。80 いくつ、90 歳もいます。

日本語関連連のクラス、またはカラオケのクラスに通われた事がありますか？

■：老人大学では、英語に入っています。日本語にクラスもありますけど、私は行っていません。まあ、クラスメイトは、そう言う会がありますけど、私は行きません。だけど、日本語の歌は歌います。カラオケじゃなくて、合唱団ね。クラスの合唱団が週に 1 度あります。そこは殆どが日本語の歌ですね。殆どが日本語教育だから、日本語の歌ばかり歌っています。

高齢者を対象とした、学習内容や方法をどの様に思いますか？

■：日本語に関する授業は、あまりありませんね。でもね、年寄りの集まりで、日本語が話せるからいいと思いますよ。

今通われている授業の他に、日本関連の科目で、歴史、地理、または文化などの授業がありましたら、通われたいと思いますか？

■：そんな時間ありませんからね。体力的に問題なかったら、行ってもいいですよ。でもね私達のようにね、日本語教育を受けている人は、もう皆、80オーバーしています。それで段々、人数がすくなっていますからね、あまり深入りの日本語は…

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：主人とは日本語で話していますね。周囲の環境ではないけどね、老人大学で日本語を話す時があります。

今の台湾における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：今住んでいる、この環境は日本語を使う環境じゃないですね。でもこのままでいいと思いますね。友達といる時は日本語を使っていますから。皆、日本語教育ですからね。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いますか？ (Ex:今住んでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？)

■：いいと思いますね。

自分の子供が幼い頃に日本語を教えましたか？ (今は話されていますか？)

■：子供には、教えるはいませんけど、家の孫はね、ニュージーランドのオークランド大学でね、日本語も学んでいます。スラスラですよ。今は Skype で話しますよ。もう一人の孫も今は高校生でね、日本語の補習班に行っています。

C6 さん

終戦後の光復時期に日本語の使用で限られたことはありますか？

Ex:学校や仕事の間、または私的における生活…

(また解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じま

したか?)

■：話していけないよ。皆日本語を話させない、皆中国語、国語、それから台湾語を話していた。そして今はね、中国語、日本語、台湾語の何を話してもかまわない。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：差不多都是國語啦。就是中國語啦。

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：あまり読みません。モデルの本を読むだけ。本屋で買って、今の流行のデザインとかね、時々見るの。それから図書館でも読むよ。日本語の雑誌もあるし。

高齢者を対象とした老人服务中心や長青学苑で学習された事がありますか？

■：それは分かるけどね、あまり行かない。

どのような原因で行かれないのですか？

■：あまり歩きたくない。年をとると運動とかねあまり好かない。

例えば老人服务中心で、カラオケの授業がありますが、友人と一緒にいきたいと思いませんか？

■：カラオケはね以前は上手だったけどね、今は喉嚨が、いつも咳をするでしょ。喉嚨が良くないからね。でもね状態が良かったら、参加してみたい。

どのような授業を増設したら参加を試みようと思いますか？

■：年が行っているからね。分かる所はね不需要再複習啦。年取ったらねあまり動きたくない。それにあまりそんなの好きじゃない。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：ありません。全然無いよ。子供みんな英語、広東語、それから中国語、台湾語、あまり日本語に触れない。

今の台湾における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：テレビで日本語話している番組がある。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いませんか？（Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？）

■：環境があれば、あんた言っても聞ける、私言ってもあんた聞けるからね、グループあれば参加してもいい。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：話しませんよ。

C7 さん

終戦後の光復時代に日本語の使用で限られたことはありますか？

Ex:学校や仕事の場、または私的における生活…

（また解嚴される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？）

■：家ではね、主人がね、いつも言う。いつでも話している。友達でね、日本語教育の場合はね、皆日本語で話している。仕事でも日本語を使っていたからね、途切れた事はないです。戒嚴令とかね、日本語限られない。そんなの無いです。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：再学習はないね。以前は日本人、私の家に来てね仕事をしているの。撮影の部分をやっているからね、一ヶ月にね何回か来ますよ。

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：読んでいますよ。

本屋さんや図書館に行かれますか？

■：行きます。一ヶ月に一回ぐらいは行きます。友達から借りますけどね、あまり本屋さんで買いませんね。

高齢者を対象とした老人サービスセンターや長青学苑で学習された事がありますか？

■：あります。雙連教会に行きました。

何を主に習われましたか？

■：英語とかね、中国結び。

そこには日本語のクラスはありますか？

■：ありますよ。皆日本語を話します。学んでいる人もいますよ。

今も続けて通われていますか？

■：何年間も行っているけどね、今は、家で忙しいから行かない。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：家で話さないです。姉とは電話で話しています。

今の台湾（高齢者）における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：やっぱりね、年齢の差が大きいとね、話し合うのがね違う。若い人の話し方も違うでしょ。年取った人の方が話が通じるから、年上の方がいいんですよ。

同じ年齢層の人とでしたら日本語を話しますか？

■：話します。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いませんか？（Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？）

■：テレビをね、見てね聞いてね、やっぱり懐かしいんです。だからね、同じ日本語教育をした同じグループの人がね、近寄ったらね、いつも日本語では話す。懐かしいからね日本語は。

同窓会で日本語は使われていますか？

■：話していますよ。日本にも行っています。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：子供は聞いた事あると思います。ただ、あまり話さないです。

C8 さん

終戦後の光復時期に日本語の使用で限られたことはありますか？

Ex:学校や仕事の場、または私的における生活…

（また解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？）

■：別に、限られた事はないけどね。しかしね、公にある機関では限られています。だから私達も、公共の場所で日本語を避けた方が安全です。時に関係なく控えていました。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：別にありません。その時はやっぱり北京語で無いと駄目なんです。生徒とは皆中国語で話しています。

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex: 自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：私は家の中で日本語の本を読みます。図書館には行きません。

日本語の本や雑誌を読まれる以外に日本語を使用されることはありますか？

■：話す相手にもよりますがね、日本語が使える人と会ったら、日本語で話しますけど。

高齢者を対象とした老人服务中心や長青学苑で学習された事がありますか？

■：ええ、その様な所は知っていますが、行った事はありません。

どのような原因で行かれる（行かれない）のですか？

■：もう年だからね。それに授業内容で行けそうなものも無いからね。ただ、日本語で違う授業があったら考えて見ます。でもね、テレビでも色んな節目を見ているから、別にその様なところに行かなくても、十分だと思います。

どのような授業を増設したら参加を試みようと思いますか？

■：興味があったらいいけどね、行きたいとは思いませんね。遠いからね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：主人がいた時は日本語を話していました。家族とは台湾語と中国語ですね。孫は皆中国教育ですから。周りの環境で話せる人は少ないです。

今の台湾における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：日本語を使うことでね、今でもね時たま町とか、バス停でね、年寄りに出会います。そしたらね年よりは普通、家庭で話す相手が今のところ殆どいないんです。例えばね主人や奥さんをなくしたら1人になったでしょ、そして若い人には殆ど日本語が使えないから、家で話す機会が無いの。そして良くバス停やバスの中で、出会った事があるの。以前主人がおった時にね、私と主人がおった時にね日本語で話していると、向こうの方から話しかけてくるの。懐かし

くてね、やっぱり日本語で話したいの、と言う機会を作りたい、そういう人もおります。日本語を話す機会が少なくなったからね。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思えますか？（Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？）

■：広げてもいいと思います。そこに行く人はね、日本語を使って楽しむわけよ、もう年が行っているから。そして集まる人が殆ど同じ年齢でしょ、だから皆言葉が通じるからそれがやっぱり楽しみなんだ。やっぱり年取るとね。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：話せますよ。日本で留学をした事があるから。時々日本語で話すことがあります。

C9 さん

終戦後の光復時期に日本語の使用で限られたことはありますか？

Ex:学校や仕事の場、または私的における生活…

（また解厳される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？）

■：限られた事はないね。政府の関係でその中で、ある程度の間が、話をしはいけないと言っているけれど、我々としては全然相手にしていない。全般的には言わない事と政府は言っているけれど、ところが各自各自の家庭の関係もあるし、友達の関係で日本語を話す事もあるし、台湾語を話す人もおるし、北京語を話す人もおる。でもね公の場では北京語だね。台湾の政府で公の機関は一律北京語だな。日本語はなるべく避けた方がいい。政府の連中は大陸から来ている人が多いからだから皆北京語に傾いている。

戒厳令が解かれた前後の日本語使用で変化は見られましたか？

■：見られない。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：そう言うのは無い。日本語を使い続けてきたからね。

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：僕は図書館に行ったことがない。自分の家では見ているけどね。

高齢者を対象とした老人サービスセンターや長青学苑で学習された事がありますか？

■：行った事ないね。知りたくも無いよ。自分で生きて、学習をするだけだ。

どのような原因で行かれないのですか？

■：理由が無いね。趣味が無いから。自分の信念があるから、そこに依頼心がないですね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：家内と話しています。回りの環境は話す機会がありません。

今の台湾における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：台湾で日本語の環境と言ってもね。いつもテレビから聞いています。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いませんか？ (Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？)

■：台湾は台湾で日本とは違うからね、道端では台湾語か北京語で話すでしょ。それでもっと複雑になって来ているのは、大陸から色々と影響を受けているでしょ。だから今の台湾はね、連合国みたいだよ。だからこの社会で日本語を推敲するのは、大っぴらに出来ないわけよ。だからもしも日本語を広げなければね、老人ホームや語言中心みたいね所でね、推敲するわけよ。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母（祖父）が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはあり

ますか？

■：教えていないね。終戦したんだから。でもね、聞いていると思うよ。子供は敏感だからね。

C10 さん

終戦後の光復時代に日本語の使用で限られたことはありますか？

Ex:学校や仕事の場、または私的ににおける生活…

(また解嚴される前後における日本語の使用について、何か違いを感じましたか？)

■：終戦当時は無かった。宋楚瑜が新聞局長になった時に、日本語や台湾語が制限されたね。歌も歌ってはいけない。ラジオも日本語は駄目だったね。

李さんの戸籍は萬華区でしたが、行政区域における日本語の使用について、違いはありますか？

■：区域による違いは無いと思いますよ。個人の癖ならあると思うね。

進学や就職のために日本語を再学習することはありましたか？

■：なかったですね、もう普通からね話しているから。

日本語の本や雑誌、または新聞を読まれていますか？

Ex:自宅の他に図書館や特定の閲覧室で…

■：読みますよ。本屋さんはね、誠品、何嘉仁で色んな本がある。それからね、行天宮付近に小さな図書館がある。あそこにも行きます。

高齢者を対象とした老人服務中心や長青学苑で学習された事がありますか？

■：そういった場所は分かりますけど、私はね忙しくて行かれない。

どのような原因で行かれる（行かれない）のですか？

■：私は一ヶ月に一回、同窓会がある。また、水泳やダンスの倶楽部など、俱

楽部の活動が沢山あって、忙しいの。回る時間が無いね。

今は普段から日本語を話せる環境にいますか？

(家庭内、または周囲の環境)

■：日本語、台湾語、北京語をチャンポンで話していますね。話す相手によって、私と主人は台湾語と日本語のチャンポンです。兄弟、家族で良く日本語を話すから、使うチャンスが沢山ありますよ。自分達の集まりで良く話すから。

今の台湾における日本語の使用環境をどのように思いますか？

■：話さなくなったと思うね。だから老人大学に行っていると思う。私はチャンポンで話しているからね。

高齢者を対象とした、日本語の使用環境を深めたい、または拡大したいと思いますか？(Ex:今すんでいる区域における高齢者を対象とした日本語使用の環境を拡大する、または改善する考えについてどう思いますか？)

■：もちろんよ。それはいい事よ。老人倶楽部などいいと思いますよ。その環境を広げたらいいと思いますよ。

日本語は息子や孫に教えていますか？また、彼らは祖母(祖父)が日本語を話されていることに対して、どのように思われているか、聞いたことはありますか？

■：主人と話しているのを聞いているから、子供は、皆聞いて分かるよ。それから大きい子、2番目の子、皆話せる。日本の商社でやって、今は独立している。子供達はどの様に思っているか知らないけど、私達は子供達にね、日本と台湾は切っても切れない縁がある、だからね、もちろん自分の国の言葉、その次に英語、それから日本語とね、私達の子供は皆、マスターしている。だから皆話せます。